指定都市教育研究所連盟 第18次共同研究

変化の激しい社会を生き抜いていく子供たちの姿や思いに迫る

～今日的な教育課題に視点を当てて～

指定都市教育研究所連盟　編

指定都市教育研究所連盟　第 18 次共同研究

変化の激しい社会を生き抜いていく子供たちの姿や思いに迫る

―今日的な教育課題に視点を当てて―

指定都市教育研究所連盟　編

指定都市教育研究所連盟加盟機関

〈第 18 次（平成 27 年度～29 年度）共同研究取組年次　所長名〉◎：幹事長

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
札幌市教育センター	引地（ひきち）　秀美（ひでみ）	引地（ひきち）　秀美（ひでみ）	引地（ひきち）　秀美（ひでみ）
仙台市教育センター	今野（こんの）　孝一（こういち）	堤（つつみ）　祐子（ゆうこ）	三塚（みつつか）　修（おさむ）
さいたま市立教育研究所	竹居（たけい）　秀子（ひでこ）	竹居（たけい）　秀子（ひでこ）	◎千葉（ちば）　裕（ひろし）
千葉市教育センター	池田（いけだ）　亘宏（のぶひろ）	◎増澤（ますざわ）　保明（やすあき）	根本（ねもと）　厚（あつし）
川崎市総合教育センター	◎芹澤（せりざわ）　成司（せいじ）	芹澤（せりざわ）　成司（せいじ）	小松（こまつ）　典子（のりこ）
横浜市教育センター	長谷川（はせがわ）　祐子（ゆうこ）	長谷川（はせがわ）　祐子（ゆうこ）	直井（なおい）　純（あつし）
相模原市立総合学習センター	齋藤（さいとう）　嘉一（よしかず）	齋藤（さいとう）　嘉一（よしかず）	齋藤（さいとう）　嘉一（よしかず）
新潟市立総合教育センター	高地（たかち）　啓衛（けいえい）	津野（つの）　治彦（はるひこ）	津野（つの）　治彦（はるひこ）
静岡市教育センター	瀧浪（たきなみ）　泰（やすし）	瀧浪（たきなみ）　泰（やすし）	瀧浪（たきなみ）　泰（やすし）
浜松市教育センター	今西（いまにし）　成乃（しげの）	下鶴（しもづる）　志美（ゆきみ）	下鶴（しもづる）　志美（ゆきみ）
名古屋市教育センター	新井（あらい）　宏法（ひろのり）	新井（あらい）　宏法（ひろのり）	三浦（みうら）　友久（ともひさ）
京都市総合教育センター	中永（なかえ）　健史（たけし）	中永（なかえ）　健史（たけし）	中永（なかえ）　健史（たけし）
大阪市教育センター	林田（はやしだ）　国彦（くにひこ）	林田（はやしだ）　国彦（くにひこ）	岡田（おかだ）　和子（かずこ）
堺市教育センター	藤本（ふじもと）　慎也（しんや）	藤本（ふじもと）　慎也（しんや）	谷野（たにの）　敏子（としこ）
神戸市総合教育センター	竹下（たけした）　正明（まさあき）	中溝（なかみぞ）　茂雄（しげお）	中溝（なかみぞ）　茂雄（しげお）
岡山市教育研究研修センター	中島（なかじま）　陽子（ようこ）	中島（なかじま）　陽子（ようこ）	中島（なかじま）　陽子（ようこ）
広島市教育センター	市川（いちかわ）　昭彦（あきひこ）	市川（いちかわ）　昭彦（あきひこ）	市川（いちかわ）　昭彦（あきひこ）
北九州市立教育センター	太田（おおた）　敦生（あつお）	太田（おおた）　敦生（あつお）	福嶋（ふくしま）　一也（かずや）
福岡市教育センター	相良（さがら）　誠司（せいじ）	相良（さがら）　誠司（せいじ）	深堀（ふかほり）　雅基（まさき）
熊本市教育センター	宮本（みやもと）　博規（ひろき）	宮本（みやもと）　博規（ひろき）	長尾（ながお）　秀樹（ひでき）

刊　行　の　こ　と　ば

新学習指導要領が平成29年度に公示され，移行期間を経て小学校では平成32年度から，中学校では平成33年度から全面実施されることになりました。各指定都市教育委員会，及び各学校におかれましては，新学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施に向け，検討を重ね，準備を進めていることと思います。

近年，知識・情報・技術をめぐる変化は加速度を増し，情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展しています。人工知能は飛躍的な進化を遂げ，自らの知識を概念的に理解し，思考し始めているとも言われています。しかし，人工知能がどれだけ進化し自ら思考できるようになったとしても，それはあくまでも与えられた目的の範囲内での処理であります。このような時代にあっては，子供たちは，予測できない変化に，主体的に向き合って関わり合い，その過程を通して，自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の作り手となっていけるようにすることが重要となります。

指定都市教育研究所連盟の共同研究では，これまで，それぞれの時代の教育課題を研究主題として取り上げ，都市に暮らす子供たちの実態や意識を調査し考察をしてきました。そして，その時代における教育課題の解決に向け，様々な提言を行ってきました。今回の第18次共同研究（平成27～29年度）は，第17次共同研究を継承しつつも，今日的な教育課題に視点を当て，全国の指定都市に居住する子供たちを対象に実態調査を行いました。過去54年間に及ぶ共同研究の成果を踏まえつつも，今日的な教育課題の解決につながる提言をしていきたいと考えます。

変化の激しい社会を生き抜いていく子供たちが，この急速な社会の変化に対応してたくましく成長し，明るい社会を形成していくためには，学校・家庭・地域社会が互いに連携し，新学習指導要領の動向を踏まえた「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、教育実践を積み重ねていくことが重要です。そこで，三者が今を生きる子供たちとどのように関わっていくことが大切なのかを示した本研究が，連盟加盟機関はもとより，広く活用されることを期待しています。

最後になりましたが，第18次共同研究の趣旨を理解し，御協力いただいた各指定都市の小・中学校の児童生徒の皆様や先生方に心から感謝を申し上げます。また，今次の共同研究を推進するに当たり，御尽力いただいた担当者の方々，研究を支えてくださった各教育センター（研究所）の関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成30年３月

指定都市教育研究所連盟幹事長
（さいたま市立教育研究所長）　　千葉　裕

目　　次

指定都市教育研究所連盟加盟機関

刊行のことば

● 序章　指定都市教育研究所連盟の共同研究　1

１　はじめに　ー共同研究のあゆみー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２　研究のスタートに当たって　ー第 18 次共同研究の方向性ー
３　研究の概要
４　本報告書の構成

● 第１章　家庭・地域社会における生活　5

第１節　家庭における基本的な生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　１－１　健康状態
　１－２　就寝時刻

第２節　家族との関わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　１－３　家庭生活の楽しさ
　１－４　家族との食事
　１－５　家族との会話
　１－６　家族とのコミュニケーション
　１－７　家庭での居場所
　１－８　家族からの承認

第３節　地域社会との関わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　１－９　コミュニケーションの方法
　１－10　地域の人との関わり方
　１－11　地域活動への参加
　１－12　外国の人との関わり方

家庭・地域社会における生活　考察とまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

● 第２章　家庭・地域社会における学習　20

第１節　家庭での学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　２－１　平日における家庭学習の時間
　２－２　家庭学習における家の人との関わり
　２－３　家庭学習における主体性
　２－４　家庭学習における情報機器の利用
　２－５　家庭学習に対する必要感

２－６　家庭学習の有用性

第２節　学習塾（家庭教師を含む）での学習・・・・・・・・・・・・・・・・27
２－７　学習塾（家庭教師を含む）で学ぶ頻度
２－８　学習塾に対する必要感

第３節　地域社会からの学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
２－９　地域の施設を利用して主体的に学ぶ機会
２－10　地域の人から学ぶ機会
２－11　地域の人から学ぶことの楽しさ

第４節　学校以外での全ての学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
２－12　学校以外での全ての学習の有用性
２－13　学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感

家庭・地域社会における学習　考察とまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・34

● 第３章　学校における生活　36

第１節　学校生活の楽しさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
３－１　学校生活の楽しさ

第２節　学校における基本的な生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
３－２　規範意識
３－３　公共性
３－４　役割に対する責任感

第３節　学校における人間関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
３－５　友だちから支えられた経験
３－６　友だちを支えた経験
３－７　他者理解（情意面）
３－８　他者理解（行動面）
３－９　自己解決
３－10　教師との関係

第４節　学校における自尊感情・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
３－11　行事への参画意識
３－12　自己有用感
３－13　自己肯定感

学校における生活　考察とまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

● 第４章　学校における学習　52

第１節　授業の受けとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53

４－１　授業に対する理解度
４－２　授業に対する満足度

第２節　授業の受けとめを形づくるもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
４－３　授業の進め方
４－４　教師の授業での工夫
４－５　学ぼうとする学級の雰囲気

第３節　肯定的な学習経験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
４－６　わかった経験
４－７　教師から認められた経験
４－８　友だちから認められた経験

第４節　学習に対する意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
４－９　学習への取組の現状
４－10　自己の可能性
４－11　学校の学習内容の有用性
４－12　学校の学習方法の有用性

学校における学習　考察とまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65

● 終　章　子供たちの姿や思いは変わったのか　67

１　子供たちの「家庭・地域社会における生活」・・・・・・・・・・・・・・67
２　子供たちの「家庭・地域社会における学習」
３　子供たちの「学校における生活」
４　子供たちの「学校における学習」
５　終わりに

● 資　料　70

「小・中学生のアンケート調査」単純集計結果・・・・・・・・・・・・・・70

指定都市教育研究所連盟　第 18 次共同研究担当者

序　　章
指定都市教育研究所連盟の共同研究

1　はじめに　－共同研究のあゆみ－

指定都市教育研究所連盟は，昭和 26 年に発足した五大都市教育研究所連盟所長協議会（横浜・名古屋・京都・大阪・神戸）を前身とし，昭和 38 年に五大都市教育研究所連盟へ改組，昭和 41 年からは名称を指定都市教育研究所連盟と改め，現在 20 指定都市が加盟している。

指定都市教育研究所連盟による共同研究は，昭和 38 年に第 1 次共同研究がスタートし，今次で第 18 次を迎えた。各次共同研究では，都市に暮らす子供たちの実態把握を通して，教育の今日的課題を解明し，学校・家庭・地域社会における教育の在り方や子供たちとの関わり方などについて提言してきた。

【これまでの研究主題等一覧】

第 1 次「教師と非行中学生」(S38～40)	第 11 次「子どもの社会認識をさぐる」(H6～8)
第 2 次「子どもの生活と教育」(S41～43)	第 12 次「子どもがとらえた教育環境」(H9～11)
第 3 次「都市の教育問題」(S44～48)	第 13 次「教育改革の中の子どもたち」(H12～14)
第 4 次「地域社会における子どもと生活」(S49～50)	第 14 次「教育の確かな営みを推し進めていくために」(H15～17)
第 5 次「現代の子どもの意識と行動」(S51～53)	第 15 次「今を生きる子どもたちの姿や思いを探る」(H18～20)
第 6 次「都市の子どもの自己形成」(S54～56)	第 16 次「指定都市の子どもたちの姿や思いを探る」(H21～23)
第 7 次「子どもの学校観」(S57～59)	第 17 次「これからの時代を生きる子供たちの姿や思いを探る」(H24～26)
第 8 次「子どもと環境」(S60～62)	（※第17次より「子供」と表記する）
第 9 次「子どもと未来」(S63～H2)	
第 10 次「揺れる子どもの自己像」(H3～5)	

2　研究のスタートに当たって　－第 18 次共同研究の方向性－

指定都市教育研究所連盟の共同研究は，これまで，それぞれの時代の中で提起された教育課題を柱に，都市に暮らす子供たちの姿や思いを探り，その時代における教育課題の解決に向けた有意義な提言を行ってきた。

第 18 次共同研究は，これまでの研究の成果を踏まえ，調査問題を精査するとともに，新たに今日的な教育課題に関する調査を加え，学校・家庭・地域社会と子供たちの生活や学習の関わりの状況を把握することを主たる目的とする。

(1)　第 14～17 次（平成 15～26 年）との経年比較

指定都市教育研究所連盟が独自に設定してきた切り口に基づいた調査を継続することで，今を生きる子供たちの姿や思いをさらに明確にすることができるのではないかと考えた。

(2)　今日的な教育課題についての実態把握

指定都市教育研究所連盟には，これまで 51 年にわたる研究の成果やデータの蓄積がある第 18

次共同研究では，過去の共同研究の成果を踏まえつつ，「主体的な学び」「自己有用感」に視点を当てて調査を行うことで，今日的な教育課題に対する都市に暮らす子供たちの実態を把握したいと考えた。

第 14 次共同研究から始まった経年比較に，この新たな視点を加えつつ，学校・家庭・地域社会の子供たちへの関わり方，三者の連携の在り方等，今後の可能性について提言していきたい。

３　研究の概要

(1)　研究主題

変化の激しい社会を生き抜いていく子供たちの姿や思いに迫る

―今日的な教育課題に視点を当てて―

(2)　研究の内容

①　第 18 次共同研究は，第 17 次共同研究の成果を踏まえつつも，新たに今日的な教育課題である「主体的な学び」や「自己有用感」に関する調査を加えることとし，学校・家庭・地域社会と子供たちの生活や学習の関わりの状況を把握することを主たる目的とする。

②　設問はできるだけ客観的事実として提示できるものとし，選択肢は時間・程度・頻度・有無あるいは内容を設定するなど比較しやすいものにする。原則として，調査問題は第 17 次共同研究の設問を引き継ぎ，過去の設問の内容，時代の変化に合わなくなったものや変化や相関が低いものについて見直す。そのため，第 17 次共同研究の調査問題については，十分精査するものとする。

③　第 18 次，第 19 次の共同研究において，経年比較により指定都市の子供の実態を把握し，学校・家庭・地域社会における教育の在り方や子供たちとの関わり方などの提言をすることができるような内容とする。

(3)　研究の方法

①　調査方法：質問紙法による実態および意識調査

②　調査対象：20 指定都市に在籍する小学校第４学年，第６学年，中学校第２学年

③　サンプル数：一学年あたり 8,000 人（一都市あたり 400 人以上），全体 24,000 人（同 1,200 人以上）

※19 都市で実施。平成 28 年 4 月に発生した熊本地震による影響により，熊本市については，実施していない。

(4)　調査の観点と分担

研究の内容及び方法に沿って，次の４観点を設定し，各ブロックで分担して研究を進める。

章	観　　点		担当ブロック	設問数
1	家庭・地域社会	家庭・地域社会における生活	東ブロック（川崎，横浜，相模原，静岡，浜松）	12
2		家庭・地域社会における学習	西ブロック（名古屋，京都，大阪，堺，神戸）	13
3	学校	学校における生活	南ブロック（岡山，広島，北九州，福岡，熊本）	13
4		学校における学習	北ブロック（札幌，仙台，さいたま，千葉，新潟）	12

(5)　研究の経過

【１年次（平成 27 年度）】

計画立案，調査方法の共通理解，観点のとらえ作成，調査問題の検討，分析の視点作成
調査問題原案とりまとめ

【２年次（平成 28 年度）】

調査問題の確定，データ分析についての共通理解，刊行物の体裁の確定
単純集計結果公表についての共通理解，観点のとらえ確定，調査実施とデータ分析
観点のとらえ（各章の扉）確定，設問ごとの調査結果作成，各章の考察とまとめ作成
データ処理については，福岡教育大学 生田准教授に依頼

【３年次（平成 29 年度）】

観点のとらえ（各章の扉）・設問ごとの調査結果・各章の考察とまとめについての確認
序章・終章の作成，最終稿確定，第 19 次共同研究についての共通理解，概要版作成

４　本報告書の構成

本報告書は，主に「家庭・地域社会における生活」「家庭・地域社会における学習」「学校における生活」「学校における学習」の四つの章立てで構成されており，各章の観点のとらえについては，各章の扉に記載した。

各章は，設問ごとの調査結果の分析を１ページでまとめた。上段には，「全体」及び「小４」「小６」「中２」による単純集計結果（帯グラフ）及び継続設問等における経年比較データ（表）から読み取れる事実を記した。また，下段には，相関係数等を用いながら，多面的な分析を行い，提言がより客観的なデータの裏付けから論じられるよう，二つの設問の回答結果を組み合わせたクロス集計表を掲載し，設問相互の関係を探った。

各章の考察とまとめについては，今後報告書を広く活用していただけるように，調査結果の事実に基づきながらも提言性のあるものにした。

なお，本調査を統計学的により確かなものにしていくために，福岡教育大学の生田淳一准教授の御指導・御助言を受けながら分析を進めた。生田准教授には，今次共同研究の主旨を御理解いただき，的確なアドバイスや正確なデータ処理をしていただいた。

【単純集計について】

単純集計とは，回答者全体の中で何人がその選択肢を選んだかを単純に比率で示したものである。全体と各学年の集計結果を見ることができ，全体の傾向と各学年の傾向や，学年進行による傾向の変化をつかむことができる。

各章は，各設問とも，全体の集計結果を一段目に，「小４」の集計結果を二段目に，「小６」の集計結果を三段目に，「中２」の集計結果を四段目に記したグラフを掲載し，学年ごとの比較ができるようにした。ただし，「新規」の設問については，経年比較ができないため「継続」及び「設問を修正」「選択肢を修正」「設問・選択肢を修正」の設問について経年比較をしている。

【クロス集計について】

クロス集計とは，二つの質問項目をかけ合わせて，相互の関係を明らかにするための集計方法である。

右表は，表側（縦軸）の《友だちを支えた経験：設問 31》に，表頭（横軸）の《友だちから支えられた経験：設問 30》という設問結果をかけ合わせ，得られたものである。例えば，この表の場合は《友だちを支えた経験：設問 31》別でみた《友だちから支えられた経験：設問 30》の結果と見ることができる。具体的には友だちを支えた経験が，「よくある」子供の 93.3%が，友だちから支えられたことが「よくある」または「ときどきある」と回答していることがわかる。ここから，「友だちを支えた経験がよくある子供は，友だちから支えられた経験がある」という子供の実態が推察されるのである。各設問の分析については，この手法を用いているので参考にしていただきたい。

友だちを支えた経験と友だちから支えられた経験との関連（%）

設問 30 ＼ 設問 31	（友だちから支えられた経験）よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
（友だちを支えた経験）よくある	70.4	22.9	4.7	2.1
ときどきある	27.3	58.7	11.7	2.3
あまりない	7.3	42.2	43.6	6.9
まったくない	6.8	13.1	25.4	54.7

《資料：指定都市教育研究所連盟のあゆみ》

昭和 26 年	横浜市・名古屋市・京都市・大阪市・神戸市によって五大都市教育研究所連盟所長協議会が発足
38 年	五大都市教育研究所連盟に改組，第 1 次共同研究開始
41 年	北九州市が加盟，指定都市教育研究所連盟と名称変更
47 年	福岡市加盟
48 年	川崎市加盟
53 年	札幌市加盟
55 年	広島市加盟
平成 4 年	千葉市加盟
5 年	仙台市加盟
15 年	さいたま市加盟
16 年	静岡市加盟
18 年	堺市加盟
19 年	新潟市加盟
21 年	岡山市加盟
22 年	相模原市，浜松市加盟
24 年	熊本市加盟

＊研究主題については，序章 p. 1 を御参照ください。

第１章
家庭・地域社会における生活

本章では，「家庭における基本的な生活」「家族との関わり」「地域社会との関わり」の３点から，子供たちの家庭や地域社会での生活の現状とそれが学校での学習や生活とどのように関係しているのかを探っていきます。
そして，社会全体で教育の向上に取り組むために，学校と家庭・地域社会がどのように連携し，協力していけばよいかについて提言します。

第 18 次共同研究の研究主題は，「変化の激しい社会を生き抜いていく子供たちの姿や思いに迫る」である。第 17 次共同研究の成果を踏まえつつ，新たに今日的な教育課題である「主体的な学び」や「自己有用感」に関する調査を加え，学校・家庭・地域社会と子供たちの生活や学習の関わりの状況を把握することを主たる目的とした。

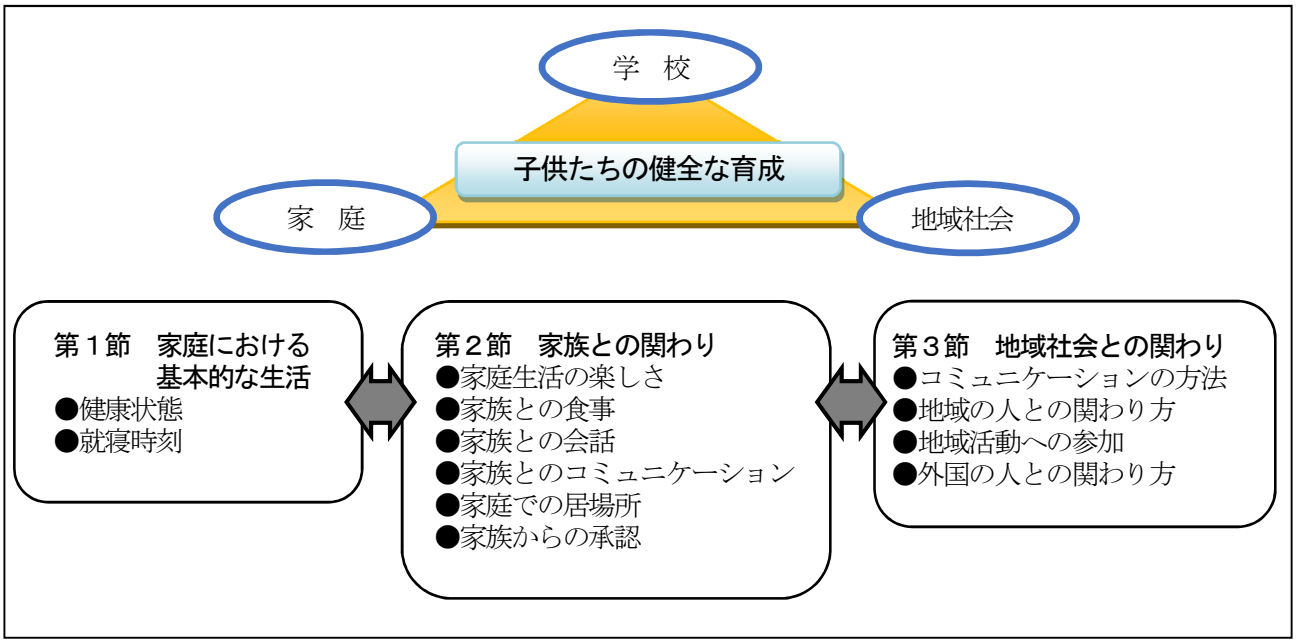
なお，第１章「家庭・地域社会における生活」においては，人の役に立った，人から感謝された，人から認められた，という「自己有用感」は，自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられる「自己肯定感」から生まれると捉えた。

そこで，本章では，研究主題を踏まえ家庭・地域社会での子供たちの現状と学校生活における「自己肯定感」との関連を探るための設問を設定した。

現在の子供たちに，こうした社会性に結び付く「自己肯定感」が，家庭や地域社会の中で育まれているかについて検証したい。

本章の構成は，これまでの経年変化も考慮し，「家庭における基本的な生活」「家族との関わり」「地域社会との関わり」の三つの切り口を設定した。まず，「家庭における基本的な生活」では，健康状態や就寝時刻など基本的な生活についての実態を継続して探る。次に，「家族との関わり」では，家庭生活の楽しさや家族との食事や会話の実態を継続して探り，家族とのコミュニケーション，家庭での居場所，家族からの承認の視点を増設した。さらに，「地域社会との関わり」では，友だちとのコミュニケーションの方法及び地域や外国の人との関わり方や地域活動への参加状況について探る。

分析に当たっては，家庭・地域社会における生活に関する子供たちの実態や意識を明らかにし，子供たちの健全な育成のための，学校・家庭・地域社会それぞれの果たす役割と連携や協力の在り方について提言する。



「家庭・地域社会における生活」の調査構造

第１節　家庭における基本的な生活

１－１　健康状態

＜設問１＞あなたは，元気に生活していますか。

図１－１　健康状態（設問１）

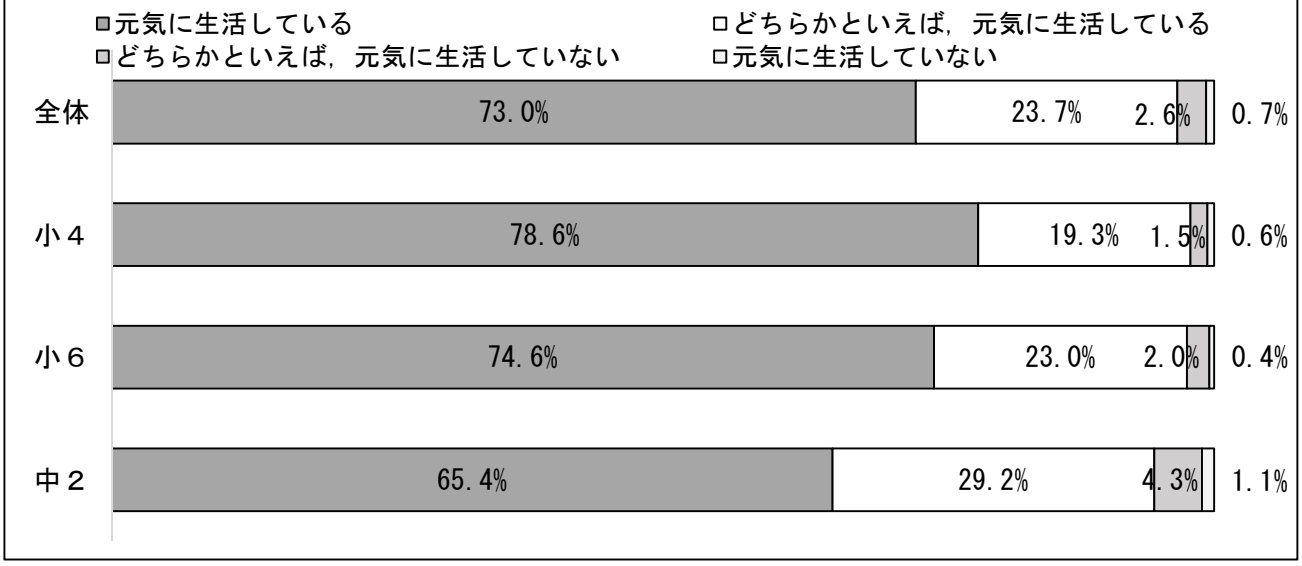


図１－１は，《設問１》の集計結果である。全体では，健康に関して，「元気に生活している」と回答した割合は，73.0％で最も高い。また，「元気に生活していない」と回答した割合は，0.7％で最も低い。

学年別では，「元気に生活している」と回答した割合は小４で78.6％，小６で74.6％，中２で65.4％となっており，学年が進むにつれて減少している。中２においては，「どちらかといえば，元気に生活していない」と「元気に生活していない」を合わせた割合は，5.4％であり，20 人に１人の割合で，元気に生活していないという状況がみられる。

平成19年度，平成22年度，平成25年度の調査と比較すると，学年が進むにつれて減少する傾向は変わらない。しかし，「元気に生活している」と回答した割合は，平成19年度で63.1％，平成22年度で67.4％，平成25年度で69.1％，平成28年度で73.0％となっており，年々増加傾向にある（表１－①）。

表１－①　これまでの調査で「元気に生活している」と回答した割合（%）

H19	H22	H25	H28
63.1	67.4	69.1	73.0

○　健康状態と自己肯定感との関連

表１－１は，本設問と《自己肯定感：設問38》をクロス集計した結果である。

「元気に生活している」と回答した子供の82.8％が，学校生活の中で，まわりの人から「大切にされていると思う」または「どちらかといえば，大切にされていると思う」と回答している。

一方，「どちらかといえば，元気に生活していない」と回答した子供の71.3％が，「どちらかといえば，大切にされていると思わない」または「大切にされていると思わない」と回答し，「元気に生活していない」と回答した子供の80.0％が，「どちらかといえば，大切にされていると思わない」または「大切にされていると思わない」と回答している。

表１－１　健康状態と自己肯定感との関連（%）

設問38 ＼ 設問１	大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思わない	大切にされていると思わない
元気に生活している	33.0	49.8	12.5	4.7
どちらかといえば，元気に生活している	8.1	50.6	29.5	11.8
どちらかといえば，元気に生活していない	5.3	23.4	37.4	33.9
元気に生活していない	8.5	11.5	16.0	64.0

１－２　就寝時刻

＜設問２＞あなたは，次の日に学校があるとき，だいたい何時ごろまでに寝ますか。

図１－２　就寝時刻（設問２）

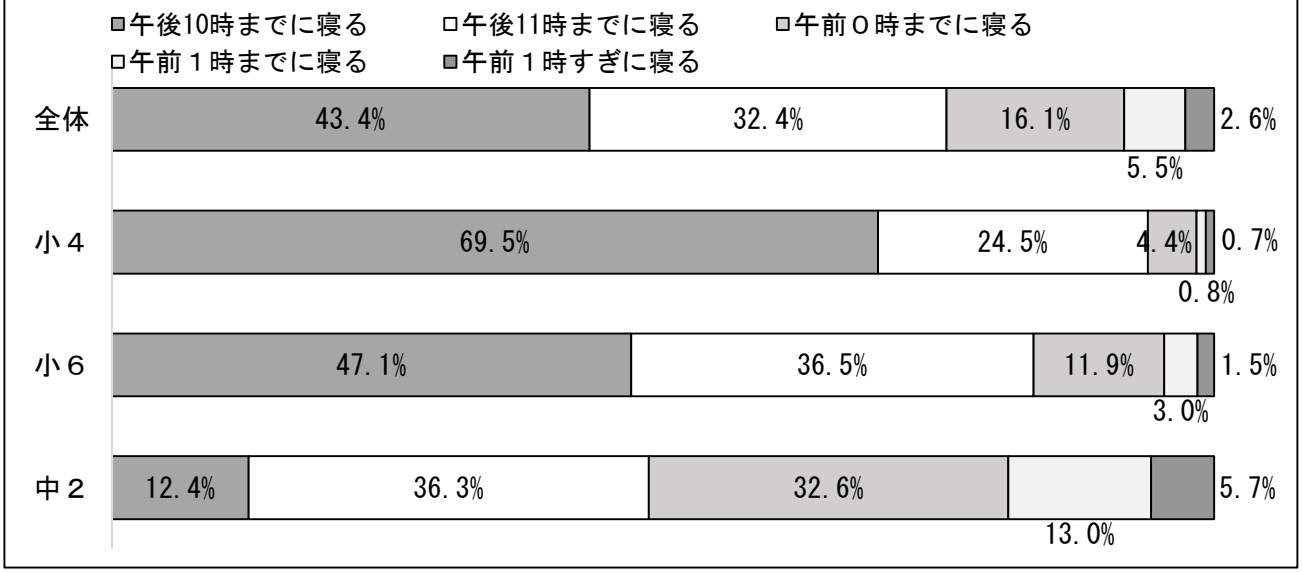


図１－２は，《設問２》の集計結果である。全体では，就寝時刻が「午後 10 時まで」と回答した割合は 43.4％で最も高い。

学年別では，小４と小６で就寝時刻が「午後 10 時まで」と回答した割合が，それぞれ 69.5％，47.1％と最も高く，中２では就寝時刻が「午後 11 時まで」「午前０時まで」と回答した割合が，それぞれ 36.3％，32.6％である。

平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，就寝時刻が「午後 10 時まで」と「午後 11 時まで」を合わせた割合は，平成 19 年度で 73.1％，平成 22 年度で 76.8％，平成 25 年度で 73.4％，平成 28 年度で 75.8％となっており，いずれの調査でも 75％程度で推移している（表１－②）。

表１－②　これまでの調査で就寝時刻が「午後 10 時まで」「午後 11 時まで」と回答した割合（％）

H19	H22	H25	H28
73.1	76.8	73.4	75.8

○　就寝時刻と家庭学習における情報機器の利用との関連

表１－２は，本設問と《家庭学習における情報機器の利用：設問 16》をクロス集計した結果である。

就寝時刻が「午後 10 時まで」と回答した子供の 38.9％が，家で勉強するとき，情報機器を「まったく使わない」と回答し，最も高い割合である。

一方，「午前０時まで」「午前１時まで」「午前１時すぎ」に就寝している子供で，情報機器を「よく使う」と「ときどき使う」の回答を合わせた割合は，それぞれ 60.5％，66.3％，71.8％であり，就寝時刻が遅い子供ほど家庭学習において情報機器を利用する割合は増加している。

表１－２　就寝時刻と家庭学習における情報機器の利用との関連（％）

設問 16 ＼ 設問２	よく使う	ときどき使う	あまり使わない	まったく使わない
午後 10 時まで	16.1	22.1	22.9	38.9
午後 11 時まで	21.2	28.7	23.6	26.4
午前０時まで	28.4	32.1	21.4	18.1
午前１時まで	36.1	30.2	19.6	14.2
午前１時すぎ	48.3	23.5	11.0	17.2

第２節　家族との関わり

１－３　家庭生活の楽しさ

＜設問３＞あなたは，家での生活が楽しいですか。

図１－３　家庭生活の楽しさ（設問３）

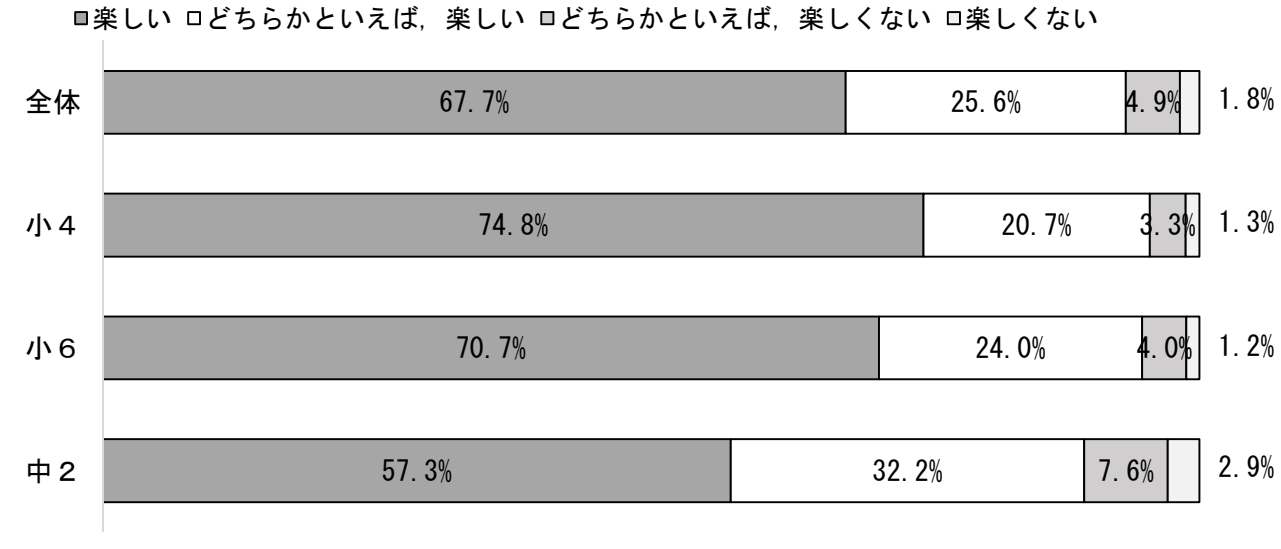


図１－３は,《設問３》の集計結果である。全体では，家での生活が「楽しい」と回答した割合が最も高く，67.7%である。「どちらかといえば，楽しい」と回答した割合の 25.6%を合わせると，93.3%の子供が肯定的な回答をしている。また，「どちらかといえば，楽しくない」と「楽しくない」を合わせると，6.7%となっている。

学年別では，家庭生活が「楽しい」と回答した割合が小４で 74.8%，小６で 70.7%，中２で 57.3%となっており，学年が進むにつれて「楽しい」と回答した割合は減少している。中２においては，「どちらかといえば，楽しくない」と「楽しくない」と回答した割合を合わせると 10.5%であり，10 人に１人の割合で，否定的な回答をしている。

平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，学年が進むにつれて，家での生活が「楽しい」と回答した割合が減少する傾向は変わらない。しかし,「楽しい」と回答した割合は,平成 19 年度で 58.0%，平成 22 年度で 64.8%，平成 25 年度で 65.2%，平成 28 年度で 67.7%となっており，年々増加傾向にある（表１－③）。

表１－③　これまでの調査で家庭生活が「楽しい」と回答した割合（%）

H19	H22	H25	H28
58.0	64.8	65.2	67.7

○　家庭生活の楽しさと学校生活の楽しさとの関連

表１－３は，本設問と《学校生活の楽しさ：設問 26》をクロス集計した結果である。

家庭生活が「楽しい」と回答した子供の70.2%が，学校生活が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば，楽しい」と回答した23.8%と合わせると，家庭生活が「楽しい」と回答した子供の94.0%が，学校生活が「楽しい」または「どちらかといえば，楽しい」と回答している。また，家庭生活が「楽しい」と回答した子供の1.9%は，学校生活が「楽しくない」と回答している。

一方，家庭生活が「楽しくない」と回答した子供の29.1%が，学校生活が「楽しくない」と回答している。

表１－３　家庭生活の楽しさと学校生活の楽しさとの関連（%）

設問26 ＼ 設問３	楽しい	どちらかといえば，楽しい	どちらかといえば，楽しくない	楽しくない
楽しい	70.2	23.8	4.2	1.9
どちらかといえば，楽しい	41.1	45.3	10.2	3.5
どちらかといえば，楽しくない	31.7	37.4	20.2	10.7
楽しくない	31.5	23.4	16.0	29.1

１－４　家族との食事

＜設問４＞あなたは，家の人と食事をしていますか。

図１－４　家族との食事（設問４）

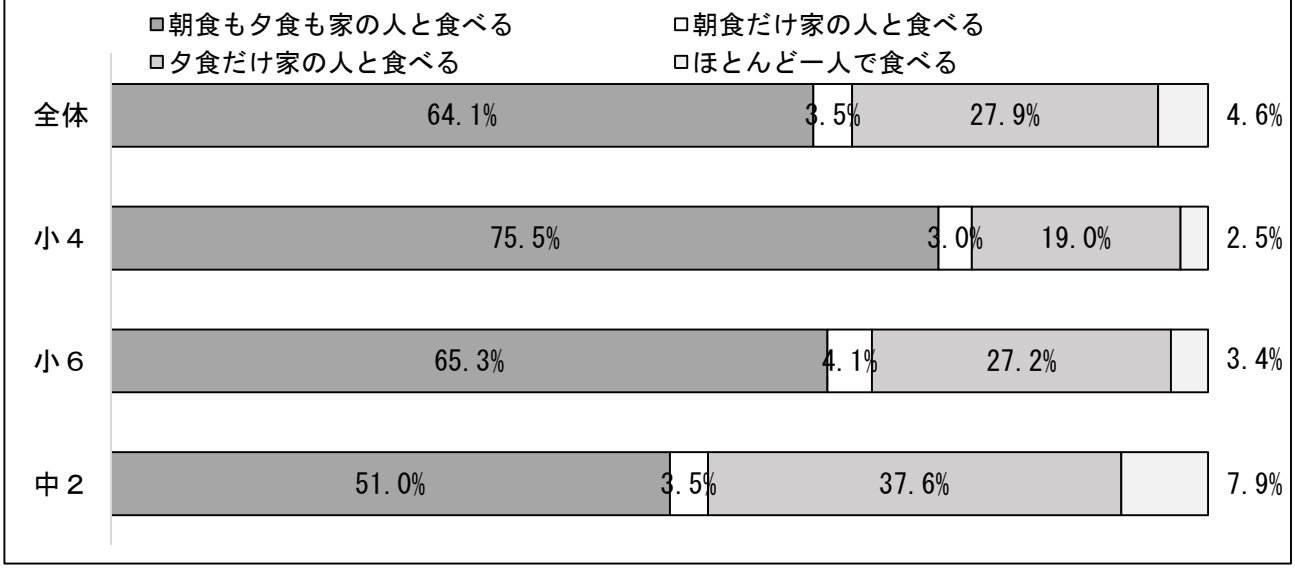


図１－４は,《設問４》の集計結果である。全体では,「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した割合が, 64.1%で最も高い。続いて「夕食だけ家の人と食べる」が 27.9%である。「朝食だけ家の人と食べる」は，3.5%であり，「ほとんど一人で食べる」と回答した割合の 4.6%よりも更に低い割合であった。

学年別では，「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した割合は，小４で 75.5%，小６で 65.3%，中２で 51.0%となっており，学年が進むにつれて減少している。

平成25年度の調査と比較すると「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した割合は，平成25年度で65.1%，平成28年度で64.1%となっており，1.0ポイント減少している（表１－④)。

表１－④　これまでの調査で家族との食事を「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した割合（%）

H25	H28
65.1	64.1

○　家族との食事と家族からの承認との関連

表１－４は，本設問と《家族からの承認：設問８》をクロス集計した結果である。

「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した子供の 46.9%が，家の人からほめられることが「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した40.0%と合わせると，「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した子供の86.9%が，家の人からほめられることが「よくある」または「ときどきある」と回答している。また，「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した子供の 2.6%が, 家の人からほめられることが「まったくない」と回答している。

一方，「ほとんど一人で食べる」と回答した子供の 42.2%が，家の人からほめられることが「あまりない」または「まったくない」と回答している。

表１－４　家族との食事と家族からの承認との関連（%）

設問４＼設問８	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
朝食も夕食も家の人と食べる	46.9	40.0	10.4	2.6
朝食だけ家の人と食べる	29.6	46.3	18.8	5.3
夕食だけ家の人と食べる	27.5	46.8	19.8	5.9
ほとんど一人で食べる	18.8	38.9	25.2	17.0

１－５　家族との会話

＜設問５＞あなたは，家の人と，毎日の生活のことや学校のことなどについて話をしていますか。

図１－５　家族との会話（設問５）

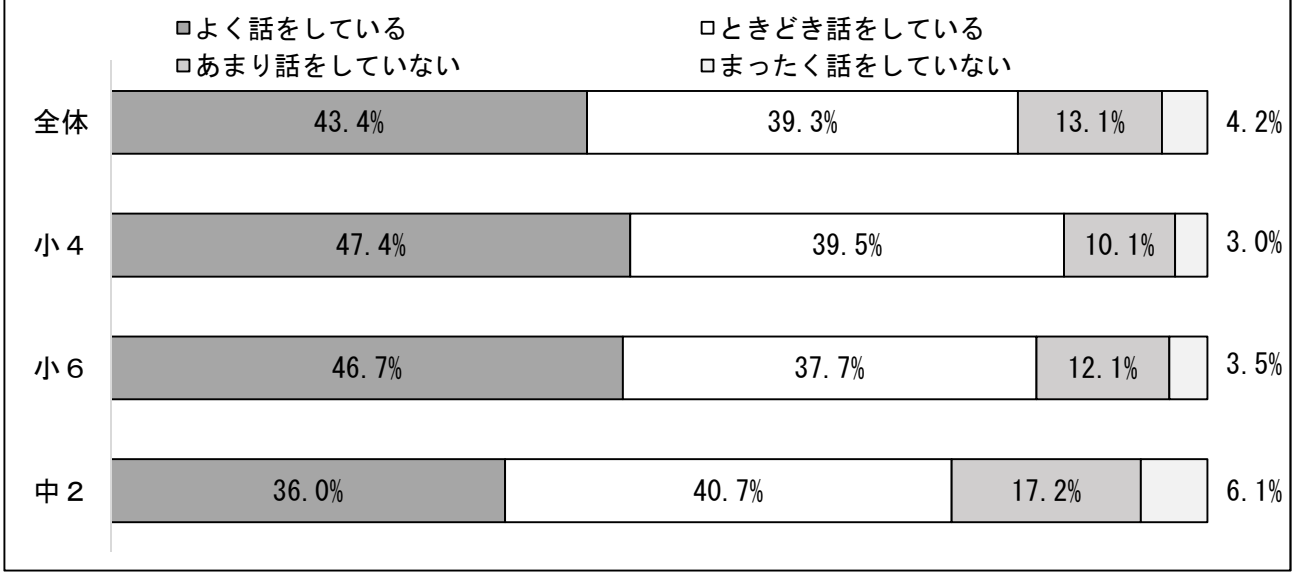


図１－５は，《設問５》の集計結果である。全体では，家の人と「よく話をしている」「ときどき話をしている」と回答した割合を合わせると，82.7%である。また，「まったく話をしていない」と回答した割合は，4.2%で最も低い。

学年別では，家の人と「よく話をしている」と回答した割合は小４で 47.4%，小６で 46.7%，中２で 36.0%となっており，学年が進むにつれて減少している。一方，家の人と「まったく話をしていない」と回答した割合は小４で3.0%，小６で3.5%，中２で6.1%と学年が進むにつれて増加している。

一概には言えないが，平成19年度，平成22年度，平成25年度の調査と比較すると，家の人と「よく話をしている」と回答した割合が，学年が進むにつれて減少する傾向は変わらない。しかし，「よく話をしている」と回答した全体の割合は増加している（表１－⑤）。

表１－⑤　これまでの調査で「よく話をしている」と回答した割合（%）
（H25から設問と選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
31.6	35.0	40.8	43.4

○　家族との会話と他者理解（行動面）との関連

表１－５は，本設問と《他者理解（行動面）：設問33》をクロス集計した結果である。

家の人と「よく話をしている」と回答した子供の71.4%が，学校生活の中で，自分とはちがう友だちの考えや意見を「聞いている」と回答している。「どちらかといえば，聞いている」と回答した25.2%と合わせると，家の人と「よく話をしている」と回答した子供の 96.6%が，「聞いている」または「どちらかといえば，聞いている」と回答している。

一方，家の人と「まったく話をしていない」と回答した子供の26.1%が，意見を「どちらかといえば，聞いていない」または「聞いていない」と回答している。

表１－５　家族との会話と他者理解（行動面）との関連
（%）

設問33 ＼ 設問５	聞いている	どちらかといえば，聞いている	どちらかといえば，聞いていない	聞いていない
よく話をしている	71.4	25.2	2.7	0.7
ときどき話をしている	53.8	40.0	5.0	1.2
あまり話をしていない	40.2	46.3	10.0	3.5
まったく話をしていない	35.9	38.0	15.2	10.9

１－６　家族とのコミュニケーション

＜設問６＞あなたは，困ったり悩んだりしたときに，家の人と相談しますか。

図１－６　家族とのコミュニケーション（設問６）

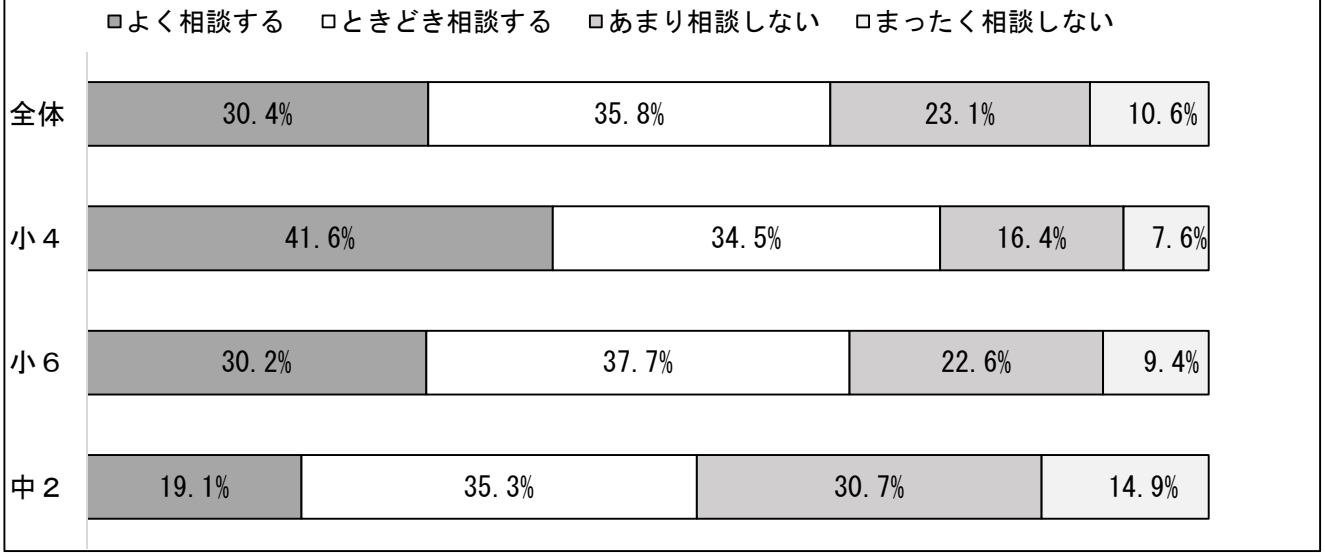


図１－６は，《設問６》の集計結果である。全体では，家の人と「よく相談する」「ときどき相談する」と回答した割合が，それぞれ30.4%，35.8%と高い。反対に「まったく相談しない」と回答した割合は，10.6%で最も低い。

学年別では，「よく相談する」と回答した割合は，小４で41.6%，小６で30.2%，中２で19.1%となっており，学年が進むにつれて減少している。中２では，「あまり相談しない」「まったく相談しない」と回答した割合を合わせると45.6%である。

なお，《設問６》は，平成28年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　家族とのコミュニケーションと自己肯定感との関連

表１－６は，本設問と《自己肯定感：設問38》をクロス集計した結果である。

困ったり悩んだりしたときに，家の人と「よく相談する」と回答した子供の42.3%が，学校生活の中で，まわりの人から「大切にされていると思う」と回答している。「どちらかといえば，大切にされていると思う」と回答した42.5%と合わせると，困ったり悩んだりしたときに，家の人と「よく相談する」子供の84.8%が，「大切にされていると思う」または「どちらかといえば，大切にされていると思う」と回答している。

一方，「まったく相談しない」と回答した子供の48.8%が，「どちらかといえば，大切にされているとは思わない」または「大切にされていると思わない」と回答している。

表１－６　家族とのコミュニケーションと自己肯定感との関連（%）

設問６ ＼ 設問38	大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思わない	大切にされていると思わない
よく相談する	42.3	42.5	10.5	4.7
ときどき相談する	22.9	56.3	15.8	5.0
あまり相談しない	15.3	52.3	24.3	8.2
まったく相談しない	15.0	36.2	25.7	23.1

１－７　家庭での居場所

＜設問７＞あなたは，家にいてホッとする（落ち着く）ときがありますか。

図１－７　家庭での居場所（設問７）

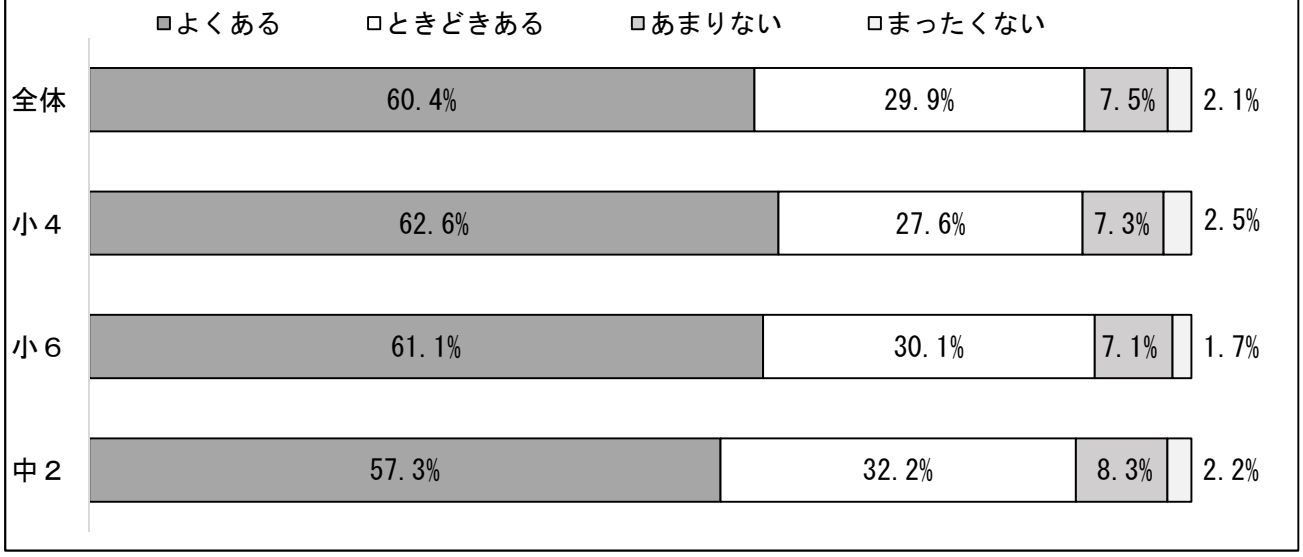


図１－７は，《設問７》の集計結果である。全体では，家にいてホッとするときが「よくある」と回答した割合は，60.4%で最も高い。「ときどきある」と回答した 29.9%を加えると，90.3%の子供が，家庭に居場所を感じていることになる。また，「まったくない」と回答した割合は，2.1%で最も低い。

学年別による差異はほとんどなく，どの学年も「よくある」「ときどきある」と回答した割合の合計は，ほぼ90%であった。一方で，およそ 10 人に１人は，ホッとする時が「あまりない」または「まったくない」と回答し，家庭に居場所を感じていない状態である。

なお，《設問７》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　家庭での居場所と家族とのコミュニケーションとの関連

表１－７は，本設問と《家族とのコミュニケーション：設問６》をクロス集計した結果である。

家にいてホッとするときが「よくある」と回答した子供の40.3%が，家族とのコミュニケーションで，困ったり悩んだりしたときに，家の人と「よく相談する」と回答している。「ときどき相談する」と回答した36.8%と合わせると，ホッとするときが「よくある」と回答した子供の77.1%が，家の人と「よく相談する」または「ときどき相談する」と回答している。

一方，家にいてホッとするときが「まったくない」と回答した子供の50.9%が，家の人と「まったく相談しない」と回答している。この割合は，家にいてホッとするときが「よくある」と回答した子供が，「まったく相談しない」と回答した6.4%と比べても，かなり高い数値となっている。

表１－７　家庭での居場所と家族とのコミュニケーションとの関連（%）

設問７＼設問６	よく相談する	ときどき相談する	あまり相談しない	まったく相談しない
よくある	40.3	36.8	16.5	6.4
ときどきある	17.2	38.1	33.5	11.2
あまりない	9.0	26.1	34.8	30.1
まったくない	11.5	13.3	24.2	50.9

１－８　家族からの承認

＜設問８＞あなたは，家の人から「がんばったね。」とか「よくやったね。」など，ほめられることがありますか。

図１－８　家族からの承認（設問８）

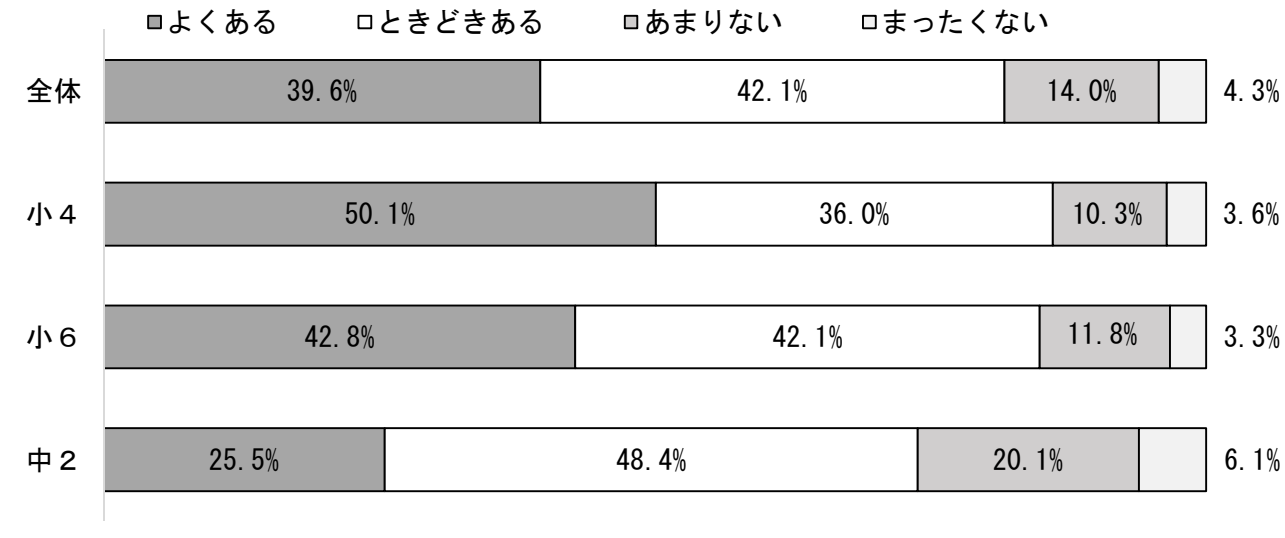


図１－８は，《設問８》の集計結果である。全体では，家の人からのほめられることが「よくある」「ときどきある」と回答した割合が，それぞれ 40%ほどを占め，この二つを合わせると，81.7%でなる。また，「まったくない」と回答した割合は，4.3%で最も低い。

学年別では，「よくある」と回答した割合は，小４で 50.1%，小６で 42.8%，中２で 25.5%となっている。また，これに「ときどきある」を合わせた割合は，小４で 86.1%，小６で 84.9%，中２で 73.9%と，いずれも学年が進むにつれて減少している。中２では，家の人からほめられることが「あまりない」「まったくない」と回答した割合が合わせて 26.2%となり，実に４人に１人が，家族からの承認を感じていない。

なお，《設問８》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　家族からの承認と友だちを支えた経験との関連

表１－８は，本設問と《友だちを支えた経験：設問 31》をクロス集計した結果である。

家の人からほめられることが「よくある」と回答した子供の48.9%が，学校生活の中で友だちを励ましたり，勇気づけたりすることが「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した40.4%と合わせると，家の人からほめられることが「よくある」と回答している子供の89.3%が，友だちを支えた経験があることになる。

一方，家の人からほめられることが「まったくない」と回答した子供の25.5%が，友だちを支えた経験が「まったくない」と回答している。この割合は，家族からほめられることが「よくある」と回答した子供が，友だちを支えた経験が「まったくない」と回答した2.1%と比べても，かなり高い数値となっている。

表１－８　家族からの承認と友だちを支えた経験との関連（%）

設問８＼設問 31	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よくある	48.9	40.4	8.6	2.1
ときどきある	24.2	52.7	19.5	3.7
あまりない	19.8	44.3	26.4	9.5
まったくない	19.8	32.0	22.7	25.5

第３節　地域社会との関わり

１－９　コミュニケーションの方法

＜設問９＞あなたは，友だちに連絡や相談事など伝えたいことがあるとき，どのような方法で伝えることが多いですか。

図１－９　コミュニケーションの方法（設問９）

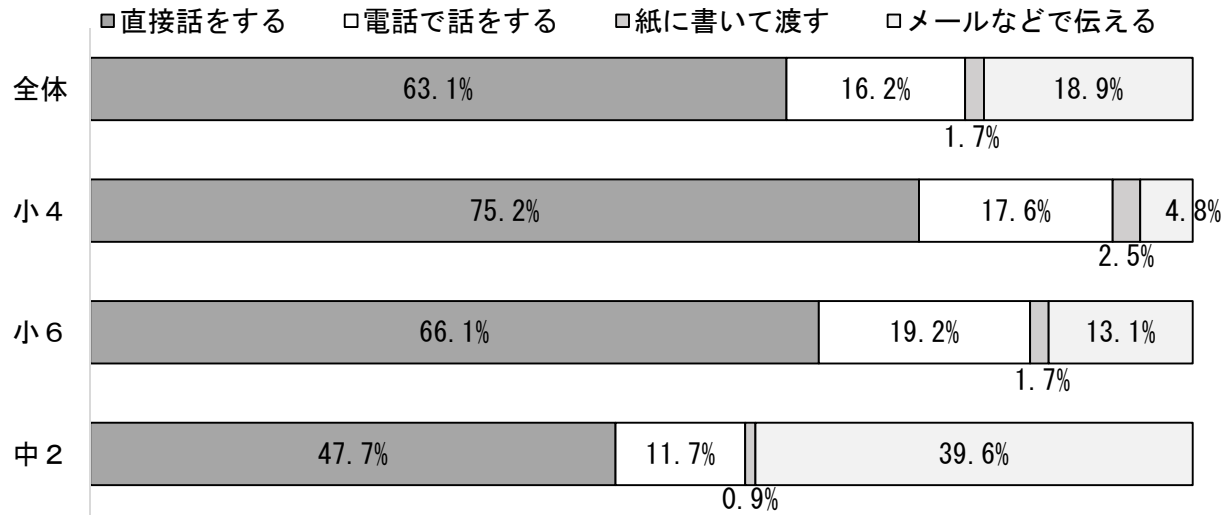


図１－９は，《設問９》の集計結果である。全体では，友だちに伝えたいことがあるとき，「直接話をする」と回答した割合は，63.1%で最も高い。次に「メールなどで伝える」と回答した割合は18.9%，「電話で話をする」と回答した割合は16.2%，「紙に書いて渡す」と回答した割合は，1.7%で最も低い。

学年別では，「直接話をする」と回答した割合は小４で75.2%，小６で66.1%，中２で47.7%となっており，学年が進むにつれて減少している。「電話で話をする」と回答した割合は小４で 17.6%，小６で 19.2%，中２で11.7%と中学生になると減少している。「メールなどで伝える」は小４で4.8%，小６で13.1%，中２で39.6%となっており，学年が進むにつれて増加している。

一概には言えないが，平成25年度の調査と比較すると，「直接話をする」と回答した割合は増加しており，「メールなどで伝える」についても平成25年度で17.5%，平成28年度で18.9%と増加傾向にある（表１－⑨）。

表１－⑨　これまでの調査で「メールなどで伝える」と回答した割合（%）
（H28は選択肢を修正して実施）

H25	H28
17.5	18.9

○　コミュニケーションの方法と就寝時刻との関連

表１－９は，本設問と《就寝時刻：設問２》をクロス集計した結果である。

「直接話をする」「電話で話をする」「紙に書いて渡す」と回答した子供の約80%が，「午後11時まで」に就寝をしており，就寝時刻が早い傾向がある。

一方，「メールなどで伝える」と回答した子供の53.1%は，「午後10時まで」または「午後11時まで」に就寝をしている。残りの46.9%は「午後11時すぎ」に就寝をしており，「午前１時すぎ」に寝ると回答する子供も6.3%いるなど，「メールなどで伝える」と回答した子供は，就寝時刻が遅い傾向にある。

表１－９　コミュニケーションの方法と就寝時刻との関連（%）

設問２ ＼ 設問９	午後10時までに寝る	午後11時までに寝る	午前0時までに寝る	午前1時までに寝る	午前1時すぎに寝る
直接話をする	49.9	31.2	13.2	4.1	1.7
電話で話をする	46.9	34.1	13.1	3.8	2.1
紙に書いて渡す	51.7	31.0	11.8	3.5	2.1
メールなどで伝える	17.9	35.2	28.7	11.9	6.3

１－10　地域の人との関わり方

＜設問 10＞あなたは，普段近所の人とあいさつをしたり，話をしたりしていますか。

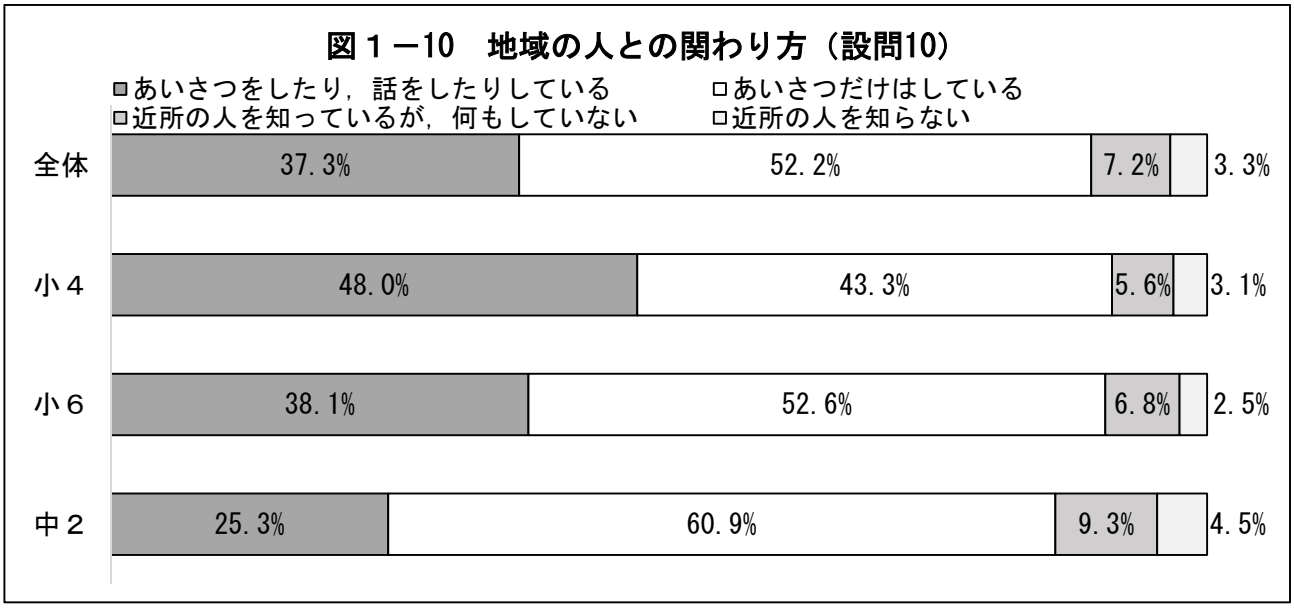


図１－10 は，《設問 10》の集計結果である。全体では，普段近所の人と「あいさつだけはしている」と回答した割合は 52.2%で，最も高い。次に，「あいさつをしたり，話をしたりしている」と回答した割合は 37.3%であり，地域の人との関わり方にあいさつを含んだ回答をしている割合は 89.5%である。

学年別では，「あいさつをしたり，話をしたりしている」と回答した割合は小４で 48.0%，小６で 38.1%，中２で 25.3%であり，学年が進むにつれて減少している。「あいさつだけはしている」と回答した割合は小４で 43.3%，小６で 52.6%，中２で 60.9%と，学年が進むにつれて増加している。

平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，平成 22 年度以降，「あいさつをしたり，話をしたりしている」と回答した割合は，減少傾向にある（表１－⑩）。

表１－⑩　これまでの調査で「あいさつをしたり，話をしたりしている」と回答した割合（%）

H19	H22	H25	H28
41.2	43.3	39.3	37.3

○　地域の人との関わり方と地域活動への参加との関連

表１－10は，本設問と《地域活動への参加：設問11》をクロス集計した結果である。

「あいさつをしたり，話をしたりしている」と回答した子供の45.9%が，地域の行事や活動に「よく参加している」と回答している。「ときどき参加している」の36.2%と合わせると，「あいさつをしたり，話をしたりしている」と回答した子供の82.1%が，地域の行事や活動に「よく参加している」または「ときどき参加している」と回答している。

一方，「近所の人を知らない」と回答した子供の36.1%は，地域の行事や活動に「まったく参加していない」と回答している。

表１－10　地域の人との関わり方と地域活動への参加との関連（%）

設問 10 ＼ 設問 11	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない
あいさつをしたり，話をしたりしている	45.9	36.2	12.4	5.4
あいさつだけはしている	25.4	41.0	24.0	9.6
近所の人を知っているが，なにもしていない	18.0	32.1	28.8	21.2
近所の人を知らない	14.8	23.8	25.3	36.1

１－11　地域活動への参加

＜設問 11＞あなたは，地域の行事や活動（お祭り，レクリエーション，スポーツ，奉仕活動など）に参加していますか。

図１－11　地域活動への参加（設問11）

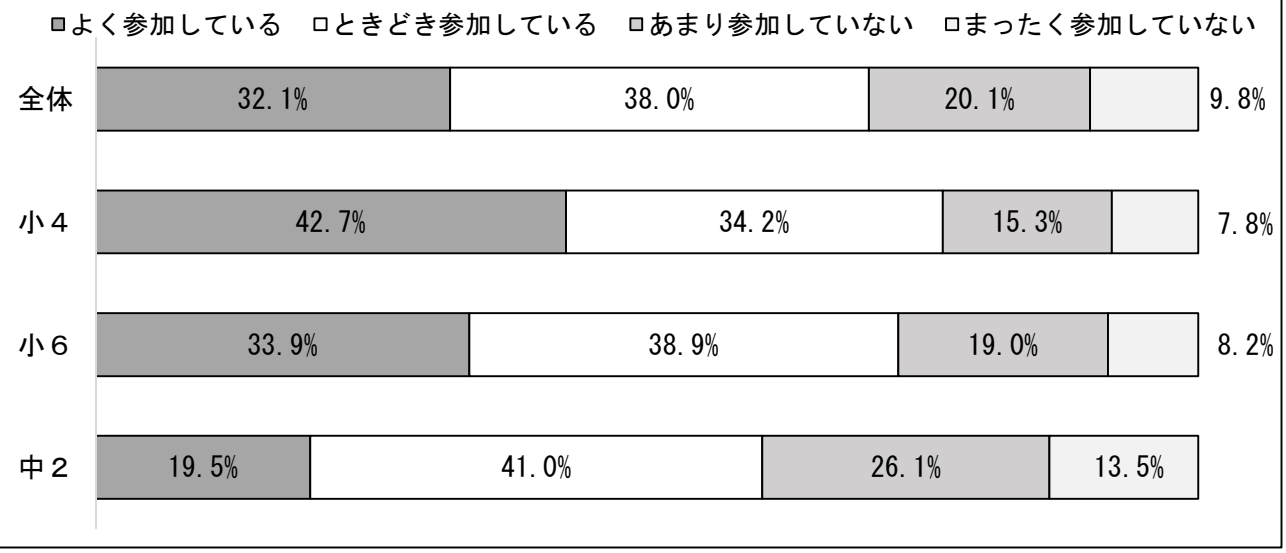


図１－11 は，《設問 11》の集計結果である。全体では，地域の行事や活動に「よく参加している」と回答した割合は 32.1%で，「ときどき参加している」と回答した 38.0%を下回っている。また，「まったく参加していない」と回答した割合は，9.8%で最も低い。

学年別では，「よく参加している」と回答した割合は，小４で 42.7%，小６で 33.9%，中２で 19.5%となっており，学年が進むにつれて減少している。中２においては，「まったく参加していない」「あまり参加していない」と回答した割合を合わせると，39.6%である。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，学年が進むにつれ「よく参加している」と回答した割合が減少する傾向は変わらない。平成 25 年度まで増加傾向であった「よく参加している」と回答した全体の割合が，平成 28 年度は減少している（表１－⑪）。

表１－⑪　これまでの調査で「よく参加している」と回答した割合（%）
（H25 から設問を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
26.9	29.6	32.9	32.1

○　地域活動への参加と行事への参画意識との関連

表１－11 は，本設問と《行事への参画意識：設問 36》をクロス集計した結果である。

地域の行事や活動に「よく参加している」と回答した子供の61.7%が，学校や学年の行事に「進んで取り組んでいると思う」と回答している。「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う」と回答した31.6%と合わせると，地域活動に「よく参加している」と回答した子供の93.3%が学校や学年の行事への参画意識の高い回答をしている。

一方，地域活動に「まったく参加していない」と回答した子供の34.2%が，学校や学年の行事に「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない」または「進んで取り組んでいると思わない」と回答している。

表１－11　地域活動への参加と行事への参画意識との関連（%）

設問 36 ＼ 設問 11	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	進んで取り組んでいると思わない
よく参加している	61.7	31.6	5.3	1.3
ときどき参加している	41.5	47.7	9.0	1.7
あまり参加していない	31.4	47.8	16.9	4.0
まったく参加していない	26.4	39.4	21.2	13.0

１－12　外国の人との関わり方

＜設問 12＞あなたは，学校以外で外国の人とあいさつをしたり，話をしたりすることがありますか。

図１－12　外国の人との関わり方（設問12）

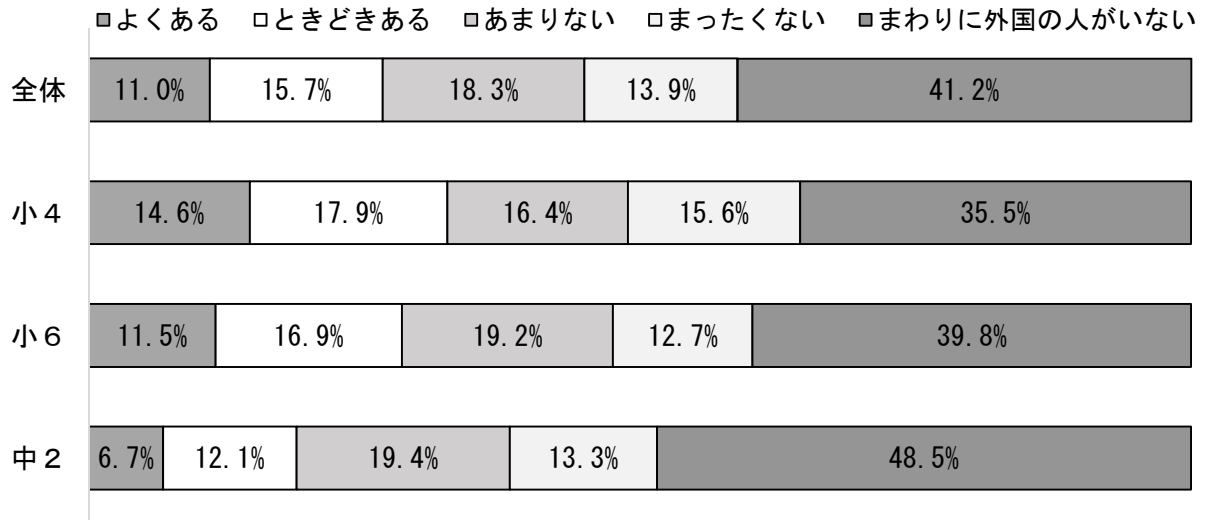


図１－12 は，《設問 12》の集計結果である。全体では，外国の人との関わりが「よくある」または「ときどきある」と回答した割合は 26.7%であり，「あまりない」または「まったくない」と回答した割合の 32.2%を下回っている。また，「まわりに外国の人がいない」と回答した割合は，41.2%で最も高い。

学年別では，「よくある」と回答した割合は，小４で 14.6%，小６で 11.5%，中２で 6.7%となっており，学年が進むにつれて減少している。中２においては，「あまりない」「まったくない」と回答した割合をまとめると 32.7%となり，「まわりに外国の人がいない」と回答した 48.5%と合わせると，約８割の子供は学校以外で外国の人との関わりがほとんどないことになる。

なお，《設問 12》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　外国の人との関わり方と地域の人から学ぶ機会との関連

表１－12は，本設問と《地域の人から学ぶ機会：設問 22》をクロス集計した結果である。

学校以外で外国の人とあいさつをしたり，話をしたりすることが「よくある」と回答した子供の22.8%が，地域の人から学ぶ機会が「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した26.5%と合わせると，学校以外で外国の人とあいさつをしたり，話をしたりすることが「よくある」と回答した子供の49.3%が，地域の人から学ぶ機会が，「よくある」「ときどきある」と回答している。

一方，外国の人との関わりが「まったくない」と回答した子供の72.3%が，地域の人から学ぶ機会が「あまりない」または「まったくない」と回答している。

また，「まわりに外国の人がいない」と回答している子供の73.6%が，地域の人から学ぶ機会が「あまりない」または「まったくない」と回答している。

表１－12　外国の人との関わり方と地域の人から学ぶ機会との関連（%）

設問 12 ＼ 設問 22	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よくある	22.8	26.5	24.5	26.2
ときどきある	12.1	32.0	30.3	25.7
あまりない	7.9	25.8	39.2	27.1
まったくない	6.5	21.2	31.3	41.0
まわりに外国の人がいない	7.2	19.1	27.7	45.9

家庭・地域社会における生活　　考察とまとめ

１　学校は，元気な子供を育てるために，規則正しい生活を送ることができるよう，家庭に啓発していきましょう

平成19年度から平成28年度の間の子供の「健康状態」の集計結果を見ると，全体では，「元気に生活している」と回答した割合が回を追うごとに増加しており，子供の「健康状態」は上向きである（p.６ 表１－①）。また，元気に生活している子供は，学校生活の中で自分が大切にされているという自己肯定感も高くなる傾向がある。元気に家庭生活を送ることで，子供は，学校においても自信をもって日々の生活を充実させる傾向がある（p.６ 表１－１）。

一方，「就寝時刻」の集計結果を見ると，全体では，就寝時刻が「午後10時まで」と「午後11時まで」の回答を合わせた割合は，平成19年度から75％前後で推移していて，子供の就寝時刻については，それほど大きく変化をしていない（p.７ 表１－②）。また，「就寝時刻」が遅い子供ほど，家庭で情報機器を使って勉強をしている傾向がある（p.７ 表１－２）。

「就寝時刻」に関して，「午後10時まで」に就寝している子供の80％を超える割合で，元気に学校生活を送っていることから，「就寝時刻」が早い子供は，元気に生活をしている傾向がある（表１－ａ）。

これらのことから，睡眠時間の確保は，子供の元気な生活，更には自己肯定感の高まりに大きく影響してくることがわかる。

そこで，学校は元気で自己肯定感の高い子供を育てるために，子供が情報機器を使いすぎることなく規則正しい生活を送ることができるよう，家庭に対して啓発していきたい。

表１－ａ　就寝時刻と健康状態との関連（%）

設問１／設問２	元気に生活している	どちらかといえば，元気に生活している	どちらかといえば，元気に生活していない	元気に生活していない
午後10時まで	80.4	17.8	1.3	0.4
午後11時まで	72.2	24.8	2.5	0.5
午前0時まで	63.8	31.5	3.8	0.9
午前1時まで	57.6	35.3	5.6	1.5
午前1時すぎ	46.5	36.4	11.4	5.7

２　学校は，子供の自己肯定感を高めるために，コミュニケーションを図る機会や子供を認め，励ます機会を増やしていくよう，家庭に啓発していきましょう

「家にいてホッとするときがよくある」など家庭で安心して生活している子供は，家族とのコミュニケーションをよくとっている割合が高い（p.12 表１－７）。また，家族とのコミュニケーションをよくとっている子供の84.8％が，周りの人から「大切にされている」または「どちらかといえば，大切にされている」と思っている（p.11 表１－６）。つまり家庭で安心して生活している子供は，家族とのコミュニケーションの機会が多く，まわりから大切にされていると感じている割合が高い。

一方で，「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した子供の86.9％が，家族からほめられることが「よくある」または「ときどきある」と回答しており（p.９ 表１－４），「家庭での居場所」と「家族との食事」が，家族とのコミュニケーションの頻度に大きく関係していることがわかる。さらに，家族からほめられることが「よくある」と回答した子供の72.6％が，学校の中で苦手なものでも「できるようになる」と回答している（表１－ｂ）。

つまり，「家庭での居場所」と「家族との食事」はコミュニケーションの機会を増やすだけでなく，家族から認められているという自己肯定感を高め，それが「苦手なことでもできるようになる」と，自己の可能性を信じることにもつながっているのがわかる。また，家族から「ほめられたことがよく

ある」と回答した89.3%が，友だちを支えた経験があり(p.13 表１－８)，家族と会話をよくしている子供の96.6%が，友だちの意見を「聞いている」または「どちらかといえば，聞いている」と回答している（p.10 表１－５）。

これらのことから，家庭でコミュニケーションを大切にしたり，食事などを通して家族との時間を大切にしたりする子供は，まわりの人から大切にされていると感じる中で，自己肯定感が高まり，学校生活では，友だちに対する言葉や行動としてプラスに反映されていることがわかる。

そこで，自己肯定感が高く，まわりの人に優しくできる子供，自己の可能性を信じる子供を育てるために，家庭では，子供の様子を常に見て，コミュニケーションを図る機会や認め励ます言葉をかける機会を増やし，気軽に子供が相談できる雰囲気をつくっていくよう，学校は啓発していきたい。

表１－ｂ　家族からの承認と自己の可能性との関連（%）

設問48 ＼ 設問８	できるようになると思う	どちらかといえば，できるようになると思う	どちらかといえば，できるようになると思わない	できるようになると思わない
よくある	72.6	21.7	4.1	1.7
ときどきある	50.8	37.5	8.8	2.9
あまりない	39.5	36.5	16.3	7.6
まったくない	33.6	27.1	17.1	22.2

３　学校や地域は，子供が地域社会の中で，地域の人と積極的に関わることができるよう，連携する機会を多く設定していきましょう

今回の調査で，友だちとの連絡や相談事などにおいて「メールなどで伝える」と回答した割合が全ての学年で増加した。特に中２では，「直接話をする」が減少し，コミュニケーションの方法に変化が見られた（p.14 図１－９）。

また，地域社会との関わりにおいて，あいさつだけでなく，地域の人とコミュニケーションをとっている子供の割合は，前回よりも減少している（p.15 表１－⑩）。

地域活動に「よく参加している」と回答している子供についても，やや減少していることがわかった（p.16 表１－⑪）。

その一方で，地域活動に「よく参加している」子供は，学校や学年の行事にも進んで取り組んでいることがわかった（p.16 表１－11）。さらに，地域の人から学ぶことの楽しさについて「楽しいと思う」または「どちらかといえば，楽しいと思う」と回答する割合も高く，地域の活動によく参加している子供ほど地域の人との関わりを肯定的に受け止めていることがわかる（表１－ｃ）。

表１－ｃ　地域活動への参加と地域の人から学ぶことの楽しさとの関連（%）

設問23 ＼ 設問11	楽しいとおもう	どちらかといえば，楽しいと思う	どちらかといえば，楽しいと思わない	楽しいと思わない	機会がないから，分からない
よく参加している	34.8	24.0	6.2	2.0	32.9
ときどき参加している	19.8	26.2	7.5	2.7	43.9
あまり参加していない	13.2	21.5	8.0	4.4	52.9
まったく参加していない	10.2	12.2	6.8	5.8	65.0

また，外国の人との関わりが「よくある」または「ときどきある」と回答した子供のほうが，「あまりない」または「まったくない」と回答した子供よりも，地域の人から学ぶ機会が多くあると捉えている傾向が見られた（p.17 表１－12）。

これらのことから，積極的に地域活動へ参加している子供は，学校行事への参加意欲が高く，地域社会から学ぶ楽しさやその意義を感じ取っていると言える。したがって，学校は地域社会と連携して子供に地域の特長を理解させ，地域活動への参加の機会を更に増やしていきたい。

第２章
家庭・地域社会における学習

本章では，家庭・地域社会における学習として「家庭での学習」「学習塾（家庭教師を含む）での学習」「地域社会からの学習」「学校以外での全ての学習」の４点から，子供たちの家庭・地域社会における学習の実態と必要感や有用性などの意識を探っていきます。

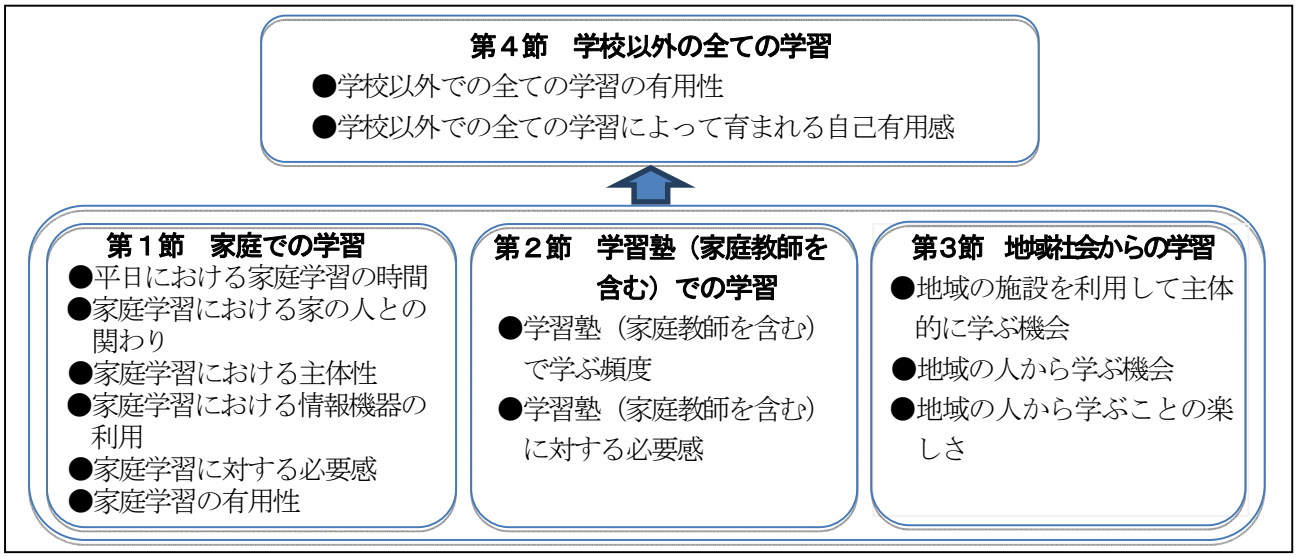
家庭・地域社会で，子供たちの「主体的な学び」や「自己有用感」が育まれるためには，学校と家庭・地域社会がどのように連携，協力していけばよいのかということについて提言します。

平成25年６月に閣議決定された「第２期教育振興基本計画」では，特に都市部を中心として，地域社会等のつながりや支え合いによる教育力やセーフティネット機能の低下が，個々人の孤立，規範意識の低下といった教育上の問題の一因になっていると述べている。また，各自が生涯にわたって様々なニーズに応じて自己の能力と可能性を最大に高め，様々な人々と協調・協働しつつ，自己実現と社会貢献を図ることが大切であり，学校だけでなく，あらゆる機会，場所での生涯学習の必要性が指摘されている。

第17次の調査結果では，家庭学習への意欲が高まってきているとともに，学校以外での全ての学習の有用性を感じている子供たちが増えているという調査結果となった。地域から学ぶ機会がある子供たちは，地域の人から学ぶことの楽しさを感じているとともに自己有用感との関連が深いという結果も出た。これらを受け，第18次の研究では，家庭・地域社会における学習の様子に関する経年変化を見ていき，今日的課題の一つである「主体的な学び」「自己有用感」に関する姿や思いに迫り，学校や家庭，地域社会が連携してどのように子供たちを支援していくのかを明らかにする必要があると考えた。

そこで，本章では「家庭での学習」「学習塾（家庭教師を含む）での学習」「地域社会からの学習」「学校以外での全ての学習」の四つの切り口を設定した。まず，「家庭での学習」では，家庭学習の実態や意識を探る。また，今後ますます小・中学生の利用が増加すると予想される情報機器の利用頻度を探る。次に，「学習塾（家庭教師を含む）での学習」では，学習塾（家庭教師を含む）に通う頻度や学習塾（家庭教師を含む）に対する必要感を探る。そして，「地域社会からの学習」では，地域の施設や人から学ぶ機会や子供たちの思いを探る。最後に，「学校以外での全ての学習」では，学習塾（家庭教師を含む）での学習にとどまらず，学校以外での全ての学習の有用性や学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感に対する意識を探る。

分析に当たっては，家庭・地域社会における学習に関する子供たちの実態や意識を明らかにし，子供たちの学習の実態と必要感や有用性，満足感など「主体的な学び」や「自己有用感」につながる思いを探っていく。また子供たちが，学習の有用性を認識し，自己有用感を高めるために，学校と家庭・地域社会の連携の在り方についても提言する。



「家庭・地域社会における学習」の調査構造

第１節　家庭での学習

２－１　平日における家庭学習の時間

＜設問 13＞あなたは，学校のある日，だいたいどのくらい家で勉強していますか。

図２－１　平日における家庭学習の時間（設問 13）

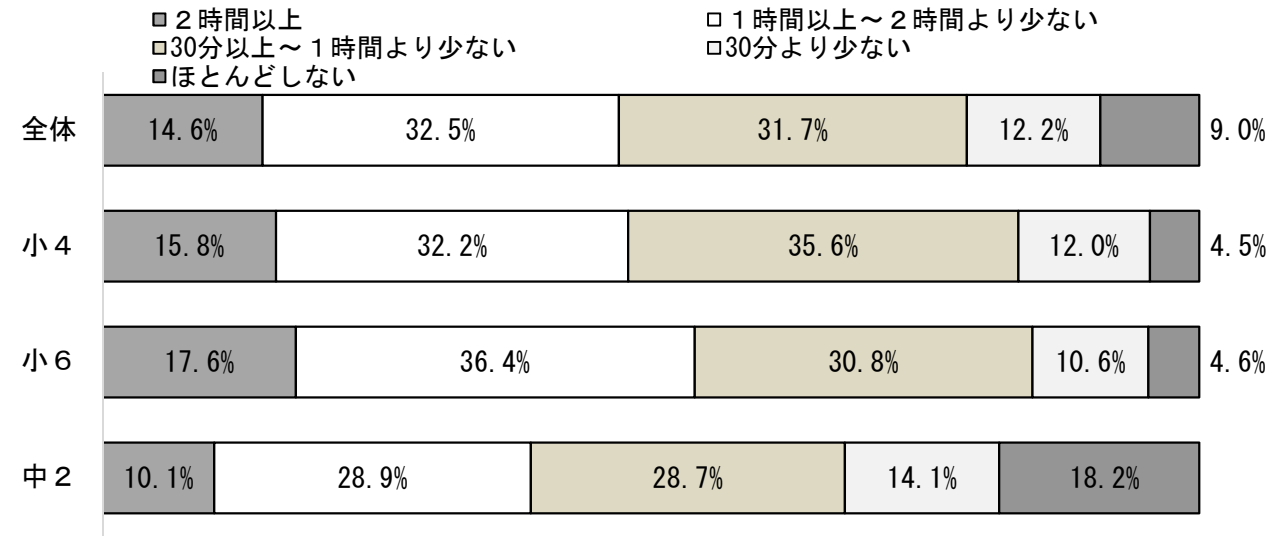


図２－１は，《設問 13》の集計結果である。全体では平日の１日の平均家庭学習時間は「１時間以上～２時間より少ない」が 32.5%で最も多く，次いで「30 分以上～１時間より少ない」が 31.7%で多い。学年によって多少の差異は見られるが，この二つの時間帯を合わせると全学年で半数以上となる。

学年別では，平日に家庭での学習を「ほとんどしない」子供は，中２で 18.2%となり，小４・小６に比べると４倍となっている。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，全体としては，「ほとんどしない」と回答した割合は，年々減少している（表２－①）。

表２－①　これまでの調査で「ほとんどしない」と回答した割合（%）
（H25 から選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
14.0	11.2	10.3	9.0

○　平日における家庭学習の時間と学習への取組の現状との関連

表２－１は，本設問と《学習への取組の現状：設問 47》をクロス集計した結果である。

平日における家庭学習の時間を「２時間以上」と回答した子供のうち，授業中の学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合は，58.4%であり，「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う」と回答した割合 33.1%と合わせると，91.5%となる。

一方，家庭学習を「ほとんどしない」と回答した子供のうち，授業中の学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合は，15.5%である。家庭学習を「２時間以上」，授業中の学習に「進んで取り組んでいると思う」の 58.4%と比べると，42.9 ポイント低くなっている。さらに，家庭学習を「ほとんどしない」，授業中の学習に「進んで取り組んでいると思わない」と回答した割合は，18.2%であり，家庭学習「２時間以上」「進んで取り組んでいると思わない」の 2.1%と比べると，16.1%高くなっている。

表２－１　平日における家庭学習の時間と学習への取組の現状との関連（%）

設問 13 ＼ 設問 47	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	進んで取り組んでいると思わない
２時間以上	58.4	33.1	6.4	2.1
１時間以上～２時間より少ない	44.4	45.9	8.3	1.4
30 分以上～１時間より少ない	34.7	51.1	12.2	2.0
30 分より少ない	24.6	49.8	20.1	5.6
ほとんどしない	15.5	39.7	26.7	18.2

２－２　家庭学習における家の人との関わり

＜設問 14＞あなたは，家庭学習のことで，家の人からアドバイスをしてもらいますか。

図２－２　家庭学習における家の人との関わり（設問14）

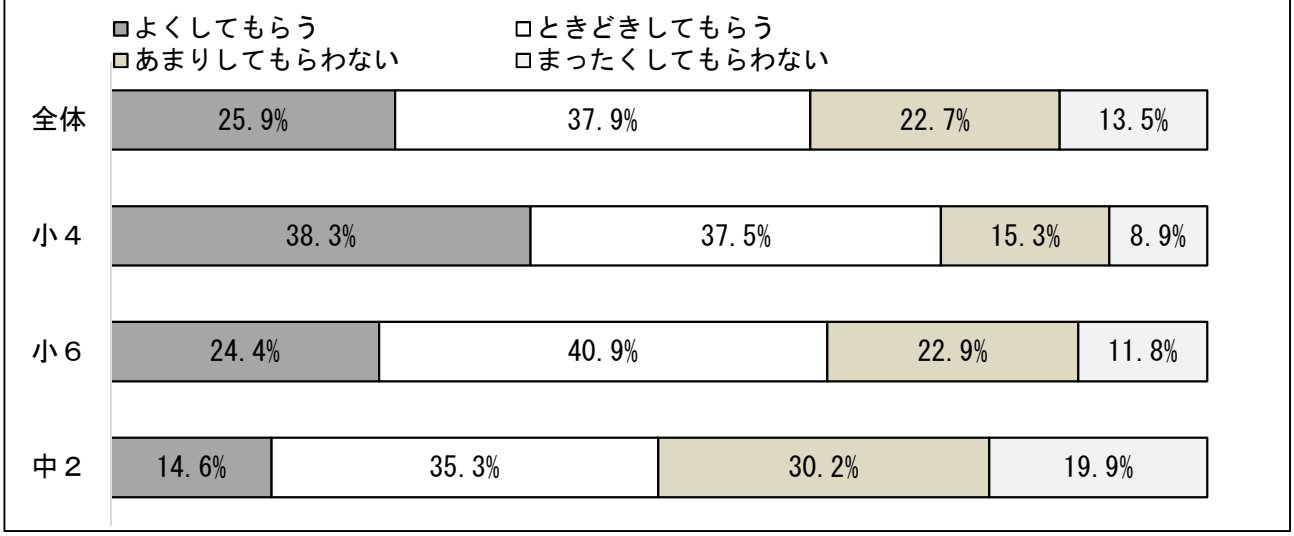


図２－２は，《設問 14》の集計結果である。全体では，家庭学習に関して，家の人からアドバイスを「よくしてもらう」または「ときどきしてもらう」と回答した割合は 63.8%となっており，「まったくしてもらわない」と回答した割合は 13.5%となっている。

学年別では，「よくしてもらう」と回答した割合は，小４で 38.3%，小６で 24.4%，中２で 14.6%となっており，学年が進むにつれて低くなっている。一方，「まったくしてもらわない」と回答した割合は，小４で 8.9%，小６で 11.8%，中２で 19.9%となっており，学年が進むにつれて高くなっている。

平成 25 年度の調査と比較すると，「よくしてもらう」「ときどきしてもらう」と回答した割合は，2.8 ポイント減少している（表２－②）。

表２－②　これまでの調査で家庭学習のことで家の人からアドバイスを「よくしてもらう」「ときどきしてもらう」と回答した割合（%）

H25	H28
66.6	63.8

○　家庭学習における家の人との関わりと学校以外での全ての学習の有用性との関連

表２－２は，本設問と《学校以外での全ての学習の有用性：設問24》をクロス集計した結果である。

家の人からアドバイスを「よくしてもらう」と回答した子供のうち，学校以外での勉強や習いごとなどが，社会に出たとき「役に立つと思う」と回答した割合は 80.7%で，アドバイスを「まったくしてもらわない」と回答した子供のうち，「役に立つと思う」と回答した割合の48.0%と比べ，32.7ポイント高くなっている。

一方，アドバイスを「まったくしてもらわない」と回答した子供のうち，学校以外での勉強や習いごとなどが，社会に出たとき「役に立つと思わない」と回答した割合は9.6%で，アドバイスを「よくしてもらう」と回答した子供のうち，「役に立つと思わない」と回答した割合の1.4%と比べ，8.2ポイント高くなっている。

表２－２　家庭学習における家の人との関わりと学校以外での全ての学習の有用性との関連（%）

設問24 ＼ 設問14	役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思わない	役に立つと思わない
よくしてもらう	80.7	15.3	2.6	1.4
ときどきしてもらう	64.8	29.4	4.4	1.5
あまりしてもらわない	54.0	35.8	7.4	2.7
まったくしてもらわない	48.0	33.7	14.7	9.6

２－３　家庭学習における主体性

＜設問 15＞あなたは，学校や学習塾（家庭教師を含む）の宿題以外にも自分で考えて勉強していますか。

図２－３　家庭学習における主体性（設問15）

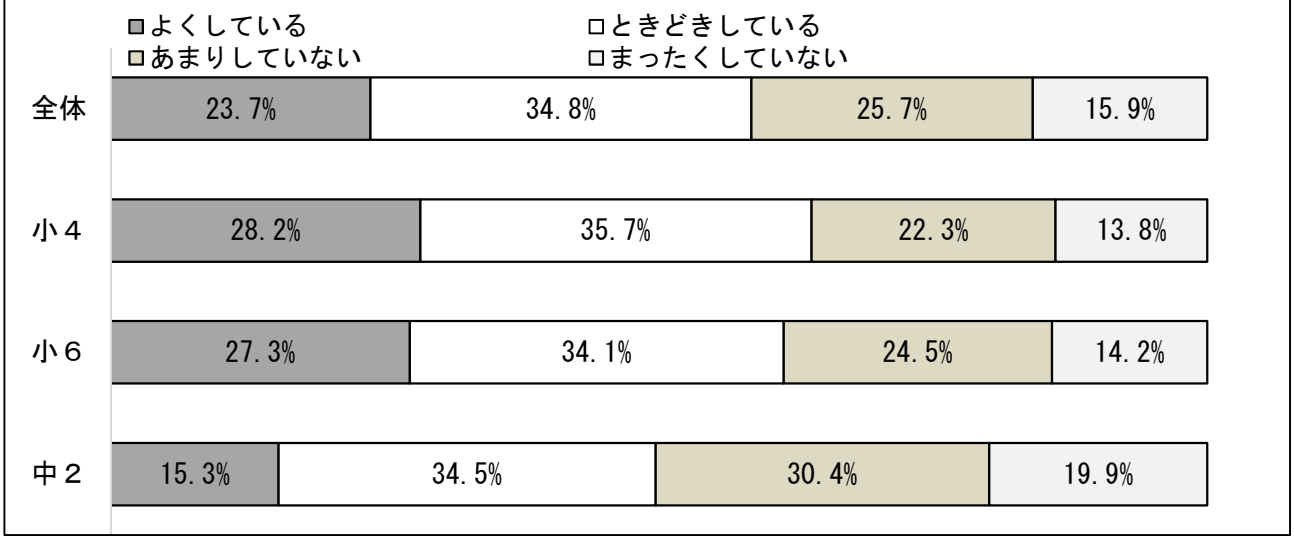


図２－３は，《設問 15》の集計結果である。全体では，自分で考えて家庭学習を「よくしている」または「ときどきしている」と回答した割合は 58.5%で，「まったくしていない」と回答した割合は 15.9%である。

学年別では，「よくしている」と回答した割合が，小４で 28.2%，小６で 27.3%，中２で 15.3%となっており，学年が進むにつれて減少している。学年間の差に着目すると，小４から小６では 0.9 ポイントの減少であるのに対し，小６から中２では 12.0 ポイントと，減少の幅が大きい。また，中２では，「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した割合が，50.3%である。

平成 25 年度の調査と比較すると，「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合は 2.9 ポイント増加している（表２－③）。

表２－③　これまでの調査で学校や学習塾の宿題以外の勉強を自分で考えて「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合（%）

H25	H28
55.6	58.5

○　家庭学習における主体性と自己の可能性との関連

表２－３は，本設問と《自己の可能性：設問48》をクロス集計した結果である。

学校や学習塾の宿題以外にも自分で考えて勉強を「よくしている」と回答した子供のうち，学校の学習の中で，今は苦手なものでも，努力したら「できるようになると思う」と回答した割合は73.2%である。自分で考えて勉強を「まったくしていない」と回答した子供のうち，「できるようになると思う」と回答した割合の38.5%と比べると，34.7ポイント高くなっている。

一方，自分で考えて勉強を「まったくしていない」子供のうち，「どちらかといえば，できるようになると思わない」「できるようになると思わない」と回答した割合を合わせると28.2%となる。自分で考えて勉強を「よくしている」と回答した子供のうち，努力したら「どちらかといえば，できるようになると思わない」「できるようになると思わない」と回答した割合の 5.7%と比べると，22.5ポイント高くなっている。

表２－３　家庭学習における主体性と自己の可能性との関連（%）

設問48 ＼ 設問15	できるようになると思う	どちらかといえば，できるようになると思う	どちらかといえば，できるようになると思わない	できるようになると思わない
よくしている	73.2	21.2	3.8	1.9
ときどきしている	61.2	30.9	5.9	2.0
あまりしていない	48.3	37.5	10.9	3.3
まったくしていない	38.5	33.2	16.3	11.9

２－４　家庭学習における情報機器の利用

＜設問 16＞あなたは，家で勉強するとき，情報機器（パソコン，携帯電話，スマートフォン，ゲーム機など）を使っていますか。

図２－４　家庭学習における情報機器の利用（設問16）

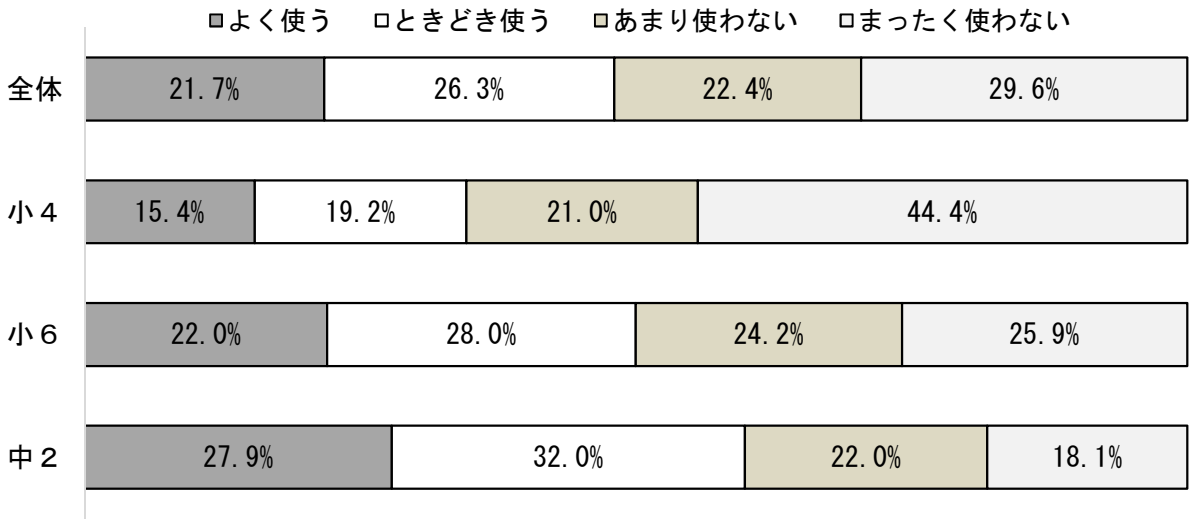


図２－４は,《設問16》の集計結果である。全体では，家で勉強するとき，情報機器を「よく使う」または「ときどき使う」と回答した割合は，48.0%で，「まったく使わない」と回答した割合は，29.6%である。

学年別では,家で勉強するとき,情報機器を「よく使う」または「ときどき使う」と回答した割合は,小４で34.6%,小６で50.0%,中２で59.9%となっており,学年が進むにつれて高くなっている。さらに,学年間の差に着目すると,小４から小６では15.4ポイント,小６から中２では9.9ポイント高くなっている。

一概には言えないが，平成25年度の調査と比較すると，全体では「よく使う」と回答した割合が３倍に増加している（表２－④）。

表２－④　これまでの調査で「よく使う」と回答した割合（%）
（H28 から設問を修正して実施）

H25	H28
7.3	21.7

○　家庭学習における情報機器の利用と家庭学習における主体性との関連

表２－４は，本設問と《家庭学習における主体性:設問15》をクロス集計した結果である。

家で勉強するとき，情報機器を「よく使う」と回答した子供のうち，学校や学習塾（家庭教師を含む）の宿題以外にも自分で考えて勉強を「よくしている」または「ときどきしている」と回答した割合は，57.1%になっている。

一方,家で勉強するとき，情報機器を「まったく使わない」と回答した子供のうち，学校や学習塾（家庭教師を含む）の宿題以外にも自分で考えて勉強を「あまりしていない」または「まったくしていない」と回答した割合は42.2%となっている。

表２－４　家庭学習における情報機器の利用と家庭学習における主体性との関連（%）

設問 16 ＼ 設問 15	よくしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
よく使う	24.8	32.3	24.3	18.6
ときどき使う	21.4	37.8	27.7	13.1
あまり使わない	21.8	37.8	27.6	12.8
まったく使わない	26.3	31.5	23.4	18.8

２－５　家庭学習に対する必要感

＜設問 17＞あなたは，家で勉強することは必要だと思いますか。

図２－５　家庭学習に対する必要感（設問17）

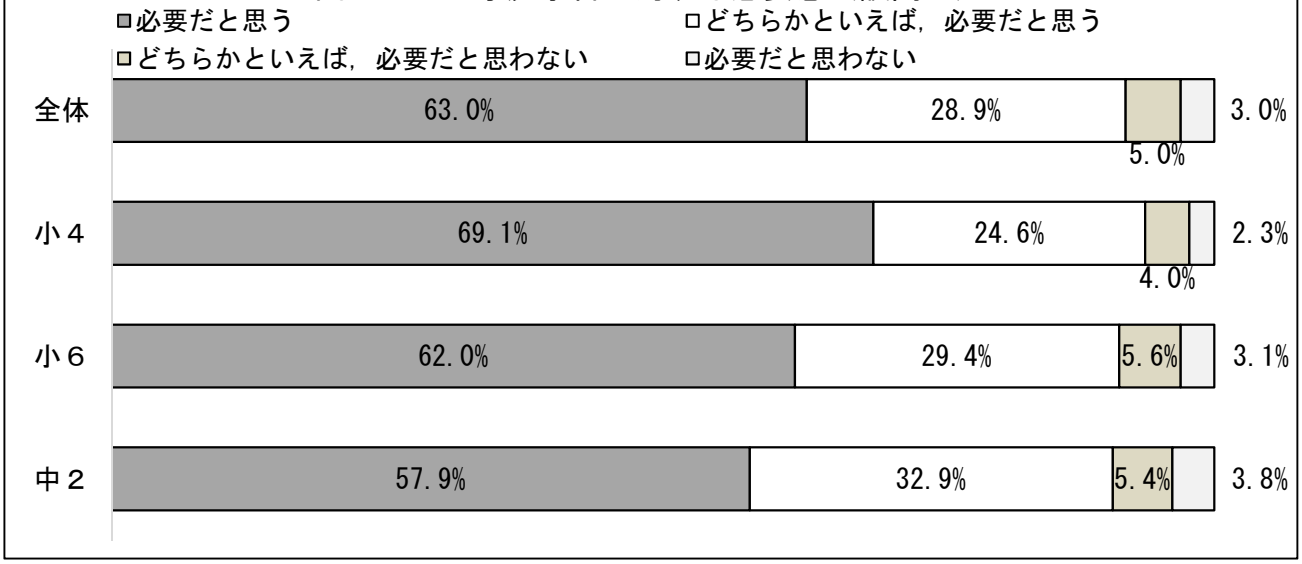


図２－５は，《設問17》の集計結果である。全体では，家で勉強することは「必要だと思う」と回答した割合が63.0％となっており，半数を超えている。また，「必要だと思う」または「どちらかといえば，必要だと思う」と回答した割合は91.9％になる。一方，「必要だと思わない」と回答した割合は3.0％となっている。

学年別では，「必要だと思う」と回答した割合は，小４で69.1％，小６で62.0％，中２で57.9％となっており，学年が進むにつれて低くなっている。更に，学年間の差に着目すると，小４から小６では7.1ポイント，小６から中２では4.1ポイント低くなっている。

平成19年度，平成22年度，平成25年度の調査と比較すると，全体では，「必要だと思う」と回答した割合が年々増えており，平成19年度と比べると，11.2ポイント増加している（表２－⑤）。

表２－⑤　これまでの調査で「家で勉強することは必要だと思う」と回答した割合（%）

H19	H22	H25	H28
51.8	55.0	57.8	63.0

○　家庭学習に対する必要感と自己の可能性との関連

表２－５は，本設問と《自己の可能性:設問48》をクロス集計した結果である。

家で勉強することは「必要だと思う」と回答した子供のうち，学校の学習の中で，今は苦手なものでも，努力したら「できるようになると思う」と回答した割合は70.2％であり，「どちらかといえば，できるようになると思う」と合わせると，94.1％になる。

一方，「必要だと思わない」と回答した子供のうち，「できるようになると思わない」と回答した割合は35.4％で，「必要だと思う」と回答した子供のうち，「できるようになると思わない」と回答した割合である1.6％と比べると，33.8ポイント高くなっている。

表２－５　家庭学習に対する必要感と自己の可能性との関連（%）

設問17＼設問48	できるようになると思う	どちらかといえば，できるようになると思う	どちらかといえば，できるようになると思わない	できるようになると思わない
必要だと思う	70.2	23.9	4.3	1.6
どちらかといえば，必要だと思う	37.5	45.3	13.4	3.8
どちらかといえば，必要だと思わない	25.2	35.9	25.1	13.8
必要だと思わない	25.4	22.1	17.1	35.4

２－６　家庭学習の有用性

＜設問 18＞あなたは，家で勉強したことが，学校の授業に役立っていると思いますか。

図２－６　家庭学習の有用性（設問18）

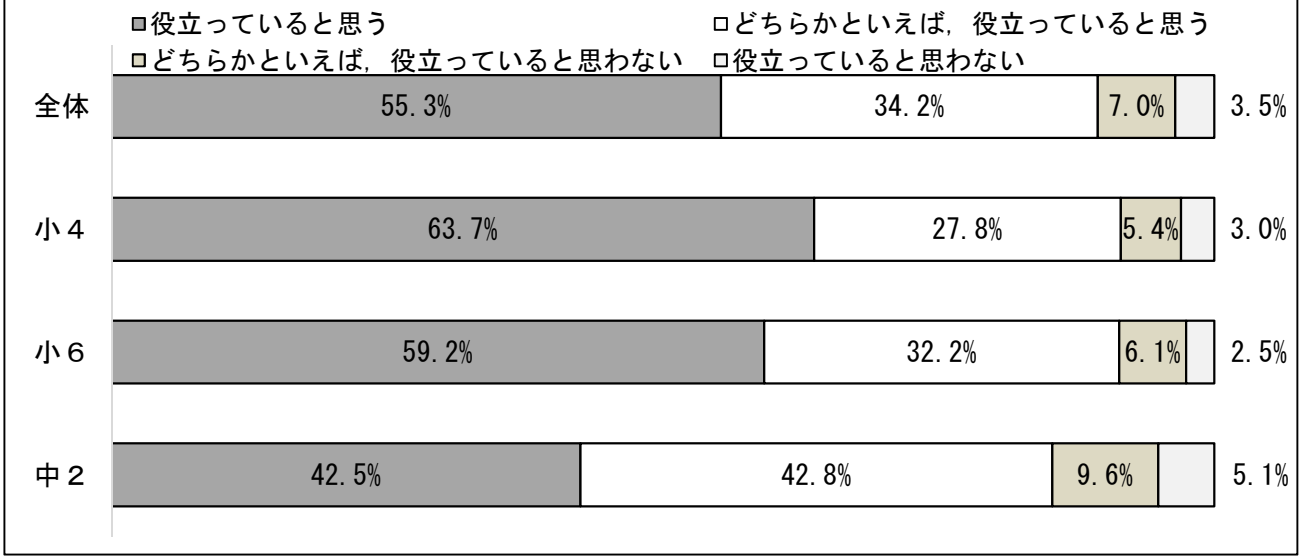


図２－６は，《設問18》の集計結果である。全体では，家で勉強したことが，学校の授業に「役立っていると思う」が55.3％で最も高い。一方，「どちらかといえば，役立っていると思わない」または「役立っていると思わない」と回答した割合は10.5％である。

学年別では，「役立っていると思う」と回答した割合は，小４で63.7％，小６で59.2％，中２で42.5％となっており，学年が進むにつれて低くなっている。学年間の差に着目すると，小４から小６では4.5ポイント，小６から中２では16.7ポイント低くなっている。また，「役立っていると思わない」と回答した割合は，小４で3.0％，小６で2.5％，中２で5.1％となっており，小４と小６では３％前後なのに対し，中２では５％と高くなっている。

なお，《設問18》は，平成28年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　家庭学習の有用性と家庭学習に対する必要感との関連

表２－６は，本設問と《家庭学習に対する必要感：設問17》をクロス集計した結果である。

家で勉強したことが学校の授業に「役立っていると思う」と回答した子供のうち，家で勉強することが「必要だと思う」と回答した割合は80.4％である。「役立っていると思わない」と回答した割合の22.0％と比べると，58.4ポイント高くなっている。

一方，家で勉強したことが学校の授業に「役立っていると思わない」と回答した子供は，家で勉強することが「必要だと思わない」と回答した割合が40.0％であり，「役立っていると思う」と回答した割合の0.8％と比べると，39.2ポイント高くなっている。

表２－６　家庭学習の有用性と家庭学習に対する必要感との関連（％）

設問 18 ＼ 設問 17	必要だと思う	どちらかといえば，必要だと思う	どちらかといえば，必要だと思わない	必要だと思わない
役立っていると思う	80.4	17.5	1.3	0.8
どちらかといえば，役立っていると思う	46.6	45.5	6.1	1.8
どちらかといえば，役立っていると思わない	26.2	42.8	22.7	8.2
役立っていると思わない	22.0	20.7	17.3	40.0

第２節　学習塾（家庭教師を含む）での学習

２－７　学習塾（家庭教師を含む）で学ぶ頻度

＜設問 19＞あなたは，週にどのくらい，学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか。

図２－７　学習塾（家庭教師を含む）で学ぶ頻度（設問19）

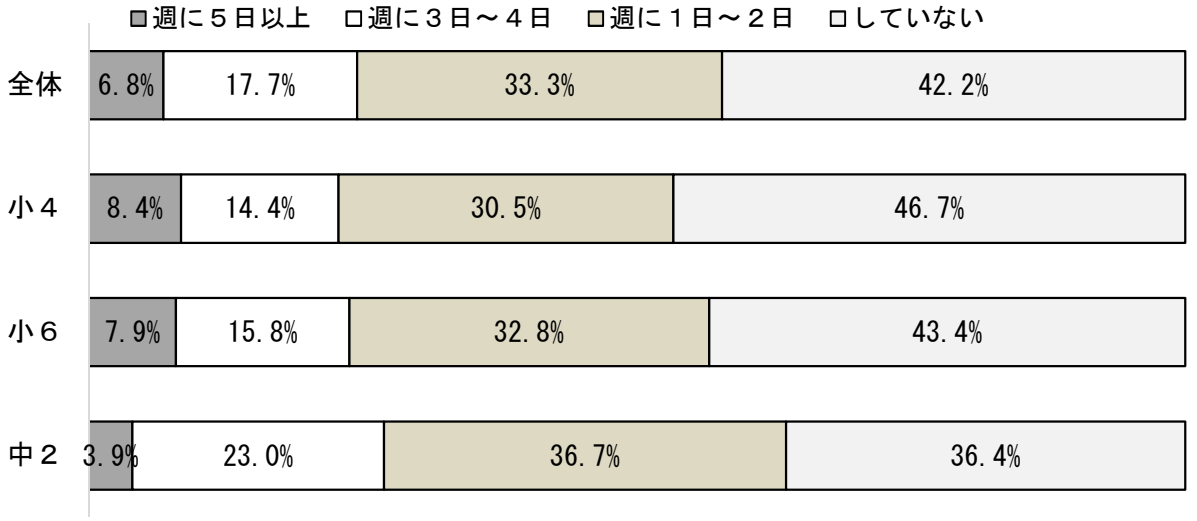


図２－７は，《設問 19》の集計結果である。全体では，学習塾等で勉強している子供の割合は，日数を問わなければ,57.8%となっており，半数を超えている。学年別では，小４で 53.3%,小６で 56.5%,中２で 63.6%となっており,その割合は，学年が進むにつれて高くなっている。

学習塾等で勉強している頻度では，「週に３日～４日」「週に１日～２日」と回答した割合は学年が進むにつれて増加している。「週に５日以上」と回答した割合は,小４で 8.4%，小６で7.9%,中２で3.9%と学年が進むにつれ,減少している。

平成 25 年度の調査と比較すると,学習塾等で勉強していないと回答した割合は，0.4 ポイント減少している（表２－⑦)。

表２－⑦　これまでの調査で「していない」と回答した割合（%）
（H25 から設問を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
52.7	53.1	42.6	42.2

○　学習塾（家庭教師を含む）で学ぶ頻度と平日における家庭学習の時間との関連

表２－７は，本設問と《平日における家庭学習の時間：設問13》をクロス集計した結果である。

「週に５日以上」学習塾等で勉強していると回答した子供は，平日における家庭学習の時間が「２時間以上」と回答した割合が43.6%と最も高い。「週に３日～４日」学習塾等で勉強していると回答した子供は，平日における家庭学習が「１時間以上～２時間より少ない」と回答した割合が37.2%と最も高い。そして「週に１日～２日」学習塾等で勉強していると回答した子供は，家庭学習が「１時間以上～２時間より少ない」と回答した割合が34.5%と最も高い。

一方，学習塾等で「勉強していない」と回答した子供のうち，家庭学習を「ほとんどしない」と回答した割合は12.5%となっている。

表２－７　学習塾（家庭教師を含む）で学ぶ頻度と平日における家庭学習の時間との関連（%）

設問 13 ＼ 設問 19	２時間以上	１時間以上～２時間より少ない	30 分以上～１時間より少ない	30 分より少ない	ほとんどしない
週に５日以上	43.6	30.3	17.5	5.9	2.7
週に３日～４日	24.1	37.2	25.2	8.2	5.3
週に１日～２日	12.4	34.5	33.1	12.1	7.9
勉強していない	7.6	29.4	35.6	14.9	12.5

２－８　学習塾（家庭教師を含む）に対する必要感

＜設問 20＞あなたは，学習塾（家庭教師を含む）で勉強することについてどう思いますか。

図２－８　学習塾（家庭教師を含む）に対する必要感（設問20）

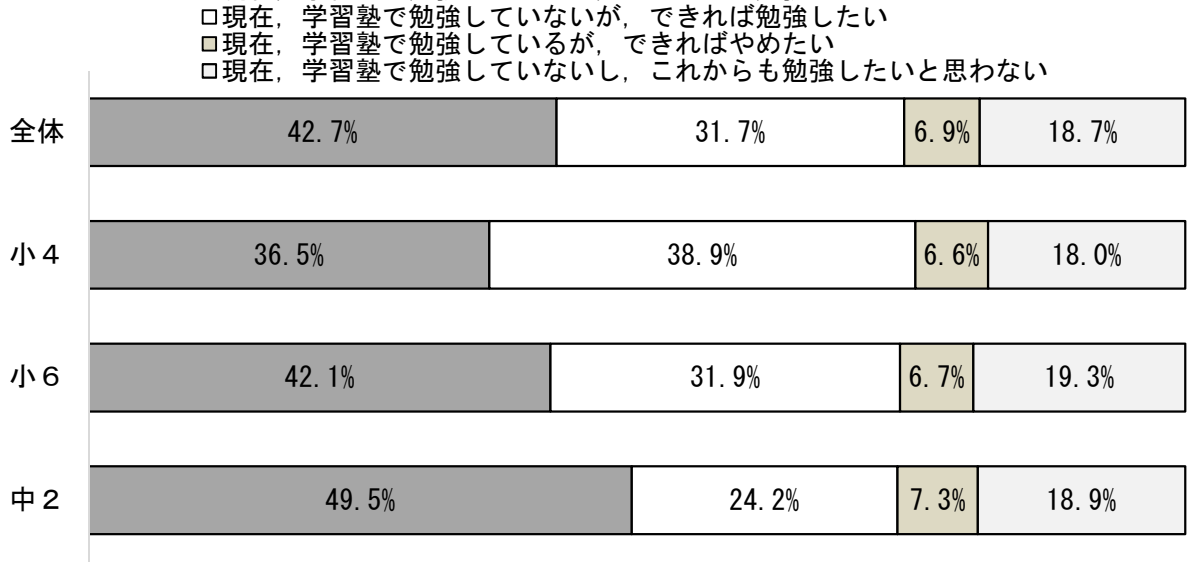


図２－８は，《設問 20》の集計結果である。全体では，「現在，学習塾で勉強しているし，これからも勉強したい」または「現在，学習塾で勉強していないが，できれば勉強したい」と回答した割合を合わせると 74.4%となっている。また，学年別では，「現在，学習塾で勉強しているし，これからも勉強したい」と回答した割合は学年が進むにつれて増加している。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，全体では「現在，学習塾で勉強しているし，これからも勉強したい」と回答した割合が平成 22 年度から増加傾向にあり，平成 25 年度からは 2.2 ポイント増加している（表２－⑧）

表２－⑧　これまでの調査で「現在，学習塾で勉強しているし，これからも勉強したい」と回答した割合（%）（H25 から設問を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
36.7	36.0	40.5	42.7

○　学習塾に対する必要感と学校以外での全ての学習の有用性との関連

表２－８は，本設問と《学校以外での全ての学習の有用性：設問24》をクロス集計した結果である。

学習塾で「これからも勉強したい」と回答した子供のうち，学校以外での学習について「役に立つと思う」と回答した割合は，74.0%である。

一方，現在，学習塾で勉強しているが，学習塾での勉強を「できればやめたい」と回答した子供のうち，学校以外での全ての学習について「役に立つと思う」と回答した割合は38.2%で，学習塾で「これからも勉強したい」と回答した割合である74.0%と比べると，35.8ポイント低くなっている。

表２－８　学習塾に対する必要感と学校以外での全ての学習の有用性との関連（%）

設問 20 ＼ 設問 24	役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思わない	役に立つと思わない
現在，学習塾で勉強しているし，これからも勉強したい	74.0	21.8	3.1	1.1
現在，学習塾で勉強していないが，できれば勉強したい	66.0	28.2	4.4	1.5
現在，学習塾で勉強しているが，できればやめたい	38.2	39.8	13.9	8.0
現在，学習塾で勉強していないし，これからも勉強したいと思わない	48.3	35.0	9.4	7.4

第３節　地域社会からの学習

２－９　地域の施設を利用して主体的に学ぶ機会

＜設問 21＞あなたは，地域の施設（図書館，博物館など）を利用していますか。

図２－９　地域の施設を利用して主体的に学ぶ機会（設問21）

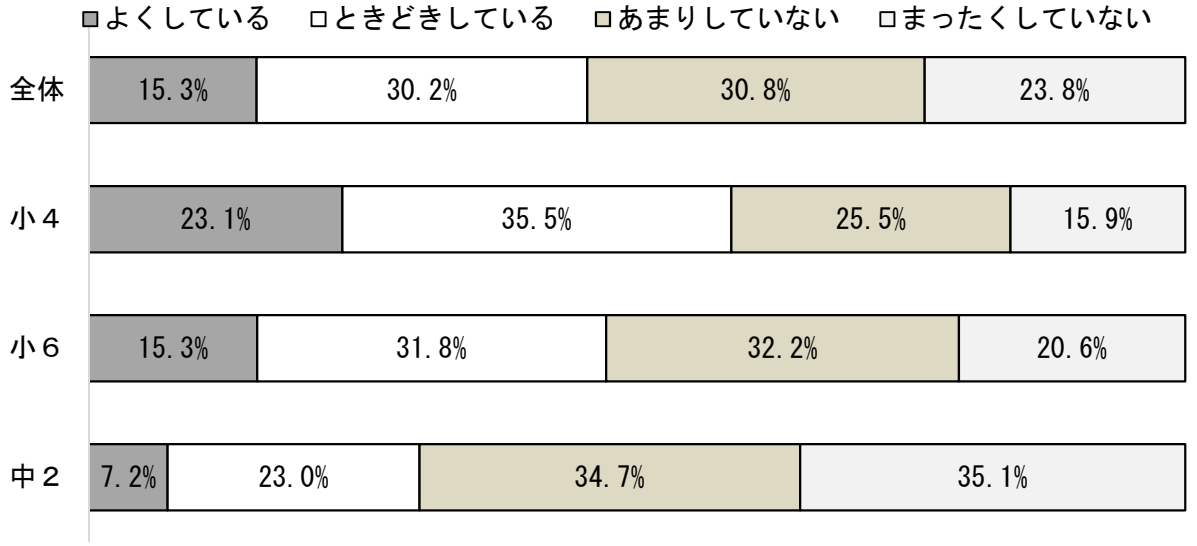


図２－９は，《設問 21》の集計結果である。全体では，地域の施設（図書館，博物館など）を利用して主体的に学ぶ機会で「よくしている」または「ときどきしている」という回答を合わせると 45.5%になる。

学年別では，「よくしている」または「ときどきしている」と回答した割合は，小４で 58.6%，小６で 47.1%，中２で 30.2%と学年が進むにつれて低くなっている。学年間の差に着目すると，「まったくしていない」と回答した割合は，小４から小６では 4.7 ポイント，小６から中２では 14.5 ポイント増加している。

なお，《設問 21》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　地域の施設を利用して主体的に学ぶ機会と家庭学習における主体性の関連

表２－９は，本設問と《家庭学習における主体性：設問15》をクロス集計した結果である。

地域の施設を利用する機会で「よくしている」と回答した子供のうち，宿題以外にも自分で考えて勉強することを「よくしている」と回答した割合は41.1%である。「ときどきしている」と回答した割合の34.2%と合わせると75.3%となる。

一方，地域の施設を利用する機会で「まったくしていない」と回答した子供のうち，宿題以外にも自分で考えて勉強することを「まったくしていない」と回答した割合は29.5%である。「あまりしていない」と回答した割合の27.1%と合わせると56.6%となる。地域の施設を利用する機会で「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合75.3%と比べると18.7ポイント低くなっている。

表　２－９　地域の施設を利用して主体的に学ぶ機会と家庭学習における主体性の関連（%）

設問 15 ＼ 設問 21	よくしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
よくしている	41.1	34.2	16.0	8.7
ときどきしている	25.3	41.3	23.2	10.2
あまりしていない	18.2	35.3	31.9	14.6
まったくしていない	17.5	26.0	27.1	29.5

２－10　地域の人から学ぶ機会

＜設問 22＞あなたは，地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶ機会がありますか。

図２－10　地域の人から学ぶ機会（設問22）

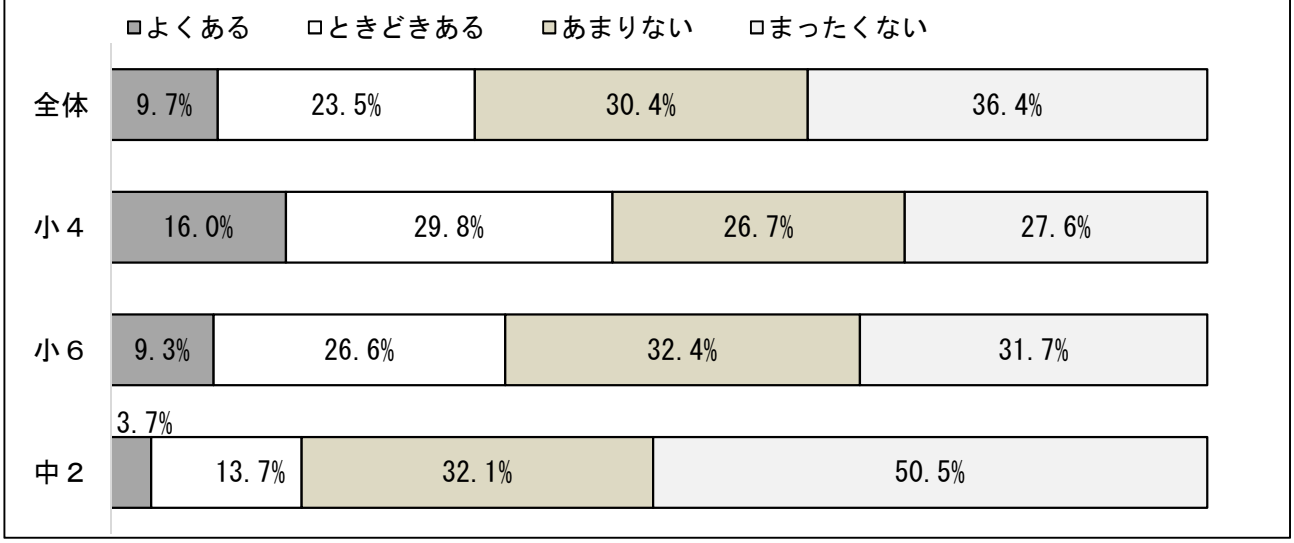


図２－10 は，《設問 22》の集計結果である。全体では，地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶ機会が「よくある」または「ときどきある」という回答を合わせると 33.2%になる。

学年別では，「よくある」または「ときどきある」と回答した割合は，小４で 45.8%，小６で 35.9%，中２で 17.4%と学年が進むにつれて低くなっている。学年間の差に着目すると，「まったくない」と回答した割合は，小４から小６では 4.1 ポイント，小６から中２では 18.8 ポイント増加している。

平成 25 年度の調査と比較すると，地域の人から学ぶ機会が「よくある」と回答した割合は，1.9 ポイント増加している（表２－⑩）。

表２－⑩　地域の人から学ぶ機会が「よくある」と回答した割合（%）

H25	H28
7.8	9.7

○　地域の人から学ぶ機会と学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感との関連

表２－10は，本設問と《学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感：設問25》をクロス集計した結果である。

地域の人から学ぶことが「よくある」と回答した子供のうち，学校以外での勉強や習いごとで学んだことが誰かの役に立ったことが「よくある」と回答した割合は，46.0%である。「ときどきある」と回答した割合の30.8%と合わせると76.8%となる。

一方，地域の人から学ぶことが「まったくない」と回答した子供のうち，学校以外での勉強や習いごとで学んだことが誰かの役に立ったことが「よくある」と回答した割合は，16.6%である。「ときどきある」と回答した割合の30.6%と合わせると47.2%となり，地域の人から学ぶことが「よくある」と回答した子供の割合である76.8%と比べると29.6ポイント低くなっている。

表２－10　地域の人から学ぶ機会と学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感との関連（%）

設問 22 ＼ 設問 25	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	機会がないから分からない
よくある	46.0	30.8	13.0	3.0	7.2
ときどきある	26.8	42.1	18.8	4.2	8.1
あまりない	20.8	40.9	23.6	4.5	10.2
まったくない	16.6	30.6	23.5	8.9	20.4

２－11　地域の人から学ぶことの楽しさ

＜設問 23＞あなたは，地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶことが楽しいですか。

図２－11　地域の人から学ぶことの楽しさ（設問23）

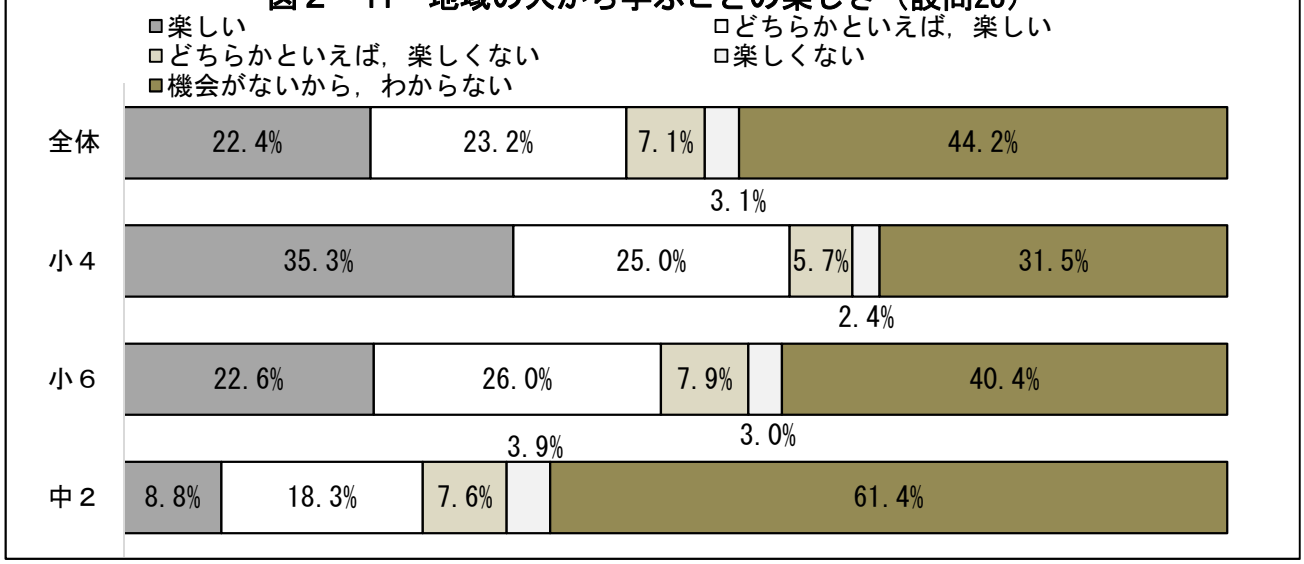


図２－11 は，《設問 23》の集計結果である。全体では，地域の人から学ぶことが「楽しい」または「どちらかといえば，楽しい」と回答した割合は 45.6%となる。一方，「どちらかといえば，楽しくない」または「楽しくない」と回答した割合は 10.2%となる。「機会がないから，わからない」と回答した割合は，44.2%となっている。

学年別では，地域の人から学ぶことが「楽しい」または「どちらかといえば，楽しい」と回答した割合は，小４は 60.3%，小６は 48.6%，中２は 27.1%と学年が進むにつれて低くなっている。一方，「どちらかといえば，楽しくない」または「楽しくない」と回答した割合は，小４は 8.1%，小６は 10.9%，中２は 11.5%と，少しずつ高くなっているものの，どの学年においても全体に占める割合は１割程度である。「機会がないから，わからない」という回答の割合は，小４から小６では 8.9 ポイント，小６から中２では 21.0 ポイント増加している。

平成 25 年度の調査と比較すると，地域の人から学ぶことが「楽しい」と回答した割合は，2.1 ポイント増加している（表２－⑪）。

表２－⑪　地域の人から学ぶことが「楽しい」と回答した割合（%）

H25	H28
20.3	22.4

○　地域の人から学ぶことの楽しさと地域の人から学ぶ機会との関連

表２－11 は，本設問と《地域の人から学ぶ機会：設問 22》をクロス集計した結果である。

地域の人から学ぶことは「楽しい」と回答した子供のうち，地域の人から学ぶ機会が「よくある」「ときどきある」と回答した割合は 77.3%である。

一方，地域の人から学ぶことは「楽しくない」と回答した子供のうち，地域の人から学ぶ機会が「よくある」「ときどきある」と回答した割合は 17.2%である。「楽しい」と回答した 77.3%と比べると 60.1 ポイント低くなっている。また，地域の人から学ぶことの楽しさについて「機会がないから，わからない」と回答した子供のうち，地域の人から学ぶ機会が「まったくない」と回答した割合は 73.6%であり，大きな割合を占めている。

表２－11　地域の人から学ぶことの楽しさと地域の人から学ぶ機会との関連（%）

設問 23 ＼ 設問 22	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
楽しい	31.6	45.7	19.2	3.6
どちらかといえば，楽しい	8.8	44.3	42.0	4.8
どちらかといえば，楽しくない	4.5	28.1	56.2	11.2
楽しくない	3.5	13.7	45.6	37.1
機会がないから，わからない	0.4	1.3	24.7	73.6

第４節　学校以外での全ての学習

２－12　学校以外での全ての学習の有用性

＜設問 24＞あなたは，学校以外での勉強や習いごとなどが，社会に出たとき，役に立つと思いますか。

図２－12　学校以外での全ての学習の有用性（設問 24）

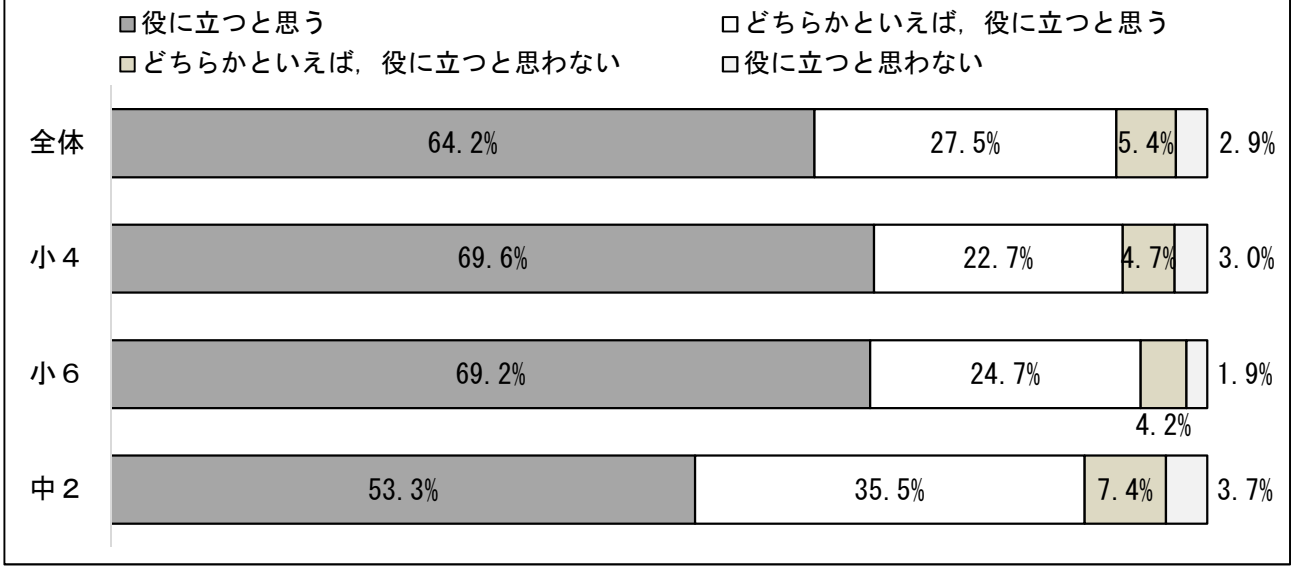


図２－12 は，《設問 24》の集計結果である。全体では，学校以外での学習が「役に立つと思う」と回答した割合が 64.2%と最も高い。「役に立つと思う」または「どちらかといえば，役に立つと思う」と回答した割合を合わせると，全体の 91.7%になる。学年別では，学校以外での学習が「役に立つと思う」と回答した割合は，学年が進むにつれて低くなり，中２では 53.3%である。また，「どちらかといえば，役に立つと思わない」または「役に立つと思わない」と回答した割合を合わせると，中２は 11.1%であり，小４の 7.7%，小６の 6.1%と比べ高くなっている。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，全体では，「役に立つと思う」と回答した割合が増えている（表２－⑫）。

表２－⑫　これまでの調査で，社会に出たときに「役立つと思う」と回答した割合（%）（H25 から選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
55.1	59.0	64.0	64.2

○　学校以外での全ての学習の有用性と家庭学習における主体性との関連

表２－12 は，本設問と《家庭学習における主体性：設問 15》をクロス集計した結果である。

学校以外での全ての学習が「役に立つ」と回答した子供のうち，学校や学習塾の宿題以外の自主的な勉強を，「よくしている」と回答した割合は 29.5%であり，「ときどきしている」と回答した割合である 36.8%と合わせると，66.3%となる。

一方，学校以外での全ての学習が「役に立つと思わない」と回答した子供のうち，学校や学習塾の宿題以外の自主的な勉強を「よくしている」と回答した割合は 12.0%で，「役に立つと思う」と回答した割合である 29.5%と比べると 17.5 ポイント低くなっている。更に，「まったくしていない」と回答した割合は 51.7%で，「役に立つと思う」と回答した割合である 11.4%と比べると 40.3 ポイント高くなっている。

表２－12　学校以外での全ての学習の有用性と家庭学習における主体性との関連（%）

設問 24 ＼ 設問 15	よくしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
役に立つと思う	29.5	36.8	22.3	11.4
どちらかといえば，役に立つと思う	13.7	33.8	32.7	19.7
どちらかといえば，役に立つと思わない	11.2	25.3	32.0	31.6
役に立つと思わない	12.0	14.5	21.8	51.7

２－13　学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感

＜設問 25＞あなたは，学校以外での勉強や習いごとで学んだことが誰かの役に立ったと思うときがありますか。

図２－13　学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感（設問 25）

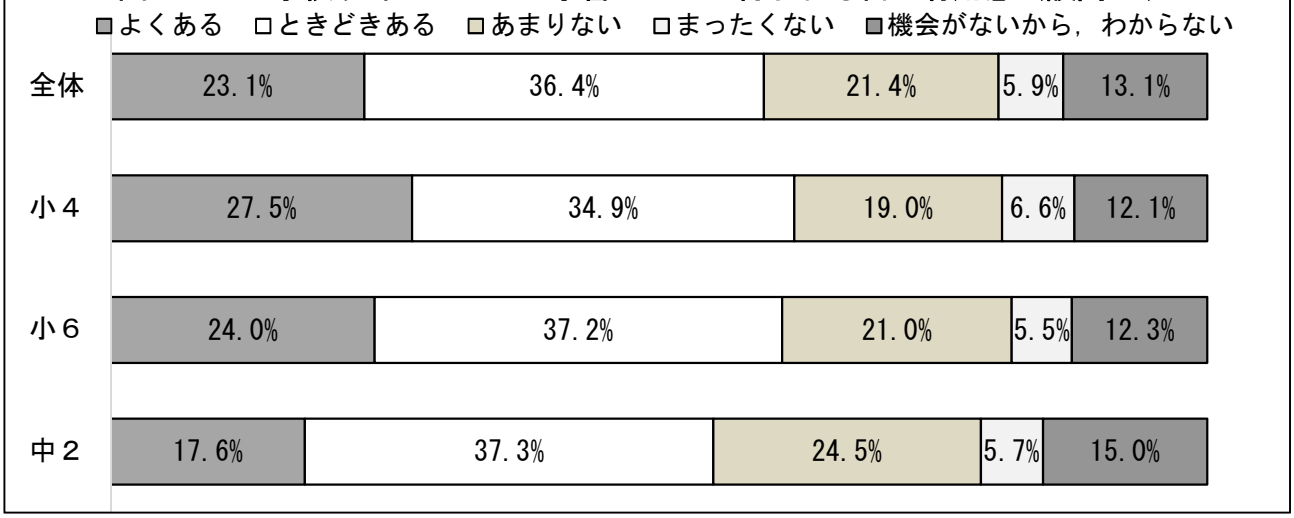


図２－13 は，《設問 25》の集計結果である。全体では，学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感が「よくある」または「ときどきある」と回答した割合は 59.5%となる。一方，「あまりない」または「まったくない」と回答した割合は 27.3%となる。「機会がないから，わからない」と回答した割合は 13.1%となっている。

学年別では，学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感が「よくある」または「ときどきある」と回答した割合は，小４は 62.4%，小６は 61.2%，中２は 54.9%と学年が進むにつれて低くなっている。また，「あまりない」または「まったくない」と回答した割合は，小４は 25.6%，小６は 26.5%，中２は 30.2%と学年が進むにつれて高くなっている。「機会がないから，わからない」という回答の割合は，小４の 12.1%に対し，中２では 15.0%と 2.9 ポイント高くなっている。

なお，《設問 25》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感と地域活動への参加との関連

表２－13 は，本設問と《地域活動への参加：設問 11》をクロス集計した結果である。

学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感が「よくある」と回答した子供のうち，地域の行事や活動に，「よく参加している」と回答した割合は 46.2%であり，「ときどき参加している」と回答した割合を合わせると，78.6%となる。

一方，学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感が「まったくない」と回答した子供のうち，地域の行事や活動に「よく参加している」と回答した割合は 25.8%で，「よくある」と回答した子供のうち「よく参加している」と回答した割合である 46.2%と比べると 20.4 ポイント低くなっている。また，「まったくない」と回答した子供のうち，地域の行事や活動に「まったく参加していない」と回答した割合は 18.8%で，「よくある」と回答した子供のうち「まったく参加していない」と回答した割合である 7.2%と比べると 11.6 ポイント高くなっている。

表２－13　学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感と地域活動への参加との関連（%）

設問 25 ＼ 設問 11	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない
よくある	46.2	32.4	14.2	7.2
ときどきある	31.0	42.5	19.4	7.2
あまりない	25.6	40.5	24.6	9.3
まったくない	25.8	33.0	22.4	18.8
機会がないから，わからない	24.2	33.5	24.0	18.3

家庭・地域社会における学習　　考察とまとめ

１　学校は，子供が主体的に学ぶ力をつけるために，家庭学習の促進や地域の施設や人材の積極的な活用に向けて，具体的な指導方法や学習内容を工夫しましょう

平日における家庭学習の時間について集計結果を見ると，「ほとんどしない」と回答した割合が，今回の調査で9.0％となり，１割を下回った。過去の調査における経年変化を見ても着実に減少しており，家庭学習が定着していることがうかがえる（p.21 図２－１，表２－①）。

また，家庭学習の時間が「２時間以上」と回答した子供のうち，授業中，学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合が58.4％と最も高く，家庭学習の時間が長い子供ほど学校の授業にも進んで取り組む傾向にある（p.21 表２－１）。

さらに，家庭学習の時間が「２時間以上」と回答した子供のうち，学校の授業が「楽しい」と回答した割合は55.8％と最も高く，家庭学習の時間が長い子供ほど授業が楽しいと感じる傾向も見られる（表２－ａ）。

表２－a　平日における家庭学習の時間と授業に対する満足度との関連（%）

設問13＼設問40	楽しい	どちらかといえば，楽しい	どちらかといえば，楽しくない	楽しくない
２時間以上	55.8	30.6	8.3	5.2
１時間以上～２時間より少ない	46.3	39.1	10.8	3.8
30分以上～１時間より少ない	38.5	42.2	14.5	4.7
30分より少ない	27.6	39.9	22.6	9.9
ほとんどしない	16.0	30.5	26.2	27.3

そこで学校は，子供が学ぶことに興味・関心をもち，家庭学習の更なる定着を図るよう，宿題の出し方や課題内容を工夫したり，家庭学習と関連性をもたせた授業を構築したりするなど，子供が主体的に家庭学習に取り組むことができるような支援を継続して行っていきたい。

２　家庭は，子供が主体的に学ぶ力をつけ，自己の可能性を広げるために，情報機器を有効に活用したり，地域の施設や人材を積極的に利用したりできるようにして，励ましや助言を行いましょう

家庭学習における主体性について集計結果を見ると，「よく」または「ときどき」自分で考えて勉強していると回答した割合は，58.5％となっている。ただし，学年が進むにつれて家で自主的に勉強に取り組む割合は減少している（p.23 図２－３）。また，主体的に家庭学習に取り組む子供は，努力次第で苦手なものでもできるようになると思う傾向がある（p.23 表２－３）。

一方，家庭学習における情報機器の利用について集計結果を見ると，「よく使う」と回答した割合が，平成25年度調査と比較すると３倍に増えている（p.24 表２－④）。さらに，学年が進むにつれて，家庭学習における情報機器の利用が増加している（p.24 図２－４）。しかし，自主的に家庭学習に取り組む子供と情報機器の利用頻度の関わりは弱い（p.24 表２－４）。

表２－b　地域の施設を利用して主体的に学ぶ機会と学習への取組の現状との関連（%）

設問21＼設問47	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	進んで取り組んでいるとは思わない
よくしている	57.0	33.6	7.1	2.3
ときどきしている	42.8	46.8	8.7	1.7
あまりしていない	33.5	50.8	13.3	2.5
まったくしていない	27.0	45.0	19.1	8.8

また，地域の施設を利用して主体的に学ぶ機会について集計結果を見ると，「よく」または「ときどき」利用していると回答した割合は，45.5％である（p.29 図２－９）。地域の施設を利用して主体的に学ぶ機会が多い子供は，宿題以外にも自分で考えて勉強している傾向が見られる（p.29 表２－９）。さらに，地域の施設の利用を「よくしている」と回答した子供のうち，授業中，学習に「進ん

で取り組んでいる」と回答した割合は57.0％と最も高く，地域の施設を利用している子供ほど学習への取組が積極的である傾向も見られる（表２－ｂ）。

これらのことから，子供が主体的に学習に取り組み，自己の可能性を広げるために，家庭では，地域の施設を利用したり，多くの人と関わりあう機会をつくったりすることが必要である。また，子供が様々な情報機器を有効に活用して家庭学習ができるよう，励ましや助言を行うことが大切である。

３　学校・家庭・地域社会は，子供が学びの有用性を実感するために，学習と生活や社会とを結び付けることができるよう連携して，連続性のある学びの機会をつくりましょう

家庭学習における家の人との関わりについて集計結果を見ると，家の人からアドバイスを「よくしてもらう」または「ときどきしてもらう」と回答した割合は63.8％であり，これらの子供は，「学校以外の全ての学習が役に立つ」と感じている割合が高い（p.22 表２－２）。また，学校以外での学習に対して意欲的に取り組もうとしている子供が，74.4％いる（p.28 図２－８）。これらの子供は，「学校以外での全ての学習の有用性」を感じている割合が80.8％と高い（p.28 表２－８）。

さらに，地域の人から学ぶ機会が「よくある」または「ときどきある」と回答した子供の割合は33.2％である（ｐ.30 図２-10）。これらの子供は，「学校以外での全ての学習の有用性」を感じている割合が高い（表２－ｃ）。

表２－c　地域の人から学ぶ機会と学校以外での全ての学習の有用性（%）

設問22＼設問24	役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思わない	役に立つと思わない
よくある	80.8	14.9	3.0	1.4
ときどきある	71.0	23.9	3.7	1.4
あまりない	63.5	30.0	4.9	1.6
まったくない	56.0	31.2	7.6	5.3

これらのことから，現在学んでいることが，ほかの学習や実生活，自分の将来やよりよい社会形成に役立つのだという「学びの有用性」を実感できるよう，学校，家庭，地域社会は連携し，子供たちにアドバイスや声かけを行う機会をつくることが大切である。

また，家庭学習においてアドバイスを「よくしてもらう」，地域の人から学ぶ機会が「よくある」と回答している子供は，「学校以外での全ての学習に有用性」を感じる割合が高くなることから，連携して，学びの機会をつくることが大切である。

４　学校・家庭・地域社会は，子供の自己有用感を高めるために，連携して学んだことを生かす場を提供しましょう

学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感について集計結果を見ると，学校以外での勉強や習いごとで学んだことが誰かの役に立ったと思うときがある子供が 59.5％となっている（ｐ.33 図２―13）。また，自己有用感の高い子供は，地域活動によく参加している傾向が見られる（ｐ.33 表２―13）。さらに，学校以外での全ての学習によって育まれる自己有用感が高い子供は，学校生活の中での自己有用感も高い傾向も見られる（表２－ｄ）。

これらのことから，学校・家庭・地域社会は，学校教育活動や家庭・地域活動において，子供が，「学んだことが誰かの役に立った」と実感できる場を提供していくことが必要である。そうすることで子供の自己有用感が高まる。学校・家庭・地域社会は積極的に連携を図りたい。

表２－ｄ　学校以外で育まれる自己有用感と学校生活における自己有用感との関連（%）

設問25＼設問37	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よくある	48.8	40.1	8.5	2.6
ときどきある	17.7	62.0	18.1	2.3
あまりない	9.0	48.5	37.2	5.3
まったくない	7.2	25.0	41.0	26.8
機会がないからわからない	10.4	35.9	35.1	18.6

第３章
学校における生活

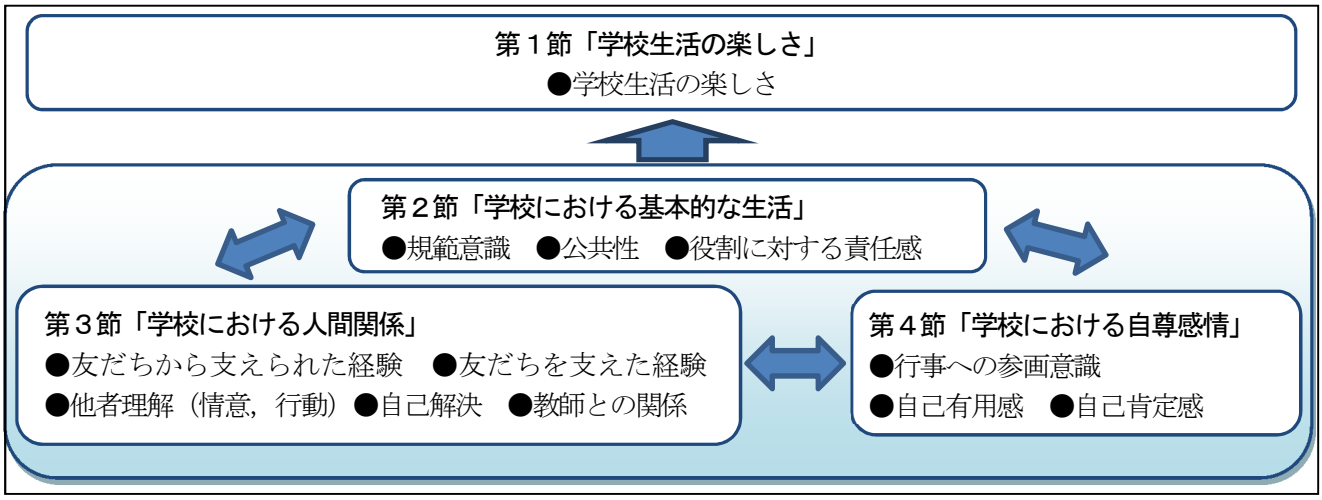
本章では，「学校生活の楽しさ」「学校における基本的な生活」「学校における人間関係」「学校における自尊感情」の４点から，時代の変化に伴う子供たちの学校生活の実態や意識の変化を探っていきます。
そして，子供たちが学校生活を楽しく過ごすための教師や子供同士の関わり方について提言します。

教育基本法第６条第２項では，「学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに，自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない」と規定されている。このことを踏まえ，平成 20 年３月に告示された学習指導要領においても，学校は，生きる力を育むことを目指し，基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること，道徳教育や体育などの充実により，豊かな心と健やかな体を育成することが改めて明示された。これらのことから，各学校では一人一人の学ぶ意欲や学力を向上させるとともに，基本的な生活習慣や社会生活を送る上で，もつべき規範意識を身に付けさせるとともに，生命の尊重，思いやりの心などを育む必要性がある。

第 17 次の調査結果では，「学校生活の楽しさ」と「学校における人間関係」とは密接な関係があり，同時に「学校生活の楽しさ」と「学校における自尊感情」にも密接な関係があることが明らかになった。これらのことを受け，第 18 次の研究では，経年変化を見るために引き続き子供たちを取り巻く学校生活の実態に目を向け，学校生活における子供たちの姿や思いを探る。さらに，「学校における人間関係」の中に，「他者理解（情意面）（行動面）」「自己解決」の設問の視点を新設し，「主体的な学び」や「自己有用感」に関する姿や思いを探ることを通して，「学校生活の楽しさ」との関連を明らかにすることが必要であると考えた。

そこで，本章では引き続き，「学校生活の楽しさ」「学校における基本的な生活」「学校における人間関係」「学校における自尊感情」の四つの切り口を設定した。まず，「学校生活の楽しさ」では，一日の大半を過ごす学校生活を，子供たちが楽しいと捉えているかについて探る。次に，「学校における基本的な生活」では，学校でのきまりをどのくらい守るのか，公共物をどう取り扱うのか，学級の当番やそうじなどの活動へどう取り組むかについて探る。そして，「学校における人間関係」では，友だちから支えられた経験や友だちを支えた経験がどれくらいあるか，友だちの考え（自分とはちがう）を聞くことは大切だと思っているか，聞いているか，困ったことが起きたときまわりの人に相談しているか，担任の先生とどれくらい会話をしているかについて探る。最後に，「学校における自尊感情」では，学校や学年の行事へどれくらい参画していると思うか，誰かの役に立ったと思うか，まわりから大切にされていると思うかについて探る。

分析に当たっては，学校生活における子供たちの姿や思いを捉え，時代の変化に伴う子供たちの学校生活の実態や意識の変化を明らかにする。そして，子供たちが学校生活を楽しく過ごすための教師や子供同士の関わり方について提言する。



「学校における生活」の調査構造

第１節　学校生活の楽しさ

３－１　学校生活の楽しさ

＜設問 26＞あなたは，学校生活が楽しいですか。

図３－１　学校生活の楽しさ（設問26）

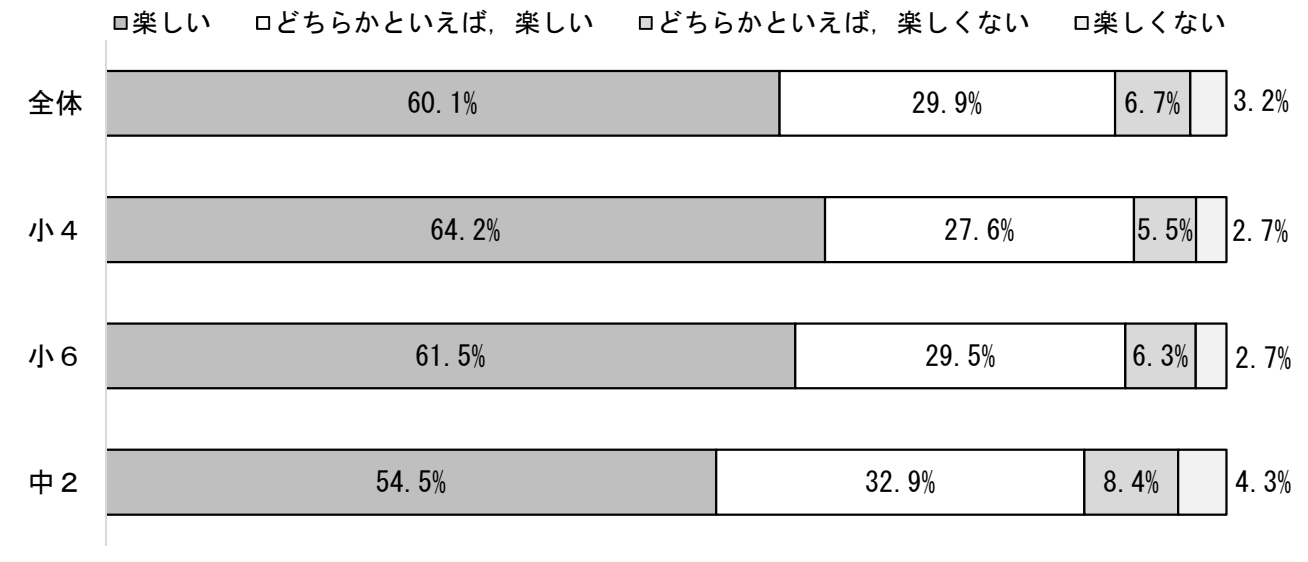


図３－１は，《設問 26》の集計結果である。全体では，学校生活が「楽しい」と回答した割合は，60.1%で最も高い。また，「楽しい」または「どちらかといえば，楽しい」と学校生活の楽しさについて肯定的に回答した割合を合わせると 90.0%になっている。

学年別では，「楽しい」または「どちらかといえば，楽しい」と回答した割合を合わせると，小４で 91.8%，小６で 91.0%，中２で 87.4%となっており，学年が進むにつれて減少している。

一方，「どちらかといえば，楽しくない」または「楽しくない」と学校生活の楽しさについて否定的に回答した割合は，学年が進むにつれて増加しており，中２では 12.7%となっている。

平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，全体では「楽しい」と回答した割合が増加傾向にある（表３－①）。

表３－①　これまでの調査で「楽しい」と回答した割合（%）

H19	H22	H25	H28
51.0	53.8	57.4	60.1

○　学校生活の楽しさと授業に対する満足度との関連

表３－１は，本設問と《授業に対する満足度：設問 40》をクロス集計した結果である。

学校生活が「楽しい」と回答した子供の57.9%が学校の授業が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば，楽しい」と回答した33.0%を加えると，学校生活が「楽しい」と回答した子供の90.9%が，授業に対する満足度について肯定的に回答している。

一方，学校生活が「楽しくない」と回答した子供の66.0%が，授業が「楽しくない」と回答している。「どちらかといえば，楽しくない」と回答した17.5%を加えると，学校生活が「楽しくない」と回答した子供の83.5%が，授業の満足度について否定的に回答している。

表３－１　学校生活の楽しさと授業に対する満足度との関連（%）

設問 26 ＼ 設問 40	楽しい	どちらかといえば，楽しい	どちらかといえば，楽しくない	楽しくない
楽しい	57.9	33.0	6.7	2.4
どちらかといえば，楽しい	15.5	54.5	23.3	6.7
どちらかといえば，楽しくない	7.8	25.4	43.0	23.8
楽しくない	7.0	9.5	17.5	66.0

第２節　学校における基本的な生活

３－２　規範意識

＜設問 27＞あなたは，学校でのきまりを守っていますか。

図３－２　規範意識（設問27）

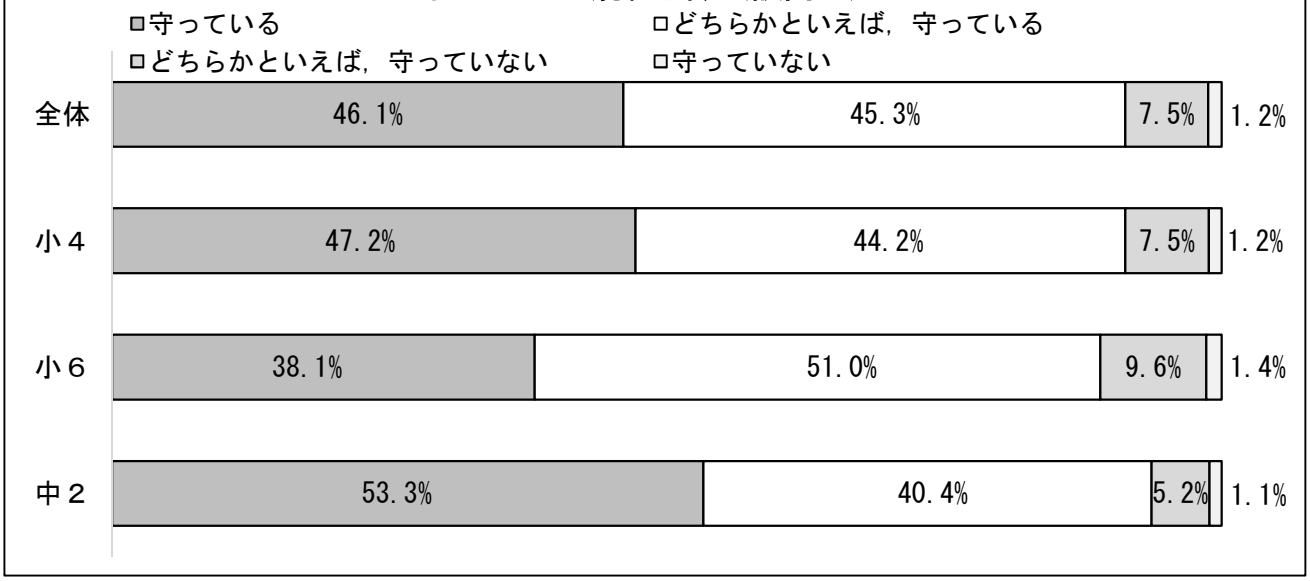


図３－２は，《設問 27》の集計結果である。全体では，学校でのきまりを「守っている」と回答した割合が，46.1%で最も高い。また，「守っている」または「どちらかといえば，守っている」と肯定的に回答した割合を合わせると 91.4%になっている。

学年別では，「守っている」または「どちらかといえば，守っている」と回答した割合を合わせると，小４で 91.4%，小６で 89.1%，中２で 93.7%となっており，中２が最も高く，小６が最も低い。

平成 25 年度の調査と比較すると，全体では，「守っている」と回答した割合が増加している（表３－②）。

表３－② これまでの調査で「守っている」と回答した割合（%）

H25	H28
40.6	46.1

○　規範意識と役割に対する公共性との関連

表３－２は，本設問と《公共性：設問28》をクロス集計した結果である。

学校できまりを「守っている」と回答した子供の89.1%が，そうじ道具など，みんなで使うものを「大切にあつかっている」と回答している。「どちらかといえば，大切にあつかっている」と回答した10.3%を加えると，学校でのきまりを「守っている」子供の99.4%が，公共性について肯定的に回答している。

一方，学校でのきまりを「守っていない」と回答した子供の48.7%が，みんなで使うものを「大切にあつかっていない」と回答している。「どちらかといえば，大切にあつかっていない」と回答した22.8%を加えると，学校でのきまりを守っていないと回答した子供の71.5%が，公共性について否定的に回答している。

表３－２　規範意識と役割に対する公共性との関連

（%）

設問 28 ＼ 設問 27	大切にあつかっている	どちらかといえば，大切にあつかっている	どちらかといえば，大切にあつかっていない	大切にあつかっていない
守っている	89.1	10.3	0.5	0.1
どちらかといえば，守っている	56.9	40.1	2.9	0.2
どちらかといえば，守っていない	28.4	52.9	16.4	2.3
守っていない	24.9	22.5	22.8	48.7

３－３　公共性

＜設問 28＞あなたは，そうじ道具など，みんなが使うものを大切にあつかっていますか。

図３－３　公共性（設問28）

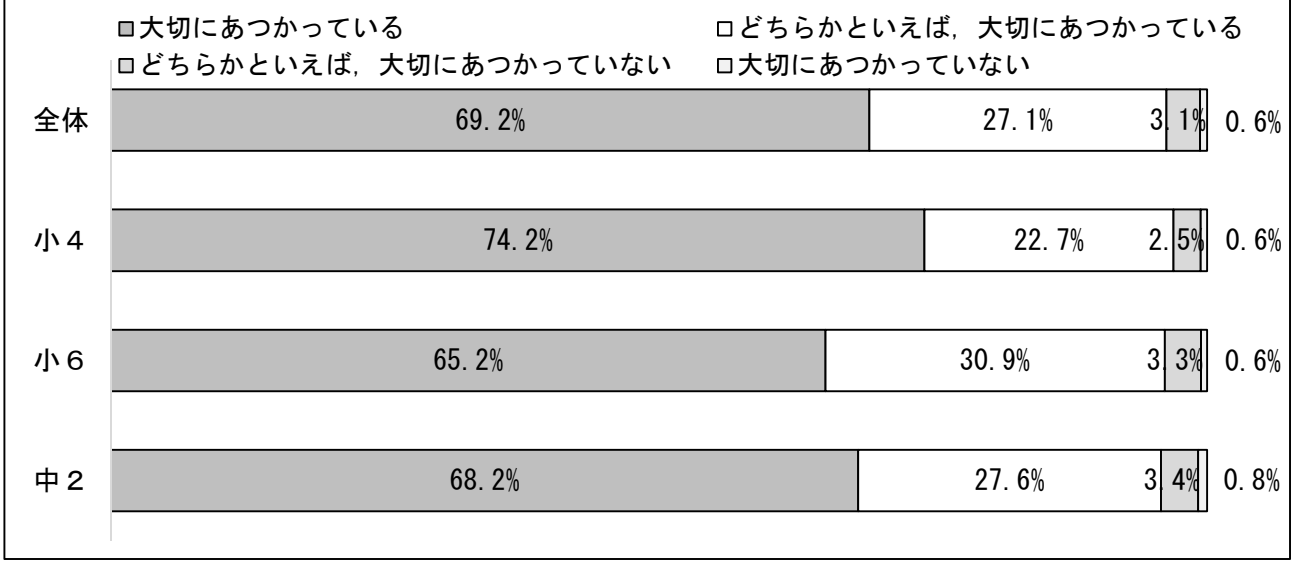


図３－３は，《設問 28》の集計結果である。全体では，「大切にあつかっている」と回答した割合は 69.2%と最も高い。また，「大切にあつかっている」または「どちらかといえば，大切にあつかっている」と回答した割合を合わせると，96.3%になっている。

学年別では，「大切にあつかっている」と回答した割合は，小４で 74.2%，小６で 65.2%，中２が 68.2%となっており，小４が最も高く，小６が最も低い。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，全体では，「大切にあつかっている」と回答した割合が増加傾向にある（表３－③）。

表３－③　これまでの調査で「大切にあつかっている」と回答した割合（%）
（H25 から設問を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
41.5	47.5	61.9	69.2

○　公共性と役割に対する責任感との関連

表３－３は，本設問と《役割に対する責任感：設問 29》をクロス集計した結果である。

そうじ道具など，みんなが使うものを「大切にあつかっている」と回答した子供の 65.6%が，学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」と回答している。「どちらかといえば，責任をもって取り組んでいる」と回答した 31.4%を加えると，97.0%が役割に対する責任感について肯定的に回答している。

一方，そうじ道具など，みんなが使うものを「大切にあつかっていない」と回答した子供の 56.0%が，当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいない」と回答している。「どちらかといえば，責任をもって取り組んでいない」と回答した 18.1%を加えると，74.1%が，役割に対する責任感について否定的に回答している。

表３－３　公共性と役割に対する責任感との関連（%）

設問 29 ＼ 設問 28	責任をもって取り組んでいる	どちらかといえば，責任をもって取り組んでいる	どちらかといえば，責任をもって取り組んでいない	責任をもって取り組んでいない
大切にあつかっている	65.6	31.4	2.3	0.6
どちらかといえば，大切にあつかっている	23.9	60.9	13.6	1.6
どちらかといえば，大切にあつかっていない	12.3	36.2	39.5	12.0
大切にあつかっていない	14.3	11.5	18.1	56.0

３－４　役割に対する責任感

＜設問 29＞あなたは，学級の当番やそうじなどの活動に責任をもって取り組んでいますか。

図３－４　役割に対する責任感（設問29）

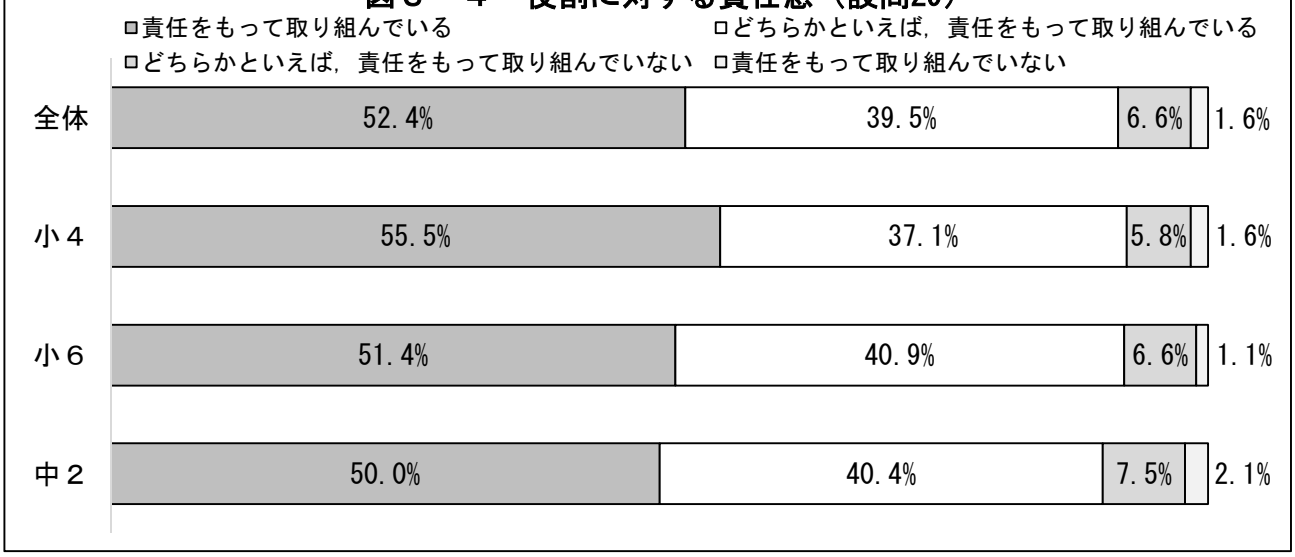


図３－４は，《設問 29》の集計結果である。全体では，「責任をもって取り組んでいる」と回答した割合は 52.4％で最も高い。また，「責任をもって取り組んでいる」または「どちらかといえば，責任をもって取り組んでいる」と回答した割合を合わせると，91.9％となっている。

学年別では「責任をもって取り組んでいる」または「どちらかといえば，責任をもって取り組んでいる」と回答した割合を合わせると小４で 92.6％，小６で 92.3％，中２で 90.4％と学年が進むにつれて減少傾向にある。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，全体では，「責任をもって取り組んでいる」と回答した割合が増加傾向にある（表３－④）。

表３－④　これまでの調査で「責任をもって取り組んでいる」と回答した割合（%）
（H25 から設問と選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
34.4	37.9	46.7	52.4

○　役割に対する責任感と学習への取組の現状との関連

表３－４は，本設問と《学習への取組の現状との関連：設問47》をクロス集計した結果である。

学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」と回答した子供の54.6％が，学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答している。「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う」と回答した38.2％を加えると，学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」子供の92.8％が，学習への取組について肯定的に回答している。

一方，学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいない」と回答した子供の46.7％が，学習に「進んで取り組んでいるとは思わない」と回答している。「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない」と回答した22.8％を加えると，69.5％が，学習への取組について否定的に回答している。

表３－４　役割に対する責任感と学習への取組の現状との関連（%）

設問 29 ＼ 設問 47	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	進んで取り組んでいると思わない
責任をもって取り組んでいる	54.6	38.2	5.8	1.3
どちらかといえば，責任をもって取り組んでいる	22.3	57.7	16.7	3.3
どちらかといえば，責任をもって取り組んでいない	11.6	37.9	35.3	15.3
責任をもって取り組んでいない	11.3	19.2	22.8	46.7

第３節　学校における人間関係

３－５　友だちから支えられた経験

＜設問 30＞あなたは，学校生活の中で，友だちから励まされたり，勇気づけられたりすることがありますか。

図３－５　友だちから支えられた経験（設問 30）

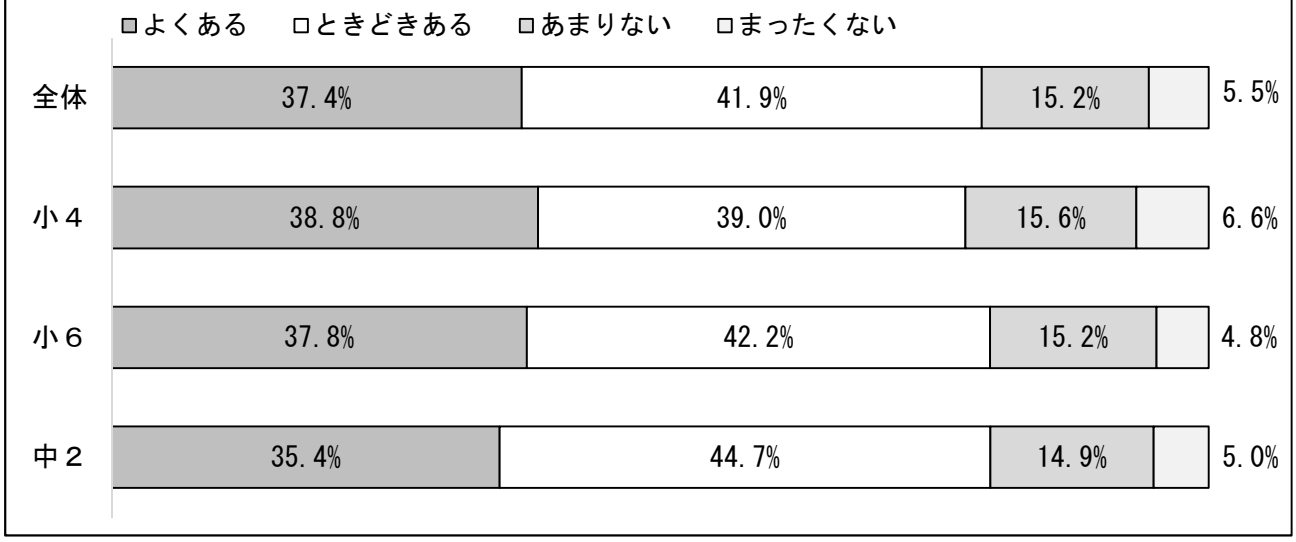


図３－５は，《設問 30》の集計結果である。全体では，「ときどきある」と回答した割合は 41.9%で最も高い。また，「まったくない」と回答した割合は 5.5%で最も低い。

学年別では，「よくある」または「ときどきある」と回答した割合を合わせると，小４で 77.8%，小６で 80.0%，中２で 80.1%となっており，学年が進むにつれて増加している。「まったくない」と回答した割合は小４で 6.6%，小６で 4.8%，中２で 5.0%と小４が最も高い。

一概には言えないが，平成 19 年度から平成 28 年度までを比較すると，全体で「よくある」と回答した割合は，平成 19 年度は 32.0%，平成 22 年度は 32.9%，平成 25 年度は 32.7%と同程度であったが，平成 28 年度には 37.4%と増加している（表３－⑤）。

表３－⑤　これまでの調査で「よくある」と回答した割合（%）
（H25 から設問と選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
32.0	32.9	32.7	37.4

○　友だちから支えられた経験と教師から認められた経験との関連

表３－５は，本設問と《教師から認められた経験：設問45》をクロス集計した結果である。

友だちから支えられた経験が「よくある」と回答した子供の27.8%が，教師から認められた経験が「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した43.7%を加えると，友だちから支えられた経験が「よくある」子供の71.5%が，教師から認められた経験について肯定的に回答している。

一方，友だちから支えられた経験が「まったくない」と回答した子供の48.0%が，教師から認められた経験が「まったくない」と回答している。「あまりない」と回答した26.1%を加えると，友だちから支えられた経験が「まったくない」子供の74.1%が，教師から認められた経験について否定的に回答している。

表３－５　友だちから支えられた経験と教師から認められた経験との関連（%）

設問 30 ＼ 設問 45	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よくある	27.8	43.7	22.1	6.4
ときどきある	9.8	46.3	35.0	8.9
あまりない	6.4	30.9	43.9	18.8
まったくない	6.7	19.2	26.1	48.0

３－６　友だちを支えた経験

＜設問 31＞あなたは，学校生活の中で，友だちを励ましたり，勇気づけたりすることがありますか。

図３－６　友だちを支えた経験（設問 31）

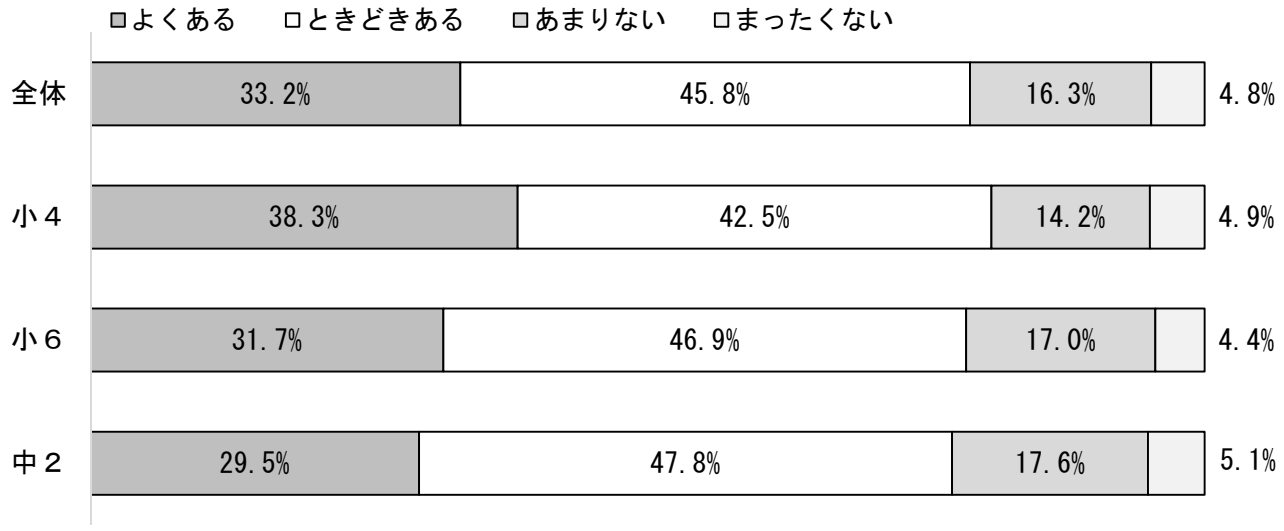


図３－６は，《設問 31》の集計結果である。全体では，「ときどきある」と回答した割合は 45.8%で最も高い。また，「まったくない」と回答した割合は 4.8%で最も低い。

学年別では，「よくある」と回答した割合は，小４で 38.3%，小６で 31.7%，中２で 29.5%となっており，学年が進むにつれて減少している。「まったくない」と回答した割合は，小４で 4.9%，小６で 4.4%，中２で 5.1%となっており，全学年ともほぼ同じである。

平成 25 年度の調査と比較すると，全体では「よくある」と回答した割合は，平成 25 年度は 26.1%，平成 28 年度は 33.2%と増加している（表３－⑥）。

表３－⑥　これまでの調査で「よくある」と回答した割合（%）

H25	H28
26.1	33.2

○　友だちを支えた経験と友だちから支えられた経験との関連

表３－６は，本設問と《友だちから支えられた経験：設問30》をクロス集計した結果である。

友だちを支えた経験が「よくある」と回答した子供の70.4%が，友だちから支えられた経験が「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した22.9%を加えると，友だちを支えた経験が「よくある」子供の93.3%が，友だちから支えられた経験について肯定的に回答している。

一方，友だちを支えた経験が「まったくない」と回答した子供の54.7%が，友だちから支えられた経験が「まったくない」と回答している。「あまりない」と回答した25.4%を加えると，友だちを支えた経験が「まったくない」子供の80.1%が，友だちから支えられた経験について否定的に回答している。

表３－６　友だちを支えた経験と友だちから支えられた経験との関連（%）

設問 30 ＼ 設問 31	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よくある	70.4	22.9	4.7	2.1
ときどきある	27.3	58.7	11.7	2.3
あまりない	7.3	42.2	43.6	6.9
まったくない	6.8	13.1	25.4	54.7

３－７　他者理解（情意面）

＜設問 32＞あなたは，学校生活の中で，いろいろな友だちの考えや意見を聞くことは大切だと思いますか。

図３－７　他者理解（情意面）（設問32）

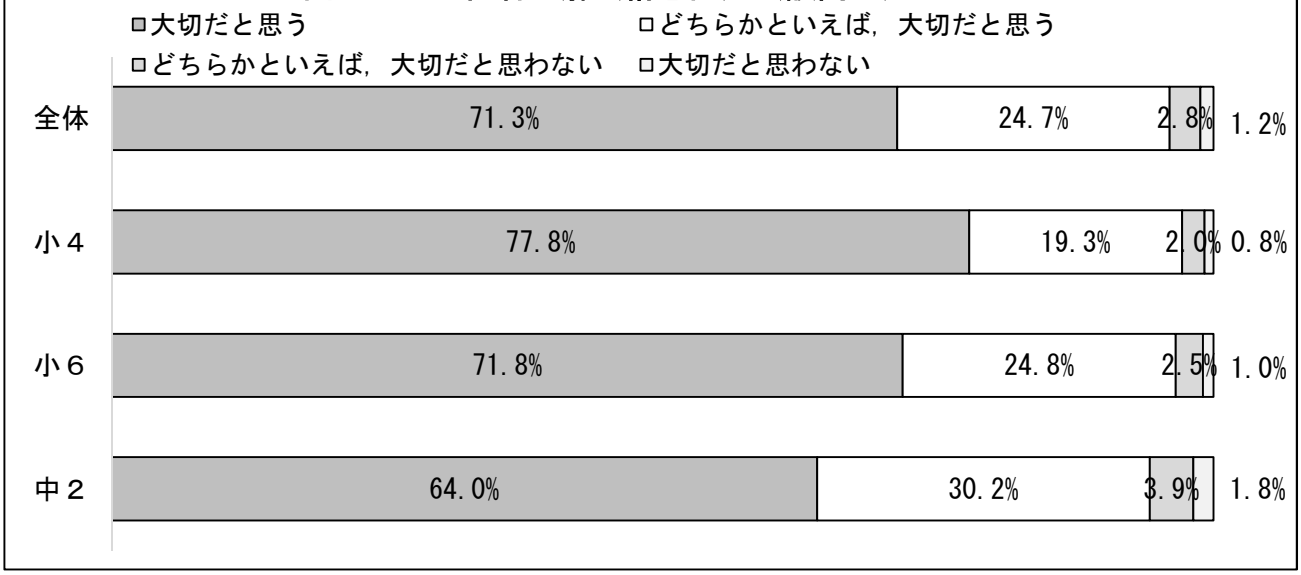


図３－７は，《設問 32》の集計結果である。全体では，「大切だと思う」と回答した割合は，71.3%で最も高い。また，「大切だと思う」または「どちらかといえば，大切だと思う」と回答した割合を合わせると 96.0%になっている。

学年別では，「大切だと思う」と回答した割合は，小４で 77.8%，小６で 71.8%，中２で 64.0%となっており，学年が進むにつれて減少している。一方，学校生活の中で，いろいろな友だちの考えを聞くことが「どちらかといえば，大切だと思わない」または「大切だと思わない」と否定的な回答をした割合は，小４で 2.8%，小６で 3.5%，中２で 5.7%となっており，学年が進むにつれて増加している。

なお，《設問 32》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　他者理解（情意面）と学校の学習内容の有用性との関連

表３－７は，本設問と《学校の学習内容の有用性：設問 49》をクロス集計した結果である。

学校生活の中で，いろいろな友だちの考えや意見を聞くことは「大切だと思う」と回答した子供の73.8%が，学校で学習していることが「役に立つと思う」と回答している。「どちらかといえば，役に立つと思う」と回答した20.7%を加えると，いろいろな友だちの考えや意見を聞くことは「大切だと思う」子供の94.5%が，学習内容の有用性について肯定的に回答している。

一方，いろいろな友だちの考えや意見を聞くことは「大切だとは思わない」子供の45.7%が，学習していることは「役に立つとは思わない」と回答している。「どちらかといえば，役に立つとは思わない」と回答した17.7%を加えると，63.4%が，学習内容の有用性について否定的に回答している。

表３－７　他者理解（情意面）と学校の学習内容の有用性との関連（%）

設問 49 ＼ 設問 32	役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思わない	役に立つと思わない
大切だと思う	73.8	20.7	4.0	1.5
どちらかといえば，大切だと思う	34.5	49.3	12.5	3.7
どちらかといえば，大切だと思わない	16.7	35.6	29.8	17.9
大切だと思わない	18.0	18.6	17.7	45.7

３－８　他者理解（行動面）

＜設問 33＞あなたは，学校生活の中で，自分とはちがう友だちの考えや意見を聞いていますか。

図３－８　他者理解（行動面）（設問33）

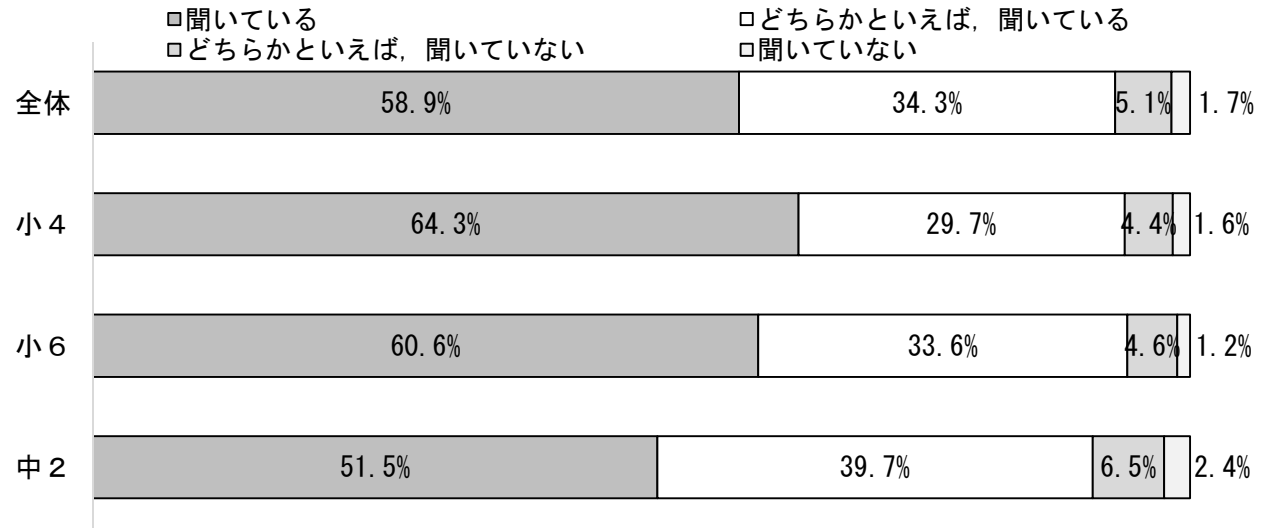


図３－８は，《設問 33》の集計結果である。全体では，自分とはちがう友だちの考えや意見を「聞いている」と回答した割合は，58.9%で最も高い。「聞いている」または「どちらかといえば，聞いている」と回答した割合を合わせると 93.2%になっている。また，自分とはちがう友だちの考えや意見を「聞いていない」と回答した割合は，1.7%で最も低い。

学年別では，「聞いている」と回答した割合は，小４で 64.3%，小６で 60.6%，中２で 51.5%となっており，学年が進むにつれて減少している。一方，自分とはちがう友だちの考えや意見を「どちらかといえば，聞いていない」または「聞いていない」と回答した割合を合わせると，小４で 6.0%，小６で 5.8%，中２で 8.9%となっており，中２が最も高く，小６が最も低い。

なお，《設問 33》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　他者理解における行動面と情意面との関連

表３－８は，本設問と《他者理解（情意面）：設問 32》をクロス集計した結果である。

自分とはちがう友だちの考えや意見を「聞いている」と回答した子供の87.9%が，いろいろな友達の考えや意見を聞くことは「大切だと思う」と回答している。「どちらかといえば，大切だと思う」と回答した11.3%を加えると，99.2%が，友だちの考えや意見を聞くことについて肯定的に回答をしている。

一方，自分とはちがう友だちの考えや意見を「聞いていない」と回答した子供の34.4%が，いろいろな友達の考えや意見を聞くことは「大切だと思わない」と回答している。「どちらかといえば，大切だと思わない」と回答した17.8%を加えると，52.2%が，友だちの考えや意見を聞くことについて否定的に回答している。

表３－８　他者理解における行動面と情意面との関連

（%）

設問 32 ＼ 設問 33	大切だと思う	どちらかといえば，大切だと思う	どちらかといえば，大切だと思わない	大切だと思わない
聞いている	87.9	11.3	0.5	0.3
どちらかといえば，聞いている	51.8	44.1	3.4	0.6
どちらかといえば，聞いていない	26.0	49.3	20.1	4.6
聞いていない	26.6	21.2	17.8	34.4

３－９　自己解決

＜設問 34＞あなたは，学校生活の中で，困ったことが起きたとき，まわりの人に相談しますか。

図３－９　自己解決（設問 34）

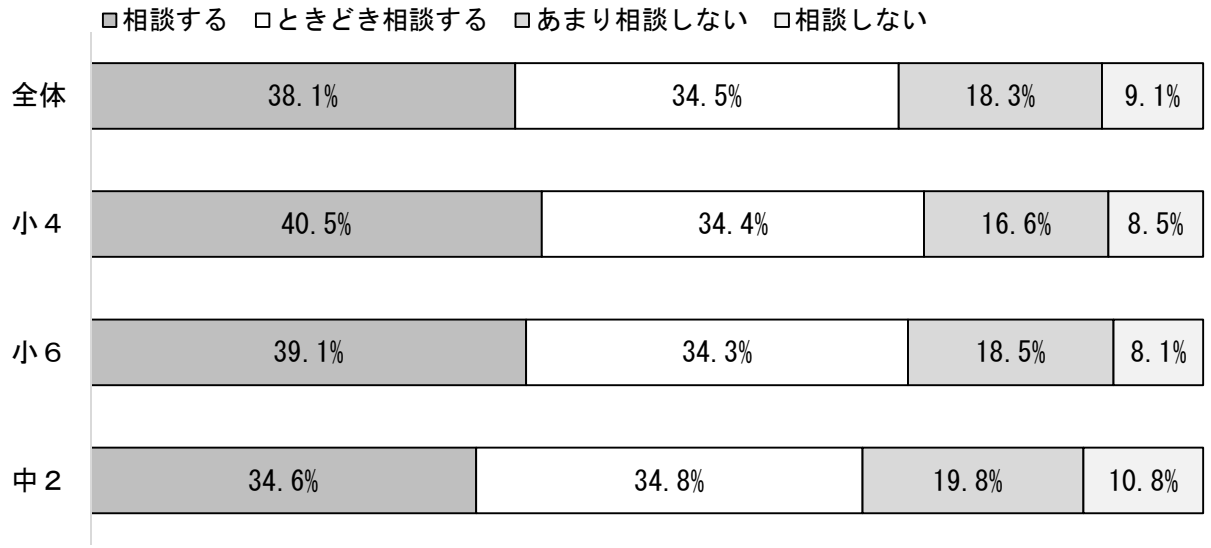


図３－９は，《設問 34》の集計結果である。学校生活の中で，困ったことが起きたとき，まわりの人に「相談する」または「ときどき相談する」と回答した割合が，全体では 72.6%となっている。

学年別では，「相談する」または「ときどき相談する」と回答した割合は，小４で 74.9%となっており最も高く，小６で 73.4%，中２で 69.4%となり，学年が進むにつれて低くなっている。特に，「相談する」と回答した子供の割合は，小４の 40.5%に対して，中２では 34.6%となっている。

また，「相談しない」と回答した割合は，小４で 8.5%，小６で 8.1%，中２で 10.8%となっており，ほぼ変わらない。全体で「あまり相談しない」または「相談しない」と回答した割合は 27.4%と３割近い値を示している。

なお，《設問 34》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　自己解決と友だちを支えた経験との関連

表３-９は，本設問と《友だちを支えた経験：設問 31》をクロス集計した結果である。

学校生活で困ったことが起きたとき，まわりの人に「相談する」と回答した子供の 51.7%が，友だちを支えた経験が「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した 39.6%を加えると，まわりの人に「相談する」と回答した子供の 91.3%が，友達を支えた経験について肯定的に回答している。

一方，学校生活で困ったことが起きたとき，まわりの人に「相談しない」と回答した子供の 24.5%が，友だちを支えた経験が「まったくない」と回答している。「あまりない」と回答した 26.9%を加えると，まわりの人に「相談しない」と回答した子供の 51.4%が，友だちを支えた経験について否定的に回答をしている。

表３－９　自己解決と友だちを支えた経験との関連

（%）

設問 34 ＼ 設問 31	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
相談する	51.7	39.6	7.0	1.8
ときどき相談する	25.4	56.2	16.2	2.1
あまり相談しない	16.7	46.4	30.5	6.4
相談しない	18.2	30.5	26.9	24.5

３－10　教師との関係

＜設問 35＞あなたは，担任の先生とどのくらい話をしますか。

図３－10　教師との関係（設問35）

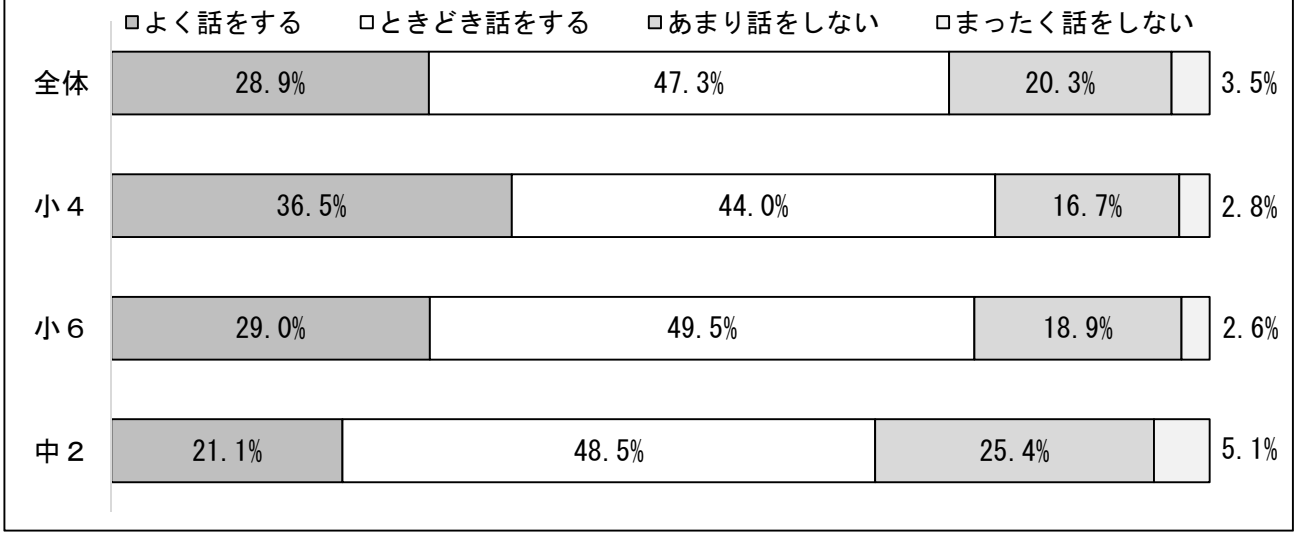


図３－10 は，《設問 35》の集計結果である。全体では，担任の先生と「ときどき話をする」と回答した割合が 47.3%で最も高い。また，「まったく話をしない」と回答した割合は 3.5%で最も低い。「よく話をする」「ときどき話をする」と回答した割合を合わせると 76.2%になっている。

学年別では，「よく話をする」または「ときどき話をする」と回答した割合を合わせると，小４で 80.5%，小６で 78.5%，中２で 69.6%となっており，学年が進むにつれて減少している。また，「まったく話をしない」と回答した割合は，小４で 2.8%，小６で 2.6%，中２で 5.1%となっており，中学生になると急に増加している。中２においては，担任の先生と「あまり話をしない」または「まったく話をしない」と回答した割合を合わせると 30.5%である。

平成 25 年度の調査と比較すると，全体では「よく話をする」と回答した割合が増加している（表３－⑩）。

表３－⑩　これまでの調査で「よく話をする」と回答した割合（%）

H25	H28
23.1	28.9

○　教師との関係と教師から認められた経験との関連

表３－10は，本設問と《教師から認められた経験：設問45》をクロス集計した結果である。

担任の先生と「よく話をする」と回答した子供の 31.8%が，教師から認められた経験が「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した44.6%を加えると，担任の先生と「よく話をする」子供の76.4%が，教師から認められた経験について肯定的に回答している。

一方，担任の先生と「まったく話をしない」と回答した子供の52.6%が，教師から認められた経験が「まったくない」と回答している。「あまりない」と回答した27.4%を加えると，80.0%が，教師から認められた経験について否定的に回答している。

表３－10　教師との関係と教師から認められた経験との関連（%）

設問 45 ＼ 設問 35	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よく話をする	31.8	44.6	18.0	5.6
ときどき話をする	11.3	47.4	32.7	8.5
あまり話をしない	5.2	28.0	46.6	20.2
まったく話をしない	5.9	14.1	27.4	52.6

第４節　学校における自尊感情

３－11　行事への参画意識

＜設問 36＞あなたは，学校や学年の行事に，進んで取り組んでいると思いますか。

図３－11　行事への参画意識（設問36）

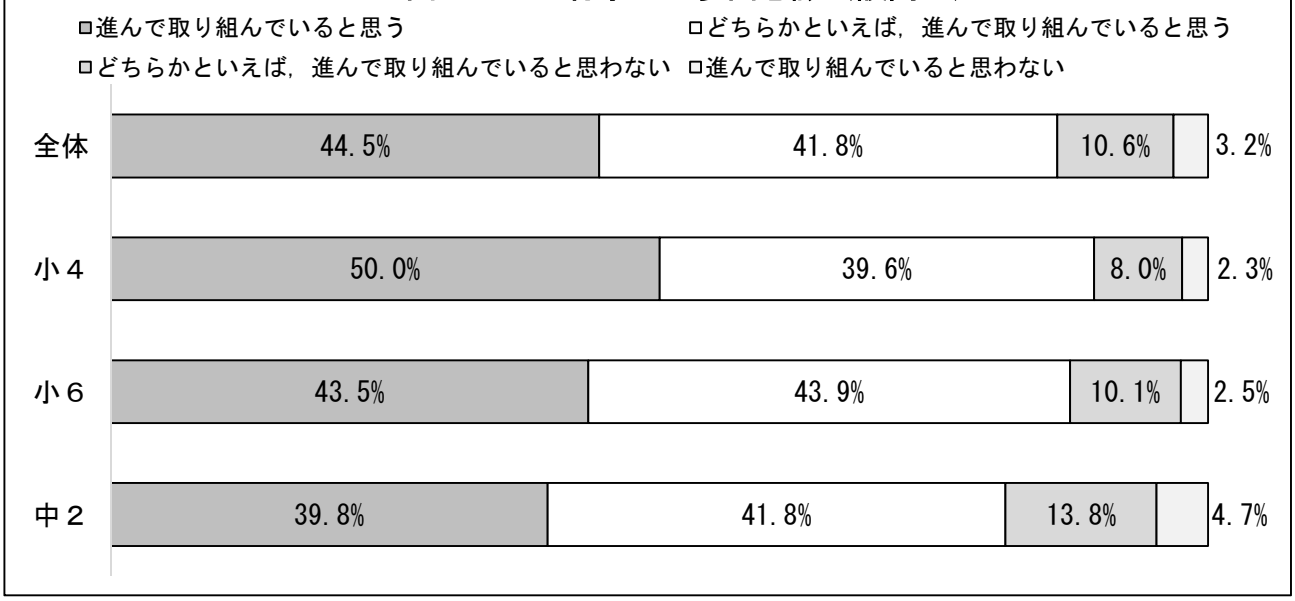


図３－11 は，《設問 36》の集計結果である。全体では，学校や学年の行事に「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合が 44.5%でもっとも高い。また，「進んで取り組んでいると思う」「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う」と回答した割合を合わせると，86.3%になっている。

学年別では，「進んで取り組んでいると思う」「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う」と回答した割合を合わせると，小４で 89.6%，小６で 87.4%，中２で 81.6%となっており，小４が最も進んで取り組む割合が高く，中２が最も低い。学年が進むにつれて，学校や学年の行事に進んで取り組む割合が低くなっている。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，全体では「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合が増加傾向にある。特に，平成 25 年度から平成 28 年度にかけては，32.7%から 44.5%と大きく増加している（表３－⑪）。

表３－⑪　これまでの調査で「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合（%）
（H25 から選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
29.4	32.3	32.7	44.5

○　行事への参画意識と自己有用感との関連

表３－11は，本設問と《自己有用感：設問37》をクロス集計した結果である。

学校や学年の行事に「進んで取り組んでいると思う」と回答した子供の35.9%が，学校生活の中で誰かの役に立ったと思うときが「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した49.3%を加えると，85.2%が，自己有用感について肯定的に回答している。

一方，学校や学年の行事に「進んで取り組んでいると思わない」と回答した子供の50.1%が，誰かの役に立ったと思うときが「まったくない」と回答している。「あまりない」と回答した29.1%を加えると，79.2%が，自己有用感について否定的に回答している。

表３－11　行事への参画意識と自己有用感との関連（%）

設問 37 ＼ 設問 36	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
進んで取り組んでいると思う	35.9	49.3	12.0	2.8
どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	11.3	54.0	29.7	4.9
どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	5.5	32.6	45.8	16.2
進んで取り組んでいると思わない	5.3	15.5	29.1	50.1

３－12　自己有用感

＜設問 37＞あなたは，学校生活の中で，誰かの役に立ったと思うときがありますか。

図３－12　自己有用感（設問37）

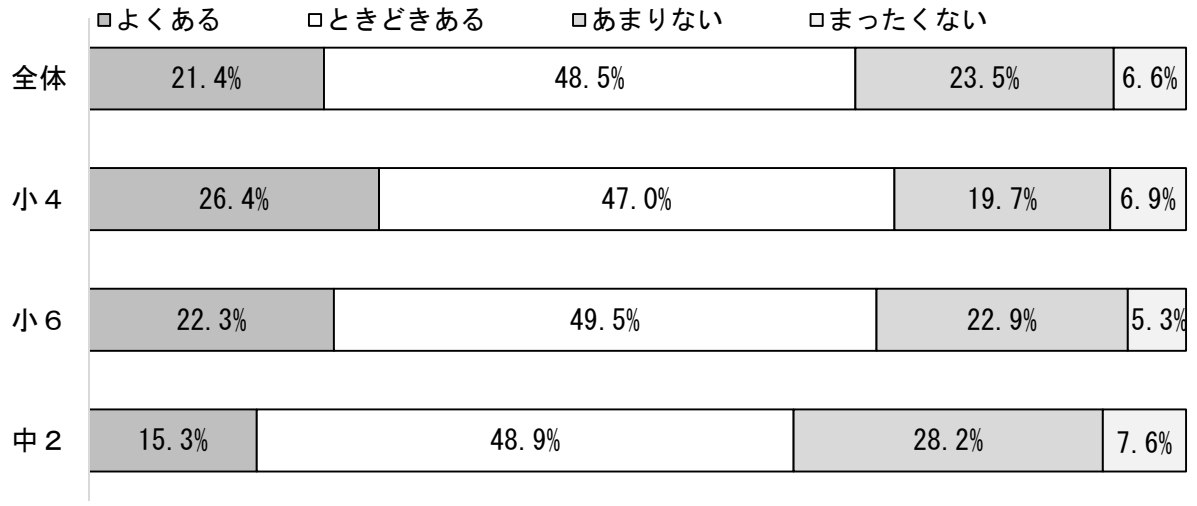


図３－12 は，《設問 37》の集計結果である。学校生活の中で，誰かの役に立ったと思うときが，「よくある」または「ときどきある」と回答した割合が，全体では 69.9%となっている。

学年別では，「よくある」または「ときどきある」と回答した割合は，小４で 73.4%と最も高く，小６で 71.8%，中２で 64.2%となっており，学年が進むにつれて低くなっている。また，「まったくない」と回答した割合は，小４で 6.9%，小６で 5.3%，中２で 7.6%となっており，中２が最も高く，小６が最も低い。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度，平成 25 年度の調査と比較すると，「よくある」と回答した割合が増加傾向にある（表３－⑫）。

表３－⑫　これまでの調査で「よくある」と回答した割合（%）
（H25 から設問を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
9.8	11.0	15.6	21.4

○　自己有用感と自己肯定感との関連

表３-12 は，本設問と《自己肯定感：設問 38》をクロス集計した結果である。

誰かの役に立ったと思うときが「よくある」と回答した子供の 56.6%が，学校生活の中で，まわりの人から「大切にされていると思う」と回答している。「どちらかといえば，大切にされていると思う」と回答した 33.6%を加えると，誰かの役に立ったと思うときが「よくある」と回答した子供の 90.2%が，自己肯定感について肯定的に回答している。

一方，誰かの役に立ったと思うときが「まったくない」と回答した子供の 48.0%が，学校生活の中で，まわりの人から「大切にされていると思わない」と回答している。「どちらかといえば，大切にされていると思わない」と回答した 26.9%を加えると，誰かの役に立ったと思うときが「まったくない」と回答した子供の 74.9%が，自己肯定感について否定的に回答している。

表３－12　自己有用感と自己肯定感との関連（%）

設問 38 ＼ 設問 37	大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思わない	大切にされていると思わない
よくある	56.6	33.6	6.3	3.4
ときどきある	23.5	60.2	13.4	2.9
あまりない	9.2	48.8	32.2	9.8
まったくない	7.3	17.9	26.9	48.0

３－13　自己肯定感

＜設問 38＞あなたは，学校生活の中で，まわりの人から大切にされていると思いますか。

図３－13　自己肯定感（設問 38）

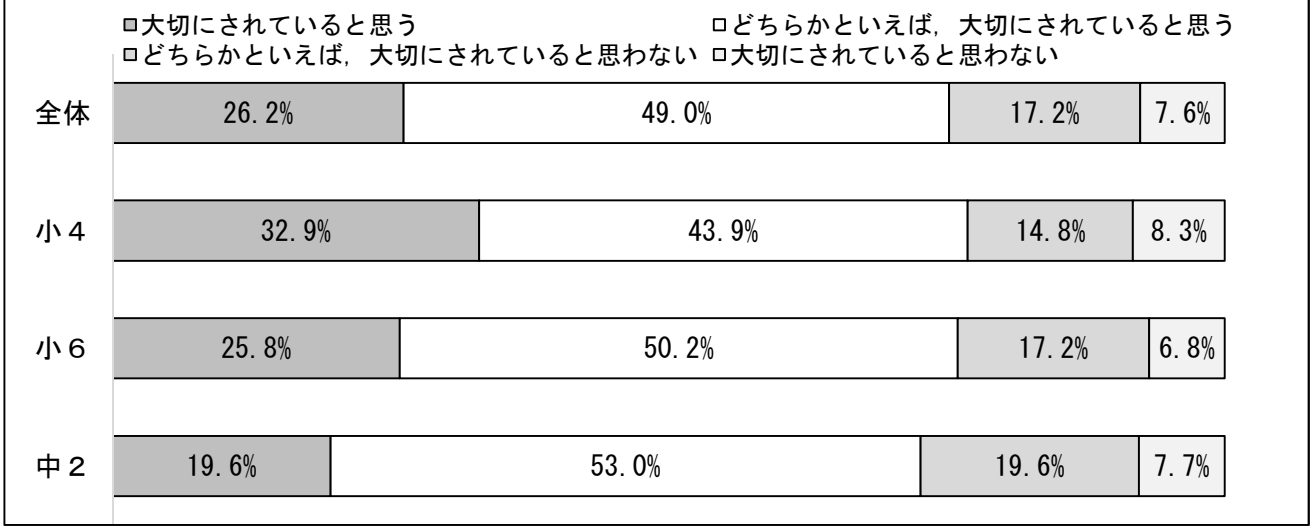


図３－13 は，《設問 38》の集計結果である。全体では，「どちらかといえば，大切にされていると思う」と回答した割合は，49.0％で最も高い。「大切にされていると思う」または「どちらかといえば，大切にされていると思う」と回答した割合を合わせると 75.2％になっている。また，全体で「大切にされていると思わない」と回答した割合は，7.6％で最も低い。「どちらかといえば，大切にされていると思わない」または「大切にされていると思わない」と回答した割合を合わせると 24.8％になっている。

学年別では，「大切にされていると思う」または「どちらかといえば，大切にされていると思う」と回答した割合を合わせると，小４で 76.8％，小６で 76.0％，中２で 72.6％となっており，小４が最も高く，中２が最も低い。特に，「大切にされていると思う」と回答した割合では，小４では 32.9％であるが，中２では 19.6％とその差が大きい。

平成 25 年度の調査と比較すると，「大切にされていると思う」割合が 4.7 ポイント増加している（表３－⑬）。

表３－⑬　これまでの調査で「大切にされていると思う」と回答した割合（％）

H25	H28
21.5	26.2

○　自己肯定感と学校生活の楽しさとの関連

表３－13 は，本設問と《学校生活の楽しさ：設問 26》をクロス集計した結果である。

まわりの人から「大切にされていると思う」と回答した子供の84.9％が，学校生活が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば，楽しい」と回答した12.9％を加えると，まわりの人から「大切にされていると思う」と回答した子供の97.8％が，学校生活の楽しさについて肯定的な回答をしている。

一方，まわりの人から「大切にされていると思わない」と回答した子供のうち，学校生活が「楽しい」と回答した子供は26.3％であり，「どちらかといえば，楽しい」と回答した31.8％を加えても58.1％である。

表３－13　自己肯定感と学校生活の楽しさとの関連

（％）

設問 26 ＼ 設問 38	楽しい	どちらかといえば，楽しい	どちらかといえば，楽しくない	楽しくない
大切にされていると思う	84.9	12.9	1.6	0.7
どちらかといえば，大切にされていると思う	60.9	33.8	4.2	1.1
どちらかといえば，大切にされていると思わない	35.3	44.1	16.1	4.6
大切にされていると思わない	26.3	31.8	19.3	22.6

学校における生活　　考察とまとめ

１　学校は，子供が規範意識や公共性など基本的な生活習慣を身に付けられるようにするために，授業や行事等の学校生活において，役割に対して責任を果たせる場面，友だちの考えや意見を交流する場面をつくりましょう

第２節の各項目について関連を見ると，学校でのきまりを「守っている」子供ほど，そうじ道具など，みんなが使うものを「大切にあつかっている」（p.38 表３－２），そうじ道具など，みんなが使うものを「大切にあつかっている」子供ほど，学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」（p.39 表３－３），学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」子供ほど，授業中，学習に「進んで取り組んでいる」（p.40 表３－４），自分たちとはちがう友だちの考えや意見を「聞いている」（表３－a）と回答する傾向が見られる。

表３－a　役割に対する責任感と他者理解（行動面）との関連（%）

設問29＼設問33	聞いている	どちらかといえば，聞いている	どちらかといえば，聞いていない	聞いていない
責任をもって取り組んでいる	75.4	21.8	2.1	0.8
どちらかといえば，責任をもって取り組んでいる	43.9	48.9	5.9	1.3
どちらかといえば，責任をもって取り組んでいない	26.6	47.7	20.3	5.5
責任をもって取り組んでいない	23.3	29.6	20.8	26.4

これらのことから，学校でのきまりを守る，みんなの使うものを大切にあつかうという基本的な生活は，役割に対する責任感，他者理解（行動面），学習への取組の現状と関連があることがうかがえる。

そこで，学校は子供が規範意識や公共性など基本的な生活習慣を身に付けられるように，授業や行事等の学校生活において，役割に対して責任を果たせる場面，友だちと考えや意見を交流する場面を意図的につくっていきたい。

２　教師は，子供との信頼関係を築き，子供同士が良好な人間関係をつくるために，学校生活の中で相談できる雰囲気ができるよう，お互いの考えや意見を大切にできる授業づくりを心がけ，子供とたくさん話をするようにしましょう

「友だちを支えた経験」「友だちから支えられた経験」「教師から認められた経験」のそれぞれの項目について関連を見ると，学校生活の中で，友だちを励ましたり，勇気づけたりすることが多い子供ほど，友だちから励まされたり，勇気づけられたりした経験が多い。また，友だちから励まされたり，勇気づけられたりした経験が多い子供ほど，教師から「すごいね」「がんばっているね」と認められた経験が多い（p.41 表３－５，p.42 表３－６，p.45 表３－９，p.46 表３－10）。友だちを支えた経験がある子供ほど自己有用感が高い傾向が見られる（表３－b）。

表３－b　友だちを支えた経験と自己有用感との関連（%）

設問31＼設問37	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よくある	44.6	44.1	8.9	2.4
ときどきある	12.2	60.0	24.0	3.8
あまりない	4.9	34.9	50.2	10.0
まったくない	5.2	14.6	30.2	50.0

また，「他者理解（行動面）」「他者理解（情意面）」「自己解決」「学校の学習内容の有用性」の関連を見ると，友だちの考えや意見を聞くことを大切にしている子供ほど，学習の有用性を高いと感じる傾向にある（p.43 表３－７，p.44 表３－８）。

これらのことから，友だちから支えられたり，友だちを支えたりする経験は，相互に関わり合っているといえる。そのような経験をしている子供は，教師から認められた経験が多い。教師が子供とよく話をし，信頼関係を築いていくことが重要である。

そこで，教師は全ての教育活動を通して学校生活の中で相談できる雰囲気ができるよう，お互いの考えや意見を大切にできる場面を増やし，子供が楽しいと感じる授業づくりを行っていきたい。

３　教師は，子供の自尊感情を高めるために，子供が行事等へ積極的に取り組めるよう活動を仕組んだり，自己有用感や自己肯定感を感じることができるよう活動の中での子供の姿を称賛（承認）する言葉かけをしたりしましょう

行事への参画意識，子供の自己有用感，自己肯定感の集計結果を見ると，年々肯定的な回答が増えており，子供の自尊感情の高まりがわかる（p.47 表３－⑪，p.48 表３－⑫，p.49 表３－⑬）。

行事への参画意識と子供の自己有用感には，強い相関関係が見られる（p.47 表３－11）。特に，行事への参画意識が低いほど誰かの役に立ったと思う経験がないと回答している割合が高い。また，子供の自己有用感と自己肯定感との関連では，学校生活の中で誰かの役に立ったと思うときがある子供ほど，学校生活の中でまわりの人から大切にされていると感じている傾向がある（p.48 表３－12）。逆に，役に立った経験がないと感じている子供の大半は，まわりの人から大切にされていないと感じている。行事への参画意識，自己有用感，自己肯定感には大きな関わりがあるといえる。

表３－c 行事への参画意識と役割に対する責任感との関連（%）

設問 29 ＼ 設問 36	責任をもって取り組んでいる	どちらかといえば責任をもって取り組んでいる	どちらかといえば責任をもって取り組んでいない	責任をもって取り組んでいない
進んで取り組んでいると思う	71.5	25.4	2.6	5.0
どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	41.0	51.8	6.3	9.0
どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	26.3	51.5	18.9	3.3
進んで取り組んでいると思わない	20.8	32.9	26.4	19.9

行事への参画意識は，子供の役割に対する責任感との関連も見られる（表３－c）。行事に進んで取り組んでいると思っている子供の多くは自分の役割に「責任をもって取り組んでいる」と回答しており，自尊感情と基本的な生活との関連がうかがえる。また，自己肯定感と学校の楽しさとの関連（p.49 表３－13）では，まわりの人から大切にされていると思っている子供ほど学校生活が楽しいと感じている。学校における自尊感情の高さが学校生活の楽しさにつながっていると考える。

これらのことから，子供が活躍する場作りや行事等へ参加できるよう支援することが大切である。

そこで，教師は行事等への参画を促し，友だちと協力し取り組む姿を称賛することで，やり遂げた満足感を感じることができるようにしていきたい。

４　学校は，子供が学校生活を楽しいと感じられるようにするために，学校における基本的な生活，人間関係，自尊感情を学習活動と関連させ，バランスよく育みましょう

「学校生活の楽しさ」と「学校における自尊感情」との関連を見ると，学校生活が「楽しい」と回答した子供の多くが，学校生活の中で人からまわりの人から「大切にされていると思う」と回答している（p.49 表３－13）。子供にとって「学校における自尊感情」が，「学校生活の楽しさ」につながるものと考えられる。

前述の１～３で述べているように「学校における基本的な生活」「学校における人間関係」「学校における自尊感情」は互いに関連している。

したがって，「学校生活の楽しさ」は，「学校における自尊感情」だけでなく，「学校における基本的な生活」「学校における人間関係」との関連が推察される。

一方，学習活動を通して見ると，学校生活が「楽しい」と感じる子供の多くが，学校の授業が「楽しい」または，「どちらかといえば楽しい」と回答しており（p.37 表３－１），「学校生活の楽しさ」と「授業の満足度」には関連がある。また，学校生活における責任感と学習に対する意識（p.40 表３－４），他者理解の情意面と学習内容の有用性（p.43 表３－７）にも関連があり，「学校における基本的な生活」と「学校における人間関係」においても学習活動と関連が推察される。

これらのことから，学校生活をより楽しいものにしていくためには，「学校における基本的な生活」「学校における人間関係」「学校における自尊感情」を学習活動と関連させ，バランスよく育むことが大切である。

そこで，学校は学習活動や行事等の学校生活を通して子供の規範意識，子供同士のつながりを育み，自己有用感・自己肯定感を高めていきたい。

第４章
学校における学習

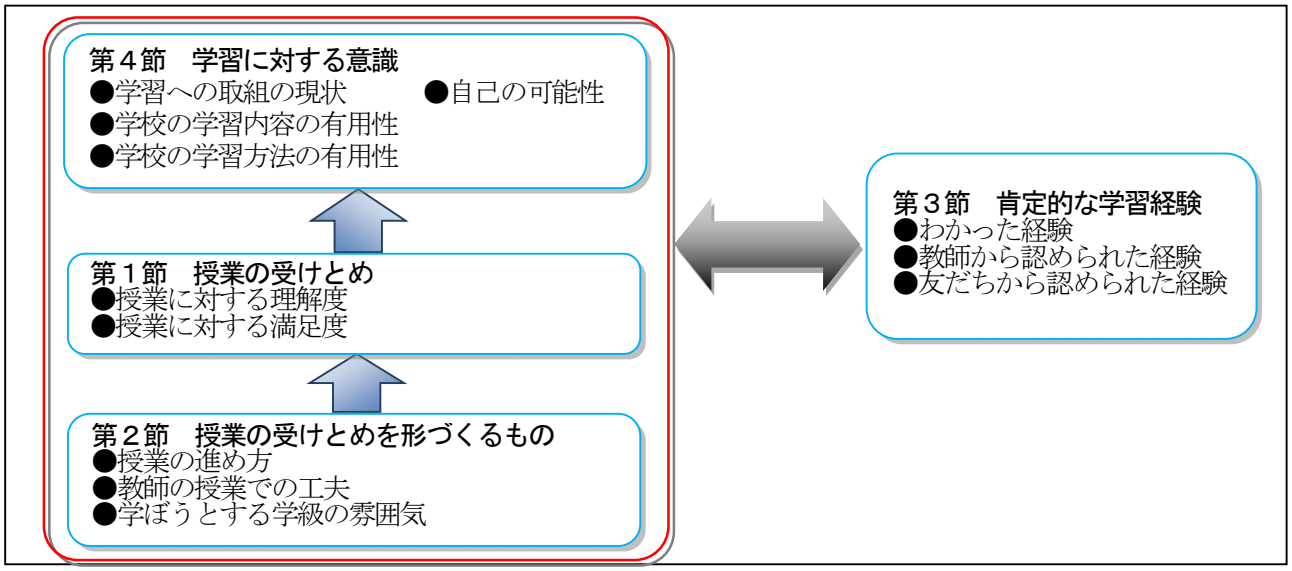
本章では，「授業の受けとめ」「授業の受けとめを形づくるもの」「肯定的な学習経験」「学習に対する意識」の４点から，子供たちの学校での学習の現状を探り，求められる授業の姿を明らかにしていきます。
そして，学習に対する子供たちの意識を高めるために，授業をどのように改善していけばよいかについて提言します。

「第２期教育振興基本計画」では，「今正に我が国に求められているもの，それは，『自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び』である。」とした上で，今後の社会の方向性として，「自立」「協働」「創造」の三つの理念の実現に向けた生涯学習社会の構築を旗印とすることを示している。「自立」とは一人一人が，多様な個性・能力を伸ばし，充実した人生を主体的に切り開いていくことのできる生涯学習社会，「協働」とは個人や社会の多様性を尊重し，それぞれの強みを生かして，共に支え合い，高め合い，社会に参画することのできる生涯学習社会であるとしている。そして，「自立」「協働」を通じて更なる新たな価値を「創造」していくことのできる生涯学習社会の構築を目指すことが示されている。このことから子供たちには，自ら考え，また，学校内外の多様な人々と協働しながら主体的に課題を解決し，価値を創造する力が必要である。このような力を育むために，学校における学習では，主体的・協働的な学びが求められている。

第 17 次の調査結果では，教師の授業改善や指導の工夫，学級の雰囲気が子供たちの学習に対する理解度，満足度につながっていることが明らかになった。これらのことを受け，第 18 次の研究では，求められる授業像をより明らかにするために，「学校における子供の学習に対する姿や思い」「人の役に立った，人から認められたという自己有用感」を把握しようと考えた。

そこで，本章では「授業の受けとめ」「授業の受けとめを形づくるもの」「肯定的な学習経験」「学習に対する意識」の四つの切り口を設定した。まず，「授業の受けとめ」では，授業に対する理解度と満足度について探る。次に，「授業の受けとめを形づくるもの」では，授業における教師の進め方や工夫，学ぼうとする学級の雰囲気をどう感じているのかについて探る。そして，「肯定的な学習経験」では，わかった経験，教師及び友だちから認められた経験について探る。最後に，「学習に対する意識」では，学習の取組の現状，自己の可能性，学校の学習内容及び方法の有用性の意識について探る。

分析に当たっては，「肯定的な学習経験」を中心に四つの切り口を関連付け，子供たちの実態や意識を明らかにする。そして，学習に対する子供たちの意識を高めるために授業をどのように改善していけばよいのかということについて提言する。



「学校における学習」の調査構造

第１節　授業の受けとめ

４－１　授業に対する理解度

＜設問 39＞あなたは，学校の授業がわかりますか。

図４－１　授業に対する理解度（設問39）

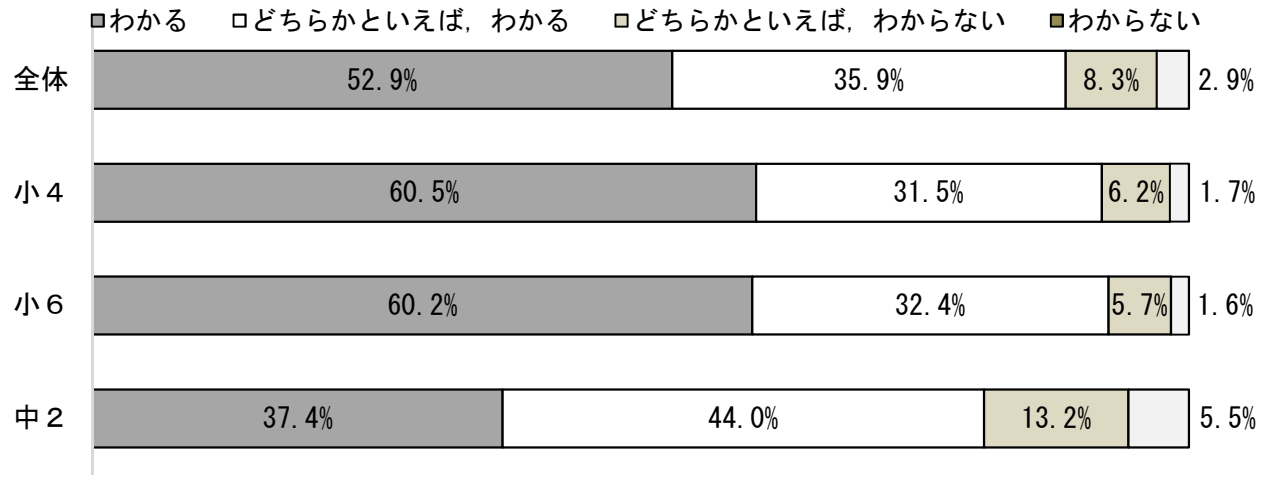


図４－１は，《設問 39》の集計結果である。全体では，「わかる」と回答した割合は，52.9%で最も高い。「わかる」「どちらかといえば，わかる」と回答した割合を合わせると 88.8%になっている。

学年別では，「わかる」「どちらかといえば，わかる」と回答した割合は小４で 92.0%，小６で 92.6%，中２で 81.4%となっている。中学校は小学校と比較すると約 10 ポイントほど低くなっている。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度とも「授業がわかる」と回答した割合が 40%に満たなかったが，平成 25 年度には 47.6%，平成 28 年度には 52.9%と，調査を経るごとに「わかる」と回答した割合が増加している(表４－①)。

表４－①　これまでの調査で授業が「わかる」と回答した割合（%）
（H25 から選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
35.5	35.8	47.6	52.9

○ 授業に対する理解度と自主的な家庭学習との関連

表４－１は，本設問と《自主的な家庭学習：設問 15》をクロス集計した結果である。

授業が「わかる」と回答した子供の 32.7%が，自主的に家庭学習を「よくしている」と回答している。「ときどきしている」と回答した 36.1%と合わせると，68.8%の子供が肯定的な回答をしている。

一方，授業が「わからない」と回答した子供の 57.0%が自主的な家庭学習を「まったくしていない」と回答している。「あまりしていない」と回答した 19.8%と合わせると 76.8%の子供が否定的な回答をしている。さらに，授業が「どちらかといえば，わからない」と回答した子供の 64.0%が自主的な家庭学習を「あまりしていない」または「まったくしていない」と回答している。

表４－１　授業に対する理解度と自主的な家庭学習との関連（%）

設問 39 ＼ 設問 15	よくしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
わかる	32.7	36.1	20.4	10.8
どちらかといえば，わかる	14.8	36.5	32.0	16.7
どちらかといえば，わからない	10.1	25.9	33.4	30.6
わからない	9.2	14.0	19.8	57.0

４－２　授業に対する満足度

＜設問 40＞あなたは，学校の授業が楽しいですか。

図４－２　授業に対する満足度（設問 40）

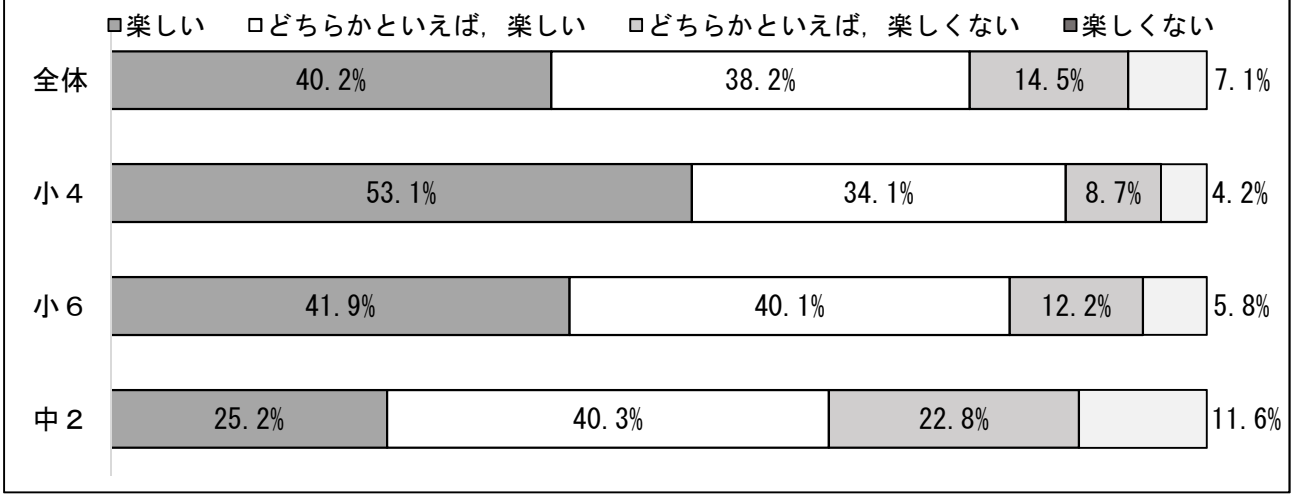


図４－２は，《設問 40》の集計結果である。全体では，「楽しい」と回答した割合は 40.2%で最も高い。「楽しい」「どちらかといえば，楽しい」と回答した割合を合わせると，78.4%になっている。

学年別では「楽しい」「どちらかといえば，楽しい」と肯定的に回答した割合は，小４が 87.2%で最も高く，学年が進むに伴い，低くなる傾向が見られる。中２では「楽しい」「どちらかといえば，楽しい」の肯定的な回答をしているのが 65.5%であり，小４と中２では 21.7 ポイントの差がある。「楽しくない」と回答している割合は小４で 4.2%，小６で 5.8%であるが，中２では 11.6%である。

一概には言えないが，平成 19 年度，平成 22 年度とも，授業が「楽しい」と回答した割合は 30%に満たなかったが，平成 25 年度に 31.6%となり，平成 28 年度では 40%を上回った（表４－②）。

表４－②　これまでの調査で授業が「楽しい」と回答した割合（%）
（H25 から選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
25.6	27.2	31.6	40.2

○　授業に対する満足度とわかった経験との関連

表４－２は，本設問と《わかった経験：設問 44》をクロス集計した結果である。

授業が「楽しい」と回答した子供のうち，授業中に「わかった」「できた」と思うことが「よくある」と回答した割合は 79.1%であり，「ときどきある」と回答した 18.8%を合わせると，97.9%の子供が肯定的な回答をしている。

一方，授業が「楽しくない」と回答した子供のうち，授業中に「わかった」「できた」と思うことが「まったくない」と回答した割合は 18.5%であり，授業が「楽しい」と回答した子供のうち，授業中に「わかった」「できた」と思うことが「まったくない」と回答した割合と比べると，18.1 ポイントの差がある。

表４－２　授業に対する満足度とわかった経験との関連（%）

設問 40 ＼ 設問 44	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
楽しい	79.1	18.8	1.7	0.4
どちらかといえば，楽しい	48.0	46.0	5.4	0.6
どちらかといえば，楽しくない	28.5	51.5	16.9	3.1
楽しくない	24.7	32.3	24.4	18.5

第２節　授業の受けとめを形づくるもの

４－３　授業の進め方

＜設問 41＞あなたは，みんなの発言や発表などを，先生が取り上げながら進める授業をよいと思いますか。

図４－３　授業の進め方（設問 41）

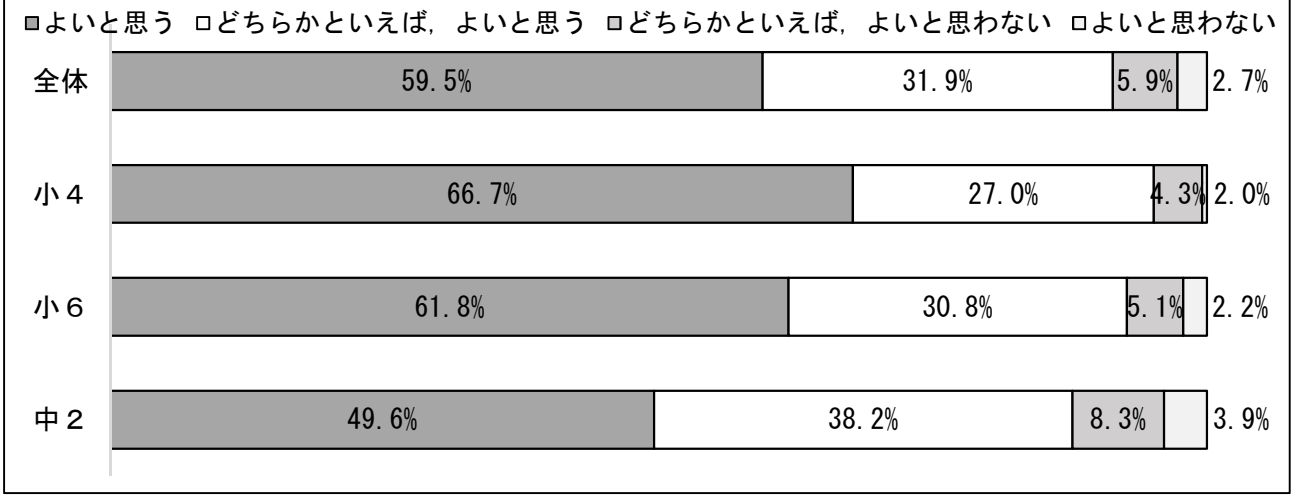


図４－３は，《設問 41》の集計結果である。全体では，「よいと思う」と回答した割合は，59.5%で最も高い。「よいと思う」「どちらかといえば，よいと思う」と回答した割合を合わせると 91.4%になっている。

学年別では，「よいと思う」と回答した割合は，小４で 66.7%，小６で 61.8%なのに対し，中２では 49.6%であることから，学年が低い子供ほど「子供の発言や発表などを尊重して行われる授業」を望む傾向が見られる。

平成 25 年度の調査と比較すると，「よいと思う」と回答した割合が 50.7%であったが，平成 28 年度では 59.5%となり増加している(表４－③)。

表４－③　これまでの調査で，発言や発表などを教師が取り上げながら進める授業が「よいと思う」と回答した割合（%）

H25	H28
50.7	59.5

○　授業の進め方と学校生活の楽しさとの関連

表４－３は，本設問と《学校生活の楽しさ:設問26》をクロス集計した結果である。

子供の発言や発表などを尊重して行われる授業を「よいと思う」と回答した子供の72.3%の子供が，学校生活が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば，楽しい」と回答した22.7%を合わせると，95.0%の子供が肯定的な回答をしている。

一方，子供の発言や発表などを尊重して行われる授業を「よいと思わない」と回答した子供の27.6%が，学校生活が「楽しくない」と回答している。「どちらかといえば，楽しくない」と回答した16.4%を合わせると，44.0%の子供が否定的な回答をしている。また，「よいと思わない」と回答した子供のうち学校生活が「楽しい」と回答した割合は27.9%である。

表４－３　授業の進め方と学校生活の楽しさとの関連（%）

設問 41 ＼ 設問 26	楽しい	どちらかといえば，楽しい	どちらかといえば，楽しくない	楽しくない
よいと思う	72.3	22.7	3.6	1.4
どちらかといえば，良いと思う	45.3	41.8	9.5	3.4
どちらかといえば，よいと思わない	33.1	38.9	18.3	9.8
よいと思わない	27.9	28.1	16.4	27.6

４－４　教師の授業での工夫

＜設問 42＞あなたは，先生が，工夫してわかりやすく教えていると思いますか。

図４－４　教師の授業での工夫（設問42）

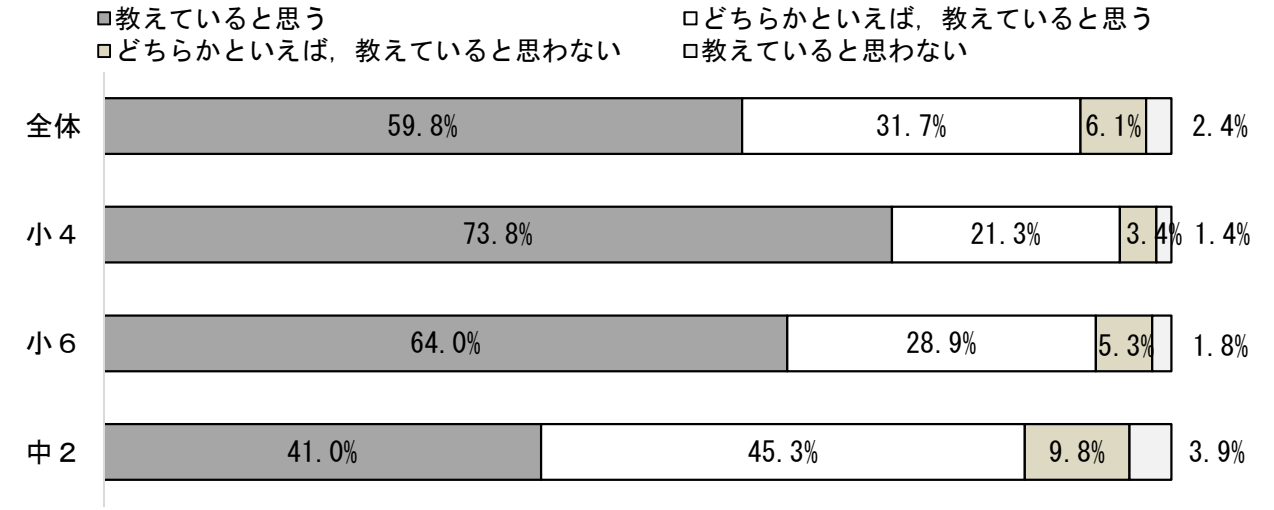


図４－４は，《設問 42》の集計結果である。全体では，「教えていると思う」と回答した割合は，59.8%で最も高い。「教えていると思う」「どちらかといえば，教えていると思う」と回答した割合を合わせると91.5%になっている。

学年別では，小４では，「教えていると思う」が 73.8%である。「どちらかといえば，教えていると思う」と回答した 21.3%を合わせると，肯定的に回答している割合が，95.1%となっている。小６でも肯定的に回答している割合が 92.9%と高い。中２では，「教えている」と回答した割合が 41.0%となり，小４と比べると，32.8 ポイント低いが，「どちらかといえば，教えていると思う」と回答している子供の 45.3%を合わせると，中２でも肯定的に回答した割合は 86.3%となる。

平成 25 年度の調査と比較すると，「教えている」と回答した割合が 4.1 ポイント増加している（表４－④）。

表４－④　これまでの調査で授業を通して，「教えていると思う」と回答した割合

H25	H28
55.7	59.8

○ 教師の授業での工夫と授業に対する満足度との関連

表４－４は，本設問と《授業に対する満足度:設問 40》をクロス集計した結果である。

授業をわかるように工夫して「教えていると思う」と回答した子供の56.4%が，授業が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば，楽しい」の34.2%を合わせると，90.6%の子供が肯定的な回答をしている。

一方，授業をわかるように工夫して「教えていると思わない」と回答した子供の61.5%が，授業が「楽しくない」と回答している。「どちらかといえば，楽しくない」と回答した18.8%と合わせると，80.3%の子供が否定的な回答をしている。

表４－４　教師の授業での工夫と授業に対する満足度との関連（%）

設問 40 ＼ 設問 42	楽しい	どちらかといえば，楽しい	どちらかといえば，楽しくない	楽しくない
教えていると思う	56.4	34.2	6.8	2.6
どちらかといえば，教えていると思う	18.2	49.9	23.6	8.3
どちらかといえば，教えていると思わない	8.5	25.8	40.7	25.0
教えていると思わない	7.2	12.5	18.8	61.5

４－５　学ぼうとする学級の雰囲気

＜設問 43＞あなたの学級は，進んで授業に取り組んでいると思いますか。

図４－５　学ぼうとする学級の雰囲気（設問43）

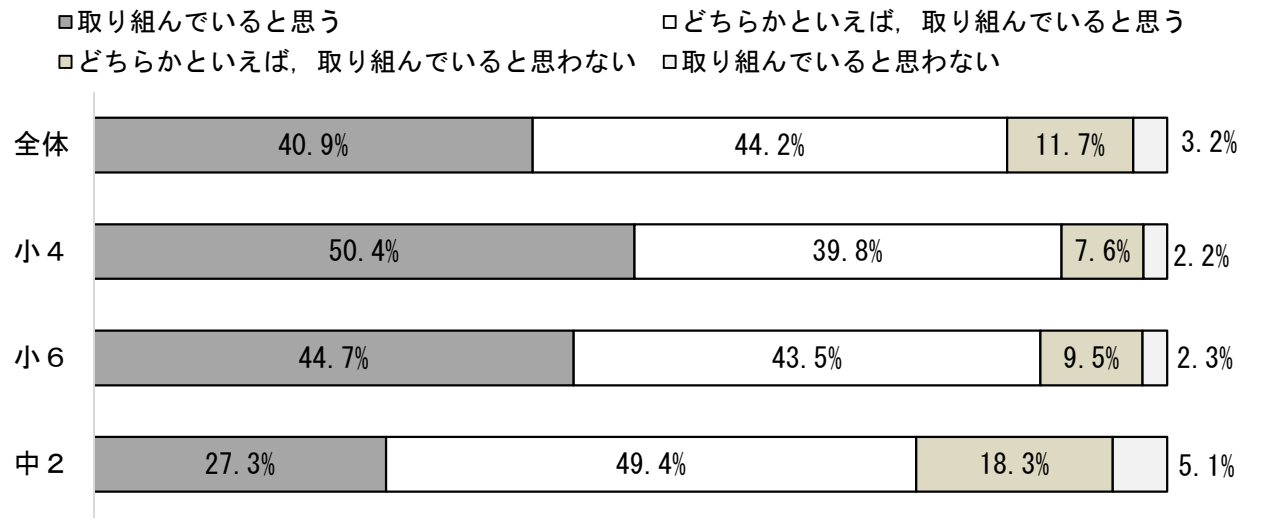


図４－５は，《設問 43》の集計結果である。全体では，「どちらかといえば，取り組んでいると思う」と回答した割合は，44.2%で最も高い。「取り組んでいると思う」「どちらかといえば，取り組んでいると思う」と回答した割合を合わせると 85.1%になっている。

学年別では，「取り組んでいると思う」「どちらかといえば，取り組んでいると思う」と回答した割合は小４で 90.2%，小６で 88.2%，中２で 76.7%となっている。「どちらかといえば，取り組んでいると思う」と回答している割合は，小４，小６，中２と学年が進むにつれて増加しているが，「取り組んでいると思う」と回答した割合は，小４で 50.4%，小６で 44.7%，中２で 27.3%と，学年が進むにつれて減少している。

一概には言えないが，平成 25 年度の調査と比較すると，「取り組んでいると思う」と回答した割合は 8.0 ポイント増加している。（表４－⑤）。

表４－⑤ これまでの調査で授業を通して，「所属学級が，進んで授業に取り組んでいると思う」と回答した割合（%）
（H28 は設問を修正して実施）

H25	H28
32.9	40.9

○ 学ぼうとする学級の雰囲気と授業の進め方との関連

表４－５は本設問と《授業の進め方:設問41》をクロス集計した結果である。

進んで授業に「取り組んでいると思う」と回答した子供のうち，先生が児童生徒の意見を取り上げながら進める授業を「よいと思う」と回答した割合は 78.6%であり，「どちらかといえば，よいと思う」と回答した17.9%を合わせると，96.5%となる。

一方，進んで授業に「取り組んでいると思わない」と回答した子供のうち，先生が児童生徒の意見を取り上げながら進める授業を「よくないと思う」と回答した割合は25.8%であり，「どちらかといえば，よくないと思う」を合わせると，43.8%となる。

表４－５　学ぼうとする学級の雰囲気と授業の進め方との関連（%）

設問 43 ＼ 設問 41	よいと思う	どちらかといえば，よいと思う	どちらかといえば，よくないと思う	よくないと思う
取り組んでいると思う	78.6	17.9	2.4	1.2
どちらかといえば，取り組んでいると思う	50.4	42.4	5.6	1.7
どちらかといえば，取り組んでいると思わない	35.8	42.5	16.4	5.4
取り組んでいると思わない	27.3	28.9	18.0	25.8

第３節　肯定的な学習経験

４－６　わかった経験

＜設問 44＞あなたは，授業中に，「わかった」「できた」と思うことがありますか。

図４－６　わかった経験（設問44）

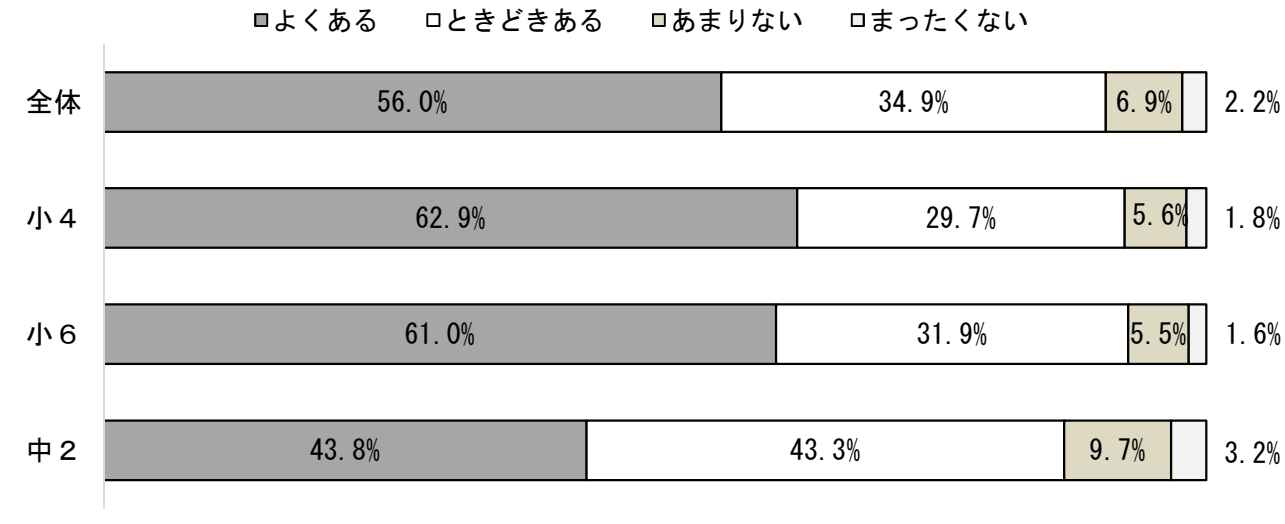


図４－６は，《設問 44》の集計結果である。全体では，「よくある」と回答した割合は，56.0％で最も高い。「よくある」「ときどきある」と回答した割合を合わせると 90.9％になっている。

学年別では，「よくある」と回答した割合は小４で 62.8％，小６で 61.0％，中２で 43.8％となっている。「よくある」「ときどきある」と回答した割合を合わせると，小４で 92.6％，小６で 92.9％，中２で 87.1％となっている。中２では，「よくある」と回答した割合は，小４よりも 19 ポイント低くなっているが，「ときどきある」と回答した割合を合わせると，5.5 ポイント低くなっている。

一概には言えないが，平成 19 年度から平成 28 年度までを比較すると「よくある」と回答した割合は増加傾向である（表４－⑥）。

表４－⑥　これまでの調査で「授業中に『わかった』『できた』ことがよくあると回答した割合（％）
（H25 から設問を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
29.9	32.4	49.8	56.0

○　わかった経験と学習への取組の現状との関連

表４－６は，本設問と《学習への取組の現状：設問 47》をクロス集計した結果である。

授業中に「わかった」「できた」と思うことが「よくある」と回答した子供の56.2％が，授業に進んで「取り組んでいる」と回答している。「どちらかといえば，進んで取り組んでいる」の37.5％を合わせると，93.7％の子供が肯定的な回答をしている。

一方，授業中に「わかった」「できた」と思うことが「まったくない」と回答した子供の51.0％が，授業に進んで「取り組んでいない」と回答している。「どちらかといえば，進んで取り組んでいない」と回答した22.0％を合わせると，73.0％の子供が否定的な回答をしている。

表４－６ わかった経験と学習への取組の現状との関連（％）

設問 47 ＼ 設問 44	取り組んでいると思う	どちらかといえば，取り組んでいると思う	どちらかといえば，取り組んでいると思わない	取り組んでいると思わない
よくある	56.2	37.5	5.1	1.1
ときどきある	17.3	61.9	17.9	2.9
あまりない	8.2	38.4	39.5	13.8
まったくない	11.2	15.8	22.0	51.0

４－７　教師から認められた経験

＜設問 45＞あなたは，授業中に，先生から「すごいね」「がんばっているね」などとほめられたことがありますか。

図４－７　教師から認められた経験（設問 45）

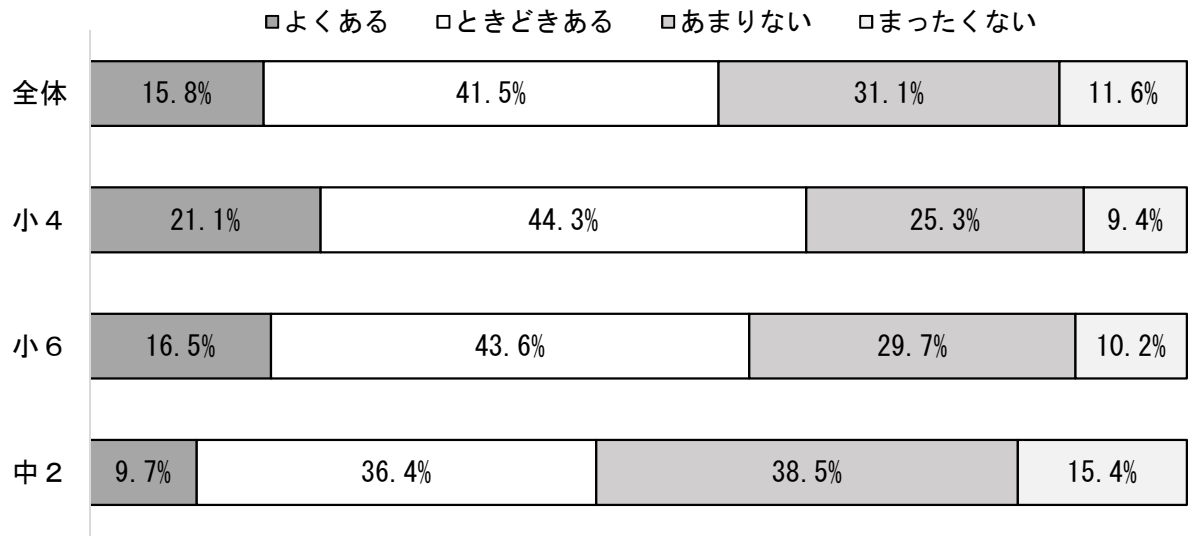


図４－７は，《設問 45》の集計結果である。全体では，「ときどきある」と回答した割合は，41.5%で最も高い。「よくある」「ときどきある」と回答した割合を合わせると 67.3%になっている。

学年別では，「よくある」と回答している割合が，小４で 21.1%，小６で 16.5%，中２で 9.7%である。「ときどきある」を含めた肯定的な回答の割合についても，小４で 65.4%，小６で 60.1%，中２で 46.1%であり，学年が進むにつれ，減少する傾向にある。

なお，《設問 45》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　教師から認められた経験と授業に対する満足度との関連

表４－７は，本設問と《授業に対する満足度:設問 40》をクロス集計した結果である。

授業中に教師から認められたことが「よくある」と回答した子供の71.5%が，授業が「楽しい」と回答している。授業が「どちらかといえば，楽しい」と回答した21.3%と合わせると，92.8%の子供が肯定的な回答をしている。

一方，授業中に教師から認められたことが「まったくない」と回答した子供の27.9%が，授業が「楽しくない」と回答しており，「どちらかといえば，楽しくない」と回答した26.5%と合わせると，54.4%の子供が否定的な回答をしている。

表４－７　教師から認められた経験と授業に対する満足度との関連（%）

設問 45 ＼ 設問 40	楽しい	どちらかといえば，楽しい	どちらかといえば，楽しくない	楽しくない
よくある	71.5	21.3	4.4	2.8
ときどきある	45.5	41.7	9.8	3.0
あまりない	25.5	45.9	21.4	7.2
まったくない	17.6	28.0	26.5	27.9

４－８　友だちから認められた経験

＜設問 46＞あなたは，授業中に，友だちから「すごいね」「がんばっているね」などとほめられたことがありますか。

図４－８　友だちから認められた経験（設問 46）

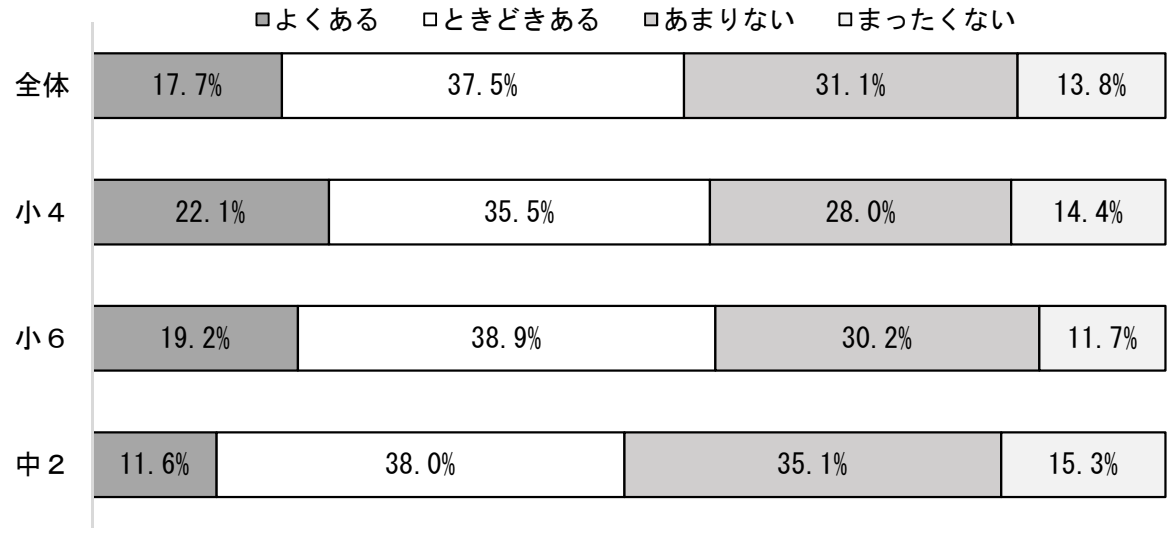


図４－８は，《設問 46》の集計結果である。全体では，「ときどきある」と回答した割合は，37.5%で最も高い。「よくある」「ときどきある」と回答した割合を合わせると 55.2%になっている。

学年別では，「よくある」と回答している割合は，小４で 22.1%，小６で 19.2%，中２で 11.6%と，学年が進むにつれ減少する傾向にある。「ときどきある」を含めた肯定的な回答の割合は，小４で 57.6%，小６で 58.1%，中２で 49.6%と小中学校間で開きが見られる。

なお，《設問 46》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　友だちから認められた経験と自己肯定感との関連

表４－８は，本設問と《自己肯定感:設問38》をクロス集計した結果である。

授業中に友だちから認められたことが「よくある」と回答した子供の58.3%が，学校生活の中でまわりの人から「大切にされている」と回答している。「どちらかといえば，大切にされている」と回答している33.3%を合わせると，91.6%の子供がまわりの人から「大切にされている」と肯定的な回答をしている。

一方，授業中に友だちから認められたことが「まったくない」と回答している子供の32.6%が，友だちから「大切にされていると思わない」と回答している。「どちらかといえば，大切にされていると思わない」と回答した子供の30.0%を合わせると，62.6%の子供が否定的な回答をしている。

表４－８　友だちから認められた経験と自己肯定感との関連（%）

設問 46 ＼ 設問 38	大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思わない	大切にされていると思わない
よくある	58.3	33.3	6.1	2.4
ときどきある	27.4	59.4	10.8	2.4
あまりない	14.1	54.7	25.5	5.7
まったくない	9.0	28.4	30.0	32.6

第４節　学習に対する意識

４－９　学習への取組の現状

＜設問 47＞あなたは，授業中，学習に進んで取り組んでいると思いますか。

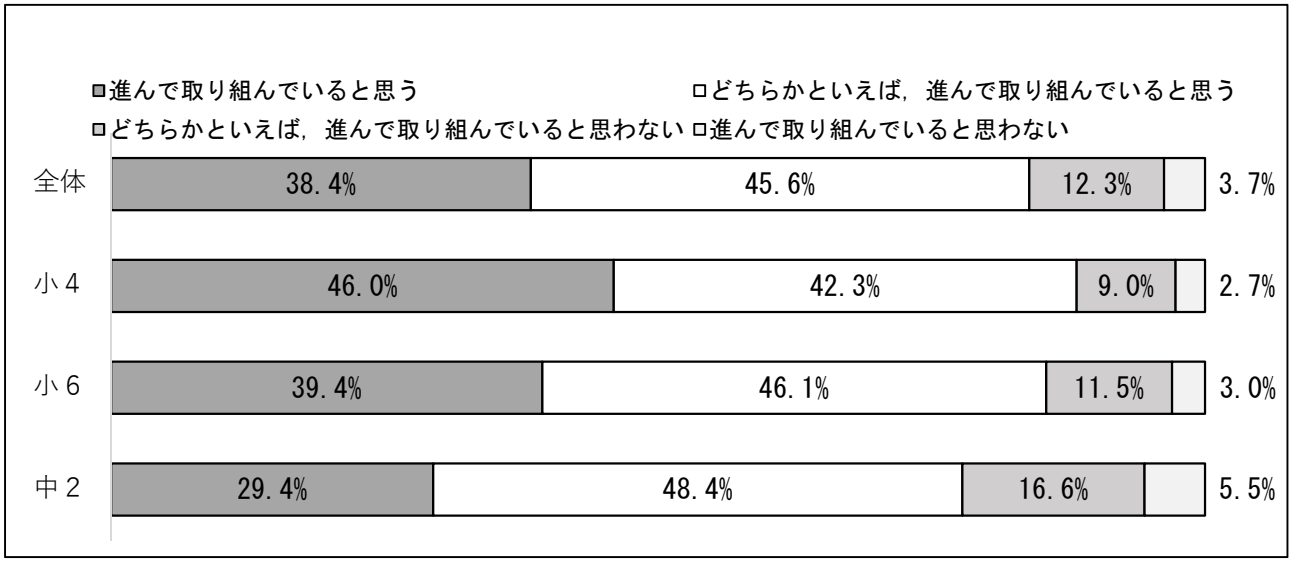


図４－９は，《設問 47》の集計結果である。全体では，「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う」と回答した割合は，45.6％で最も高い。「進んで取り組んでいると思う」「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う」と回答した割合を合わせると 84.0％になっている。

学年別では，「進んで取り組んでいると思う」「どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う」と合わせた肯定的な回答の割合は，学年が進むにつれて減少している。一方，「進んで取り組んでいると思わない」と回答している割合は，学年が進むにつれて増加傾向にある。

一概には言えないが，授業中，学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答している割合は，平成 19 年度調査から増加傾向にある（表４－⑨）。

表４―⑨　これまでの調査で「学習に進んで取り組んでいると思う」と回答した割合（%）
（H25 から設問と選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
18.6	21.6	28.3	38.4

○　学習への取組の現状と教師から認められた経験との関連

表４－９は，本設問と《教師から認められた経験：設問45》をクロス集計した結果である。

授業中，学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答している子供の74.5％が，授業中，先生から「すごいね」「がんばっているね」などとほめられたことが「よくある」「ときどきある」と肯定的な回答をしている。

一方，授業中，学習に「進んで取り組んでいると思わない」と回答した子供の50.2％が，先生からほめられたことが「まったくない」と回答している。「あまりほめられたことがない」と回答した28.6％を合わせると，78.8％の子供が否定的な回答をしている。

表４―９　学習への取組の現状と教師から認められた経験との関連（%）

設問 47 ＼ 設問 45	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
進んで取り組んでいると思う	29.3	45.2	19.3	6.2
どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	8.4	44.4	37.4	9.9
どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	4.7	27.3	44.8	23.3
進んで取り組んでいると思わない	5.2	16.0	28.6	50.2

４－10　自己の可能性

＜設問 48＞あなたは，学校の学習の中で，今は苦手なものでも，努力したらできるようになると思いますか。

図４－10　自己の可能性（設問 48）

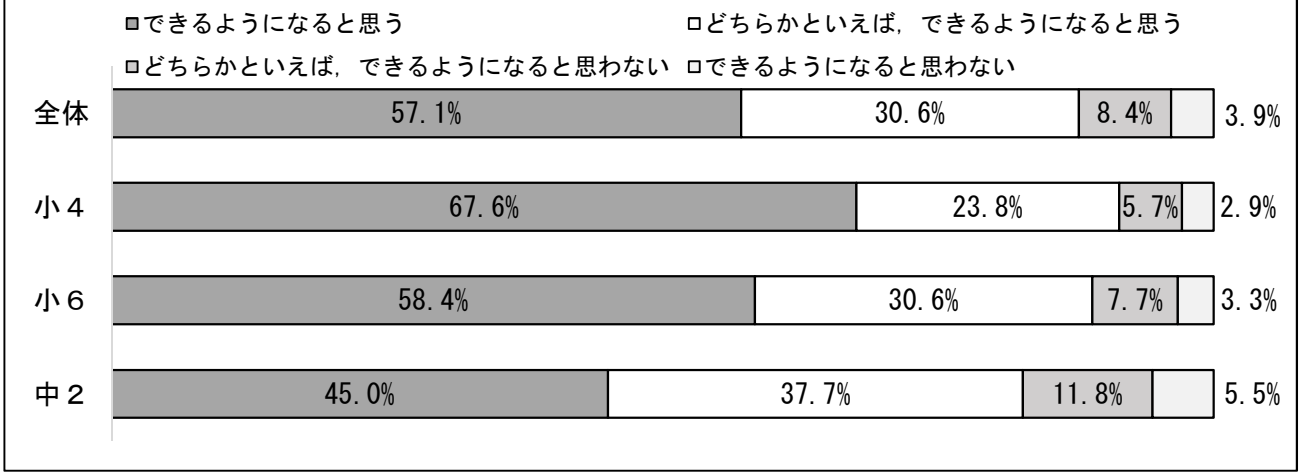


図４－10 は，《設問 48》の集計結果である。全体では，「できるようになると思う」と回答している割合は，57.1%で最も高い。「できるようになると思う」「どちらかといえば，できるようになると思う」と回答した割合を合わせると 87.7%になっている。

学年別では，「できるようになる」「どちらかといえば，できるようになると思う」と肯定的な回答をした割合は，学年が進むにつれて減少する傾向にある。一方，「できるようになると思わない」と回答した割合は，学年が進むにつれて増加する傾向が見られる。

一概には言えないが，平成 19 年度調査から「できるようになると思う（努力したらできるようになると思う）」と回答した割合は，増加傾向にある。（表４－⑩）。

表４―⑩　これまでの調査で「努力したらできるようになると思う」と回答した割合（%）
（H25 から選択肢を修正して実施）

H19	H22	H25	H28
51.5	52.1	52.8	57.1

○　自己の可能性と自己肯定感との関連

表４－10は，本設問と《自己肯定感:設問38》をクロス集計した結果である。

学校の学習の中で，今は苦手なものでも，努力したら「できるようになると思う」と回答した子供の 82.8%が，学校生活の中で，まわりの人から「大切にされていると思う」「どちらかといえば，大切にされていると思う」と肯定的な回答をしている。

一方，努力しても「できるようになると思わない」と回答している子供のうち，まわりの人から「どちらかといえば，大切にされていると思わない」「大切にされていると思わない」と否定的な回答をした割合は67.5%である。

表４－10　自己の可能性と自己肯定感との関連（%）

設問 38 ＼ 設問 48	大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思う	どちらかといえば，大切にされていると思わない	大切にされていると思わない
できるようになると思う	35.8	47.0	12.3	4.9
どちらかといえば，できるようになると思う	15.1	58.0	20.9	6.1
どちらかといえば，できるようになると思わない	9.0	42.0	33.7	15.4
できるようになると思わない	9.8	22.7	24.7	42.8

４－11　学校の学習内容の有用性

＜設問 49＞あなたは，今，学校で学習していることが，今後の生活に役に立つと思いますか。

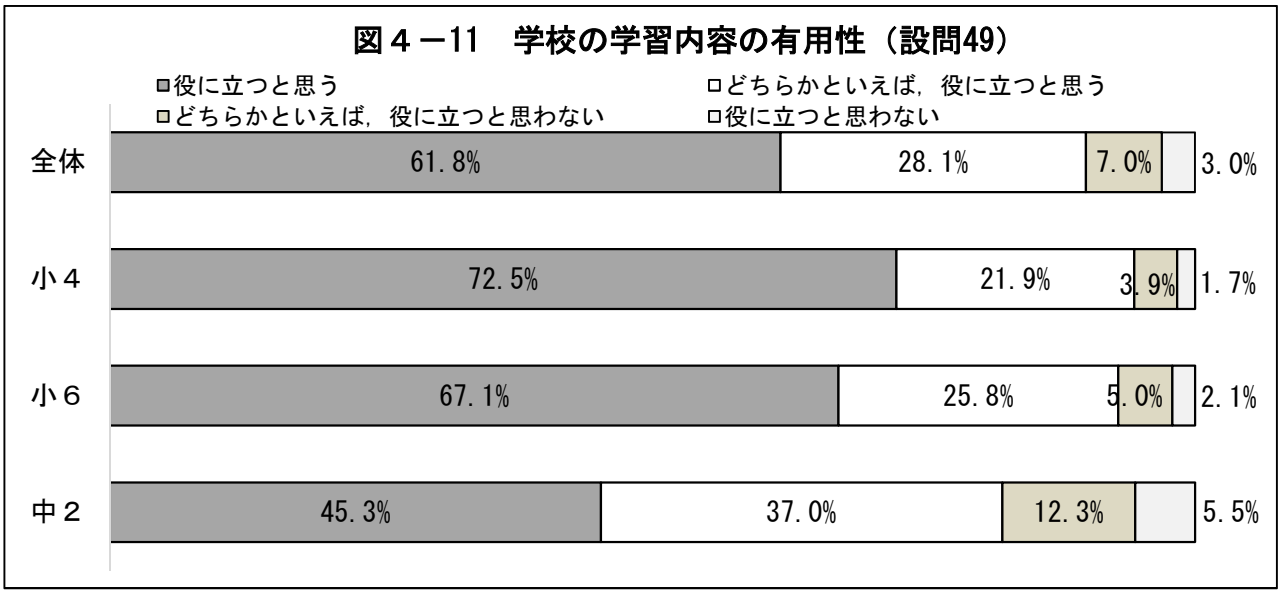


図４－11 は，《設問 49》の集計結果である。全体では，「役に立つと思う」と回答した割合は，61.8%で最も高い。「役に立つと思う」「どちらかといえば，役に立つと思う」と回答した割合を合わせると 89.9%になっている。

学年別では，「役に立つ」と回答している割合は，小４で 72.5%，小６で 67.1%，中２で 45.3%と学年が進むにつれて，減少する傾向が見られる。「どちらかといえば，役に立つと思う」と回答した子供の割合は，小４で 21.9%，小６で 25.8%，中２で 37.0%と学年が進むにつれ増加する傾向にある。一方，「役に立つと思わない」と回答した割合は，小４で 1.7%，小６で 2.1%，中２で 5.5%となっている。

平成 25 年度の調査と比較すると平成 28 年度の調査では，0.8 ポイントのマイナスとなっている（表４－⑪）。ただし，「どちらかといえば，役に立つと思う」を含めた肯定的な回答は，前回とほぼ同じ数値となっている。

表４-⑪　これまでの調査で「今後の生活に役に立つと思う」と回答した割合（%）
（H25 から設問を修正して調査）

H19	H22	H25	H28
53.9	56.2	62.6	61.8

○　学校の学習内容の有用性と学校以外での全ての学習の有用性との関連

表４－11は，本設問と《学校以外での全ての学習の有用性：設問24》をクロス集計した結果である。

今，学校で学習していることが，今後の生活で「役に立つと思う」と回答している子供の81.3%が，学校以外での勉強や習いごとなどが，社会に出たとき，「役に立つと思う」と回答している。「どちらかといえば，役に立つと思う」と回答した16.1%を合わせると，97.4%の子供が肯定的な回答をしている。

一方，今，学校で学習していることが，今後の生活で「役に立つと思わない」と回答している子供の36.9%が，学校以外での勉強や習いごとなどが，社会に出たとき，「役に立つと思わない」と回答している。

表４－11　学校の学習内容の有用性と学校以外での全ての学習の有用性との関連（%）

設問 24 ＼ 設問 49	役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思う	どちらかといえば，役に立つと思わない	役に立つと思わない
役に立つと思う	81.3	16.1	1.6	1.0
どちらかといえば，役に立つと思う	40.6	50.4	7.0	2.0
どちらかといえば，役に立つと思わない	25.3	40.9	25.7	8.1
役に立つと思わない	24.1	18.7	20.3	36.9

４－12　学校の学習方法の有用性

＜設問 50＞あなたは，グループでの調べ学習や話し合い活動などが，学習に役に立つと思いますか。

図４-12　学校の学習方法の有用性（設問50）

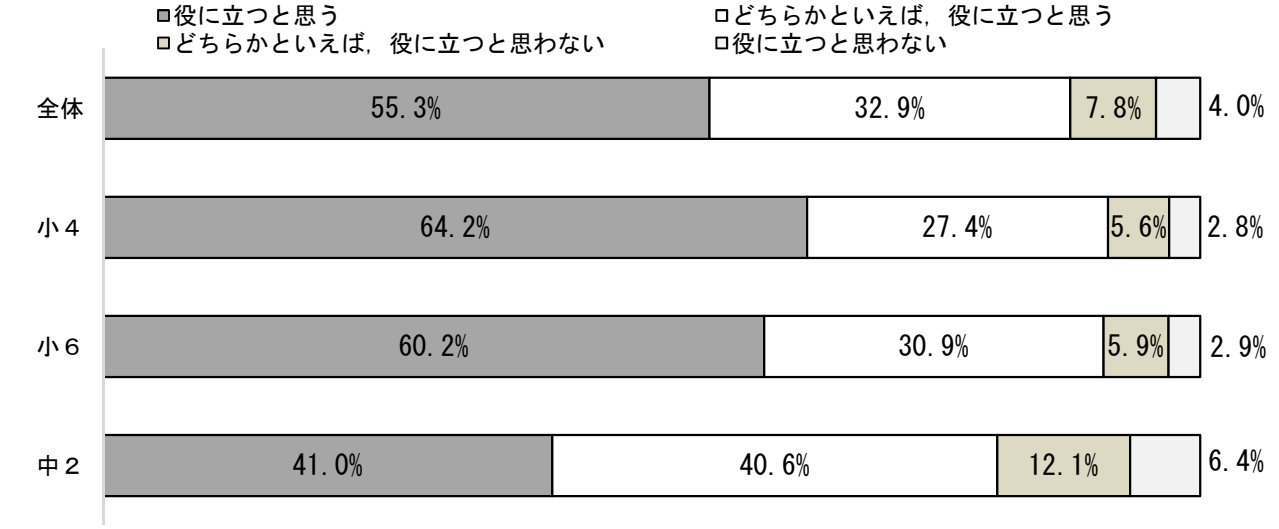


図４－12 は，《設問 50》の集計結果である。全体では，グループでの調べ学習や話し合い活動などが，「学習に役に立つと思う」と回答した割合は，55.3%で最も高い。「役に立つと思う」「どちらかといえば，役に立つと思う」と回答した割合を合わせると 88.2%になっている。

学年別では，「役に立つ」と回答している割合は，小４で 64.2%，小６で 60.2%，中２で 41.0%と学年が進むにつれて，減少する傾向が見られる。また，「どちらかといえば，役に立つと思う」と回答した子供の割合は，小４で 27.4%，小６で 30.9%，中２で 40.6%と増加する傾向にある。

一方，「役に立つと思わない」と回答した割合は，小４では 2.8%，小６では 2.9%であるが，中２では 6.4%となっている。

なお，《設問 50》は，平成 28 年度からの調査項目であるため，経年比較ができない。

○　学校の学習方法の有用性と友だちから支えられた経験との関連

表４－12は，本設問と《友だちから支えられた経験：設問30》をクロス集計した結果である。

グループでの調べ学習や話し合い活動などが，学習に「役に立つと思う」と回答した子供の48.7%が，友だちから励まされたり，勇気づけられたりすることが「よくある」と回答している。さらに，「ときどきある」と回答している38.0%を含めると，86.7%の子供が友だちから支えられた経験について肯定的な回答をしている。

一方，グループでの調べ学習や話し合い活動などが，学習に「役に立つとは思わない」と答えている子供の34.0%が，友だちから励まされたり，勇気づけられたりすることが「まったくない」と回答している。

表４－12　学校の学習方法の有用性と友だちから支えられた経験との関連（%）

設問 50 ＼ 設問 30	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
役に立つと思う	48.7	38.0	10.3	3.0
どちらかといえば，役に立つと思う	24.7	51.1	19.2	4.9
どちらかといえば，役に立つと思わない	19.8	40.6	28.6	10.9
役に立つと思わない	18.8	23.2	24.0	34.0

学校における学習　　考察とまとめ

１　教師は，子供の理解度や学習意欲を高めるために，子供が「楽しい」と感じる授業をしましょう

授業の満足度とわかった経験との関連を見ると，授業が「楽しい」と回答した子供の97.9％が，授業中に「わかった」「できた」と思うことが「よくある」「ときどきある」と回答している。一方，授業が「楽しくない」と回答した子供の42.9％が，授業中に「わかった」「できた」と思うことが「あまりない」「まったくない」と回答している。このことから，「授業を楽しい」と思うことと，授業中に「わかった」「できた」と思うこととは関連があるものと考えられる（p.54 表４－２）。

授業の理解度と自主的な家庭学習との関連を見ると，授業が「わかる」と回答した子供の68.8％が，学校や学習塾の宿題以外に自分で考えて勉強を「よくしている」または「ときどきしている」と回答している。一方，授業が「わからない」と回答した子供の76.8％が，自主的に家庭学習を「あまりしていない」または「まったくしていない」と回答している。このことから，子供にとってわかる授業を学校で行うことが，自分でさらに考えて勉強しようとする「自主的な学習」につながると考えられる（p.53 表４－１）。

これらのことから，子供にとって満足度の高い授業が，子供の授業の理解度を高めることにつながり，自主的に学ぼうとする意欲が授業終了後にも継続するものと考える。そこで教師は，子供の理解度や学習意欲を高めるために，自ら考える場面を設定したり，子供の意見を取り上げながら授業を進めたりするなど，子供が「楽しい」と感じる授業を行っていきたい。

２　教師は，主体的に学習に取り組む学級をつくるために，子供の発言や発表を尊重する授業を行いましょう

授業の進め方と学校生活の楽しさとの関連を見ると，みんなの発言や発表などを，先生が取り上げながら進める授業を「よいと思う」と回答した子供の95.0％が，学校生活が「楽しい」「どちらかといえば，楽しい」と回答している。このことから，自分たちの発言や発表などが尊重される授業をよいと思う子供は，学校生活に対しても楽しいと肯定的に感じていることがわかる。一方，「よいと思わない」と回答した子供の44.0％が，学校生活が「どちらかといえば，楽しくない」「楽しくない」と回答している（p.55 表４－３）。

教師の授業での工夫と授業の満足度との関連を見ると，先生が，工夫して，「わかりやすく教えていると思う」と回答した子供のうち，授業が「楽しい」「どちらかといえば，楽しい」と肯定的に回答した割合は90.6％となっている。一方，先生が，工夫して，「教えていると思わない」と回答した子供のうち，授業が「どちらかといえば，楽しくない」「楽しくない」と否定的な回答をした割合は80.3％でとなっている（p.56 表４－４）。

学ぼうとする学級の雰囲気と授業の進め方との関連を見ると，進んで授業に「取り組んでいると思う」と回答した子供のうち，先生が児童生徒の意見を取り上げながら進める授業を「よいと思う」「どちらかといえば，よいと思う」という肯定的な回答をして割合は，96.5％となっている。一方，進んで授業に「取り組んでいると思わない」と回答した子供のうち，先生が児童生徒の意見を取り上げながら進める授業を「どちらかというと，よくないと思う」「よくないと思う」と否定的な回答をしているのは，43.8％となっている（p.57 表４－５）。

これらのことから， 教師は，子供が主体的に学習に取り組む学級をつくるために，子供の発言や発表を尊重し合う指導の工夫や，どの子供も学習内容を理解できるような指導の工夫等を行っていきたい。

３　教師は，主体的に粘り強く取り組む子供を育成するために，一人一人認められる経験を積ませ，自己肯定感・自己有用感を高めていけるような授業を実践しましょう

授業がわかった経験と学習への取組の現状との関連を見ると，授業中に「わかった」「できた」と思うことが「よくある」と回答した子供の93.7%が，授業に「進んで取り組んでいる」「どちらかといえば，進んで取り組んでいる」と肯定的な回答をしている。一方，授業中に「わかった」「できた」と思うことが「まったくない」と回答した子供の73.0%が，授業に「どちらかといえば，進んで取り組んでいない」「進んで取り組んでいない」と否定的な回答をしている（ｐ.58 表４－６）。

表４－ａ　自己の可能性と教師から認められた経験との関連（%）

設問48＼設問45	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
できるようになると思う	22.5	45.0	24.8	7.7
どちらかといえば，できるようになると思う	7.5	41.9	40.1	10.5
どちらかといえば，できるようになると思わない	5.0	27.7	43.2	24.1
できるようになると思わない	6.1	15.6	26.3	52.1

教師から認められた経験と授業に対する満足度との関連を見ると，授業中に教師から認められたことが「よくある」と回答した子供の92.8%が，授業が「楽しい」「どちらかといえば，楽しい」と肯定的な回答をしている（ｐ.59 表４－７）。

友だちから認められた経験と授業に対する満足度との関連を見ると，授業中に友だちから認められたことが「よくある」と回答した子供の91.6%が，まわりの人から大切にされていると肯定的な回答をしている（ｐ.60 表４－８）。

また，「努力したらできるようになると思う」と認識している子供のうち，授業中に，先生から「すごいね」「がんばっているね」などとほめられたことが「よくある」「ときどきある」と回答した子供の割合が67.5%である（表４－ａ）。

これらのことから，一人一人のよさを認めることによって，主体的な学習態度になり，子供に自己肯定感や自己有用感をもたせることにつながるものと考えられる。そこで，教師は，「授業に対する満足度」と「認められる経験」の好循環を図り，自分自身の可能性を信じ，より主体的に粘り強く学習に取り組める子供を育成していきたい。

４　教師は，子供たちの学習に対する意識を高めるために，グループ学習を積極的に取り入れ，学校で学習していることが今後の生活に役立つことを実感させる授業をしましょう

授業中，学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合は，平成 19 年度から比較すると 19.8 ポイント増加しており，子供の学習への意欲が高まってきていることがわかる（p.61 表４－⑨）。

また，今は苦手なものでも，努力したら「できるようになると思う」と回答している割合が 57.1%となっている。平成 19 年度から比較すると増加傾向にあり，半数以上の子供が自己の可能性を信じて努力している様子がわかる（p.62 表４－⑩）。

さらに，学校の学習内容の有用性と学校以外での全ての学習との関連を見ると，今，学校で学習していることが，今後の生活で「役に立つと思う」と回答した子供の 97.4%が，学校以外での勉強や習いごとなどが，社会に出たとき，「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と回答している（p.63 表４－11）。

また，学校の学習方法の有用性と友だちとの関わりの関連を見ると，グループでの調べ学習や話し合い活動などが，学習に「役に立つと思う」と回答した子供の 86.7%が，学校生活の中で友だちから励まされたり，勇気づけられたりすることが「よくある」「ときどきある」と回答している（p.64 表４－12）。

これらのことから，主体的に学習に取り組み，生活にも前向きな子供は，他の場面での学びに対しても意義を感じ，希望をもちながら生活しており，授業中のグループ活動に意義を感じている子供は，友だちとの関係が良好である傾向にあることがわかる。そこで，教師は，授業での学びや，様々な場面での体験一つ一つが今後の生活につながっていることを想像させながら授業を行っていくとともに，グループ活動など，協働的・対話的な学びの場を意図的に設定し，学び続ける意欲を高めていく工夫をしていきたい。

終　　章
子供たちの姿や思いは変わったのか

本章では，章ごとに取り上げた第 15 次・第 16 次・第 17 次共同研究の調査結果との経年比較の中から，特徴的な変化を取り上げ，子供たちの生活や学習の姿（実態）や思い（意識）が，以前と比べてどのように変わったのか，また，今日的な教育課題についてどのように取り組んでいけばよいのかということについて考察します。

１　子供たちの「家庭・地域社会における生活」

家庭や地域社会との関わりを深めていくことで，自己肯定感や学ぶことの楽しさを感じている子供が増えている

過去の調査を経年比較すると，家庭における基本的生活で「元気に生活している」と回答している子供の割合や，家族との関わりで家庭生活が「楽しい」，家族と「よく話をしている」と回答している子供の割合が増えてきており，第15次から第18次の９年間ではいずれも10ポイント前後増えてきている（p. 6 表１－①，p. 8 表１－③，p. 10 表１－⑤）。また，家族からほめられることが「よくある」と回答した子供ほど，学校の中で苦手なものでも「できるようになると思う」と肯定的に回答している割合が高い傾向にある（p. 19 表１－ｂ）。さらに，家族とのコミュニケーションの機会を増やすことは，家族から認められているという自己肯定感を高め，自己の可能性を信じることにもつながっている（p. 11 表１－６）。

地域社会との関わりについては，普段近所の人と「あいさつをしたり，話をしたりしている」と回答している子供の割合は，減少する傾向にある（p. 15 表１－⑩）。また，平成25年度まで増加傾向が見られた地域の行事や活動に「よく参加している」と回答している割合が，平成28年度は若干減少している（p. 16 表１－⑪）。一方，地域の活動によく参加している子供ほど，地域の人から学ぶことの楽しさについて肯定的に回答している割合は高く，地域の人との関わりを肯定的に受け止めていることがわかる（p. 19 表１－ｃ）。

これらのことから，家庭では，自己肯定感を高めるために子供とのコミュニケーションを図る機会や認め励ます言葉をかける機会を増やし，気軽に子供が相談できる雰囲気をつくっていくことが大切である。また，地域社会では，子供の地域活動への参加の機会を更に増やすことで，学ぶ楽しさを味わわせることが大切である。

２　子供たちの「家庭・地域社会における学習」

主体的に家庭学習をしている子供や地域の人から学ぶ機会がある子供が増えており，その子供は，学校以外での全ての学習に有用性を感じ，自己有用感が高い傾向にある

過去の調査を経年比較すると，家庭学習をほとんどしない割合は減少し，主体的に家庭学習に取り組んでいる割合は増加している（p. 21 表２－①，p. 23 表２－③）。また，家庭学習における情報機器を利

用する割合は，約３倍に増加している（p.24 表２－④）。さらに，家庭学習を「必要だと思う」と回答している割合も増加しており，家庭学習を「必要だと思う」子供ほど，自己の可能性を高めると感じている傾向にある（p.25 表２－⑤，p.25 表２－５）。

次に，地域の人から学ぶ機会が「よくある」，家庭学習において家の人からアドバイスを「よくしてもらう」と回答している子供は，学校以外での全ての学習に有用性を感じる割合が高くなっている（p.22 表２－２，p.30 表２－10）。しかし，家庭学習のことで，家の人からアドバイスを「よくしてもらう」「ときどきしてもらう」と回答している子供の割合については減少している（p.22 表２－②）。また，地域の施設や人材から学ぶ機会の多い子供は，家庭学習における主体性や，学校以外での全ての学習で育まれる自己有用感が高い傾向にある（p.29 表２－９，p.30 表２－10）。

これらのことから，子供の主体性と自己有用感を高めるためには，家庭学習において家の人と関わる機会を増やしたり，学校・家庭・地域社会が連携を密にし，連続性のある学びの機会をつくったりすることが大切である。

３　子供たちの「学校における生活」

誰かの役に立ったりまわりの人から大切にされていると思ったりする経験や教師からの称賛によって，自己有用感，自己肯定感が高まり，学校が楽しいと感じる子供が増えている

過去の調査を経年比較すると，学校や学年の行事への参画意識について「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合が大きく増加している（p.47 表３－⑪）。学校生活の中で，誰かの役に立ったと思うときがある子供ほど，学校生活の中でまわりの人から大切にされていると感じている（p.48 表３－12）。また，行事への参画意識をもつ子供は自己有用感が高い傾向にある（p.47 表３－11）。さらに，自己肯定感の高い子供は学校生活が楽しいと感じている（p.49 表３－13）。

自己解決については，学校生活の中で困ったことが起きたとき，まわりの人に相談する子供ほど，友だちを支えた経験が多く（p.45 表３－９），学校生活の中で友だちを支えたり，支えられたりする経験が多い子供ほど，教師から認められた経験が多い傾向にある（p.41 表３－５，p.42　表３－６）。また，他者理解（行動面）については，役割に責任をもって取り組んでいる子供ほど，自分とは違う友だちの考えや意見を聞いている割合が高い（p.50 表３－ａ）。

これらのことから，自己有用感や自己肯定感を高め子供が学校生活を楽しく過ごすためには，教師は，子供がお互いの考えや意見を大切にしながら役割に責任をもって取り組むことができる場面を増やし，子供が友だちと協力している姿を称賛することが大切である。

４　子供たちの「学校における学習」

子供の発言や発表を尊重する授業が行われることで，授業に対する満足度や理解度を高める子供が増えている

過去の調査を経年比較すると，第 15 次から第 18 次の９年間では，授業に対する理解度は約 17 ポイント増加しており，授業に対する満足度は約 15 ポイント増加している（p.53　表４－①，p.54 表

４－②)。また，発言や発表などを教師が取り上げながら進める授業が「よいと思う」と回答した子供の割合も増加している（p.55 表４－③)。さらに，学習の中で，苦手なものでも努力したら「できるようになると思う」と回答した子供の割合も増加傾向にある（p.62 表４－⑩)。

教師が工夫してわかりやすく教えていると思う子供ほど，学校の授業が「楽しい」と感じており，授業が「楽しい」と回答した子供ほど授業中に「わかった」「できた」と思う傾向にある（p.54 表４－２，p.56 表４－４)。そして，授業に進んで取り組んでいる子供ほど，教師に認められた経験が多いと回答する傾向にある（p.61 表４－９)。また，教師に認められた経験が多い子供ほど，学習の満足度が高い傾向にある（p.59 表４－７)。さらに，グループでの調べ学習や話し合い活動などが学習に役に立つと回答した子供ほど，友だちに認められた経験が多い傾向にある（p.64 表４－12)。

これらのことから，子供が主体的に学習に取り組み，満足度や理解度を高めるためには，教師は子供の発言や発表を尊重し，一人一人を認めることが大切である。また，グループでの調べ学習や話し合い活動などを積極的に取り入れ，互いを認め合い自己有用感を高められるような授業を行うことが大切である。

５　終わりに

本次の調査研究は，指定都市に暮らす子供たちの姿を，これからの変化の激しい時代を視野に入れ，過去の共同研究の成果や調査結果との経年比較を踏まえて捉えるようにした。

今回は，新学習指導要領の公示が迫った平成 28 年度時点での調査である。調査結果によると，「学校が楽しい」「授業がわかる」「授業が楽しい」など，肯定的に回答した子供の割合が増えている。これらのことは，一人一人を大切にした指導や授業改善など，学校現場における不断の努力が成果として表れているといえる。一方で，情報化やグローバル化といった社会的変化が，予測を超えて進展するようになってきており，子供たちの生活においてもこれまでにない変化が表れ，新たな課題が生じてきている。今後，このような予測困難な時代を生き抜いていく子供たちを，学校，家庭，地域社会が，連携・協働しながら育んでいく重要性が一層増してくるものと推測される。

このように，本調査を通してこれまでの学校教育の成果と今日的な教育課題の実状を明らかにすることができたと考える。今後の教育活動の改善のための資料の一つとして，活用していただきたい。

最後に，本次共同研究にあたり，多大なご支援とご指導をいただいた加盟機関の所長をはじめ，調査に協力していただいた学校，各教育研究所，教育センターの皆様，並びに福岡教育大学准教授生田淳一先生に感謝申し上げます。

資　料

指定都市教育研究所連盟
第 18 次共同研究

小・中学生のアンケート調査

平成28年　月

このアンケートは，20の政令指定都市に住む子どもたちが，生活の中で感じたり考えたりしていることを知るために行うもので，成績には関係がありません。一人一人のことを調べるためのものでもありません。あなたのありのままの気持ちや考えを答えてください。

ア．あなたが住んでいる都市はどこですか。

A 札幌市	B 仙台市	C さいたま市	D 千葉市	E 川崎市
F 横浜市	G 相模原市	H 新潟市	I 静岡市	J 浜松市
K 名古屋市	L 京都市	M 大阪市	N 堺市	O 神戸市
P 岡山市	Q 広島市	R 北九州市	S 福岡市	T 熊本市

イ．あなたは，何年生ですか。

1　小学4年生　　2　小学6年生　　3　中学2年生

ウ．あなたは，つぎのうちどちらですか。　　1　男　　2　女

答え方　当てはまるものを，**一つだけ選んで**　マークシートの**数字の○を**塗りつぶしてください。

※　ぴったりと当てはまる答えがないときは，いちばん近いものを選んでください。

【調査結果集計表】

《以下，設問別の単純集計結果（%）　**※四捨五入の関係で100%にならない場合があります**》

1　あなたは，元気に生活していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 元気に生活している	78.2	79.1	78.6	75.0	74.1	74.6	65.9	64.8	65.4	73.1	72.8	73.0
② どちらかといえば，元気に生活している	19.0	19.5	19.2	22.3	23.7	23.0	27.9	30.6	29.2	23.0	24.5	23.7
③ どちらかといえば，元気に生活していない	1.9	1.2	1.5	2.2	1.9	2.0	4.7	3.9	4.3	2.9	2.3	2.6
④ 元気に生活していない	1.2	0.2	0.6	0.6	0.3	0.4	1.5	0.7	1.1	1.0	0.4	0.7

2　あなたは，次の日に学校があるとき，だいたい何時ごろまでに寝ますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 午後10時までに寝る	67.2	72.2	69.5	49.2	44.7	47.1	15.0	9.3	12.4	44.0	42.6	43.4
② 午後11時までに寝る	25.6	23.2	24.5	34.7	38.5	36.5	38.8	33.4	36.3	33.0	31.7	32.4
③ 午前0時までに寝る	5.1	3.7	4.4	11.4	12.4	11.9	29.5	36.2	32.6	15.3	17.1	16.1
④ 午前1時までに寝る	1.1	0.6	0.8	3.1	3.0	3.0	10.7	15.6	13.0	4.9	6.2	5.5
⑤ 午前1時すぎに寝る	1.1	0.4	0.7	1.6	1.4	1.5	5.9	5.4	5.7	2.8	2.4	2.6

3　あなたは，家での生活が楽しいですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 楽しい	73.0	76.9	74.8	70.0	71.6	70.7	55.4	59.5	57.3	66.1	69.5	67.7
② どちらかといえば，楽しい	22.0	19.1	20.7	24.7	23.3	24.0	32.8	31.6	32.2	26.5	24.5	25.6
③ どちらかといえば，楽しくない	3.4	3.1	3.3	4.0	4.0	4.0	8.5	6.6	7.6	5.3	4.5	4.9
④ 楽しくない	1.6	0.9	1.3	1.3	1.1	1.2	3.4	2.3	2.9	2.1	1.4	1.8

4 あなたは，家の人と食事をしていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 朝食も夕食も家の人と食べる	75.5	75.5	75.5	66.4	64.1	65.3	51.1	50.9	51.0	64.4	63.7	64.1
② 朝食だけ家の人と食べる	3.5	2.5	3.0	4.3	3.8	4.1	3.8	3.0	3.5	3.9	3.1	3.5
③ 夕食だけ家の人と食べる	18.1	20.0	19.0	25.7	28.9	27.2	36.2	39.3	37.6	26.6	29.3	27.9
④ ほとんど一人で食べる	3.0	1.9	2.5	3.5	3.2	3.4	8.9	6.8	7.9	5.1	3.9	4.6

5 あなたは，家の人と，毎日の生活のことや学校のことなどについて話をしていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よく話をしている	41.1	54.6	47.4	38.9	55.3	46.7	26.3	47.2	36.0	35.5	52.5	43.4
② ときどき話をしている	41.2	37.6	39.5	40.4	34.7	37.7	43.4	37.6	40.7	41.7	36.6	39.3
③ あまり話をしていない	13.4	6.4	10.1	15.6	8.2	12.1	22.0	11.7	17.2	17.0	8.7	13.1
④ まったく話をしていない	4.3	1.4	3.0	5.1	1.8	3.5	8.3	3.5	6.1	5.9	2.2	4.2

6 あなたは，困ったり悩んだりしたときに，家の人と相談しますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よく相談する	37.1	46.6	41.6	26.5	34.4	30.2	14.9	24.0	19.1	26.3	35.2	30.4
② ときどき相談する	34.9	34.1	34.5	37.0	38.5	37.7	32.9	38.1	35.3	34.9	36.9	35.8
③ あまり相談しない	18.1	14.3	16.4	24.0	21.1	22.6	33.9	27.0	30.7	25.3	20.7	23.1
④ まったく相談しない	9.9	5.0	7.6	12.4	6.1	9.4	18.3	10.9	14.9	13.5	7.3	10.6

7 あなたは，家にいてホッとする（落ち着く）ときがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	59.9	65.7	62.6	58.4	64.1	61.1	55.0	60.0	57.3	57.8	63.3	60.4
② ときどきある	27.9	27.2	27.6	31.3	28.8	30.1	32.6	31.8	32.2	30.6	29.2	29.9
③ あまりない	8.8	5.6	7.3	8.0	6.1	7.1	9.7	6.7	8.3	8.8	6.1	7.5
④ まったくない	3.4	1.5	2.5	2.3	1.1	1.7	2.7	1.6	2.2	2.8	1.4	2.1

8 あなたは，家の人から，「がんばったね」とか「よくやったね」など，ほめられることがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	46.2	54.6	50.1	40.0	45.9	42.8	22.5	29.0	25.5	36.3	43.4	39.6
② ときどきある	36.6	35.2	36.0	43.1	41.1	42.1	48.6	48.1	48.4	42.7	41.4	42.1
③ あまりない	12.3	8.1	10.3	13.0	10.6	11.8	21.5	18.4	20.1	15.5	12.2	14.0
④ まったくない	4.9	2.1	3.6	4.0	2.4	3.3	7.5	4.5	6.1	5.4	3.0	4.3

9 あなたは，友だちに連絡や相談事など伝えたいことがあるとき，どのような方法で伝えることが多いですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 直接話をする	74.7	75.7	75.2	68.0	63.9	66.1	45.5	50.2	47.7	62.8	63.5	63.1
② 電話で話をする	19.2	15.7	17.6	21.8	16.2	19.2	15.5	7.3	11.7	18.9	13.2	16.2
③ 紙に書いて渡す	2.0	3.0	2.5	1.3	2.2	1.7	0.7	1.2	0.9	1.3	2.1	1.7
④ メールなどで伝える	4.0	5.6	4.8	8.9	17.7	13.1	38.3	41.2	39.6	16.9	21.2	18.9

10 あなたは，普段近所の人とあいさつをしたり，話をしたりしていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① あいさつをしたり，話をしたりしている	44.8	51.7	48.0	36.2	40.3	38.1	24.0	26.9	25.3	35.1	39.8	37.3
② あいさつだけはしている	44.3	42.2	43.3	52.9	52.2	52.6	60.1	61.8	60.9	52.4	51.9	52.2
③ 近所の人を知っているが，何もしていない	7.0	4.0	5.6	7.8	5.6	6.8	10.6	7.8	9.3	8.4	5.8	7.2
④ 近所の人を知らない	3.9	2.1	3.1	3.1	1.9	2.5	5.3	3.6	4.5	4.1	2.5	3.3

11 あなたは，地域の行事や活動（お祭り，レクリエーション，スポーツ，奉仕活動など）に参加していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よく参加している	44.2	41.0	42.7	35.9	31.7	33.9	21.2	17.5	19.5	33.8	30.3	32.1
② ときどき参加している	31.7	36.9	34.2	36.1	42.1	38.9	38.3	44.2	41.0	35.4	41.0	38.0
③ あまり参加していない	15.5	15.1	15.3	18.7	19.4	19.0	25.4	26.8	26.1	19.8	20.3	20.1
④ まったく参加していない	8.6	6.9	7.8	9.4	6.9	8.2	15.1	11.5	13.5	11.0	8.4	9.8

12 あなたは，学校以外で外国の人とあいさつをしたり，話をしたりすることがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	15.2	13.9	14.6	12.3	10.7	11.5	7.0	6.4	6.7	11.5	10.4	11.0
② ときどきある	17.7	18.2	17.9	18.1	15.6	16.9	12.6	11.5	12.1	16.1	15.2	15.7
③ あまりない	15.4	17.5	16.4	19.0	19.3	19.2	19.7	18.9	19.4	18.1	18.6	18.3
④ まったくない	15.9	15.3	15.6	13.1	12.1	12.7	14.7	11.7	13.3	14.6	13.1	13.9
⑤ まわりに外国の人がいない	35.7	35.1	35.5	37.5	42.3	39.8	46.0	51.4	48.5	39.7	42.8	41.2

13 あなたは，学校のある日，だいたいどのくらい家で勉強していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 2時間以上	15.0	16.6	15.8	16.9	18.3	17.6	10.0	10.3	10.1	14.0	15.2	14.6
② 1時間以上～2時間より少ない	30.1	34.5	32.2	32.8	40.3	36.4	26.7	31.5	28.9	29.9	35.5	32.5
③ 30 分以上～1時間より少ない	35.4	35.8	35.6	32.5	29.0	30.8	28.6	28.8	28.7	32.2	31.2	31.7
④ 30 分より少ない	13.6	10.1	12.0	12.1	8.8	10.6	14.9	13.1	14.1	13.6	10.6	12.2
⑤ ほとんどしない	5.9	2.9	4.5	5.6	3.5	4.6	19.8	16.3	18.2	10.4	7.4	9.0

14 あなたは，家庭学習のことで，家の人からアドバイスをしてもらいますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくしてもらう	36.0	40.8	38.3	24.1	24.8	24.4	14.1	15.3	14.6	24.8	27.2	25.9
② ときどきしてもらう	36.9	38.1	37.5	39.4	42.5	40.9	34.8	35.8	35.3	37.1	38.8	37.9
③ あまりしてもらわない	16.4	14.1	15.3	23.2	22.6	22.9	29.4	31.2	30.2	23.0	22.5	22.7
④ まったくしてもらわない	10.7	6.9	8.9	13.3	10.1	11.8	21.6	17.8	19.9	15.2	11.5	13.5

15 あなたは，学校や学習塾（家庭教師を含む）の宿題以外にも自分で考えて勉強していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくしている	26.7	30.0	28.2	26.2	28.5	27.3	15.9	14.5	15.3	23.0	24.5	23.7
② ときどきしている	32.2	39.7	35.7	31.8	36.6	34.1	32.4	36.9	34.5	32.1	37.7	34.8
③ あまりしていない	22.5	22.1	22.3	24.6	24.4	24.5	30.1	30.7	30.4	25.7	25.6	25.7
④ まったくしていない	18.7	8.3	13.8	17.5	10.4	14.2	21.6	17.9	19.9	19.2	12.1	15.9

16 あなたは，家で勉強するとき，情報機器（パソコン，携帯電話，スマートフォン，ゲーム機など）を使っていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よく使う	17.6	12.9	15.4	23.1	20.8	22.0	28.3	27.4	27.9	23.0	20.3	21.7
② ときどき使う	18.0	20.7	19.2	25.6	30.6	28.0	29.7	34.7	32.0	24.4	28.6	26.3
③ あまり使わない	19.1	23.1	21.0	22.6	25.9	24.2	21.0	23.1	22.0	20.9	24.1	22.4
④ まったく使わない	45.4	43.2	44.4	28.8	22.6	25.9	21.0	14.8	18.1	31.8	27.1	29.6

17 あなたは，家で勉強することは必要だと思いますか

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 必要だと思う	64.5	74.4	69.1	58.7	65.6	62.0	54.7	61.5	57.9	59.3	67.3	63.0
② どちらかといえば必要だと思う	26.8	22.1	24.6	30.3	28.4	29.4	33.6	32.1	32.9	30.2	27.5	28.9
③ どちらかといえば必要だと思わない	5.5	2.3	4.0	6.7	4.4	5.6	6.4	4.2	5.4	6.2	3.6	5.0
④ 必要だと思わない	3.2	1.1	2.3	4.3	1.7	3.1	5.3	2.1	3.8	4.3	1.7	3.0

18 あなたは，家で勉強したことが，学校の授業に役立っていると思いますか。（宿題を含む）

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 役立っていると思う	60.8	67.0	63.7	57.0	61.6	59.2	41.7	43.4	42.5	53.2	57.6	55.3
② どちらかといえば，役立っていると思う	28.3	27.3	27.8	32.6	31.7	32.2	40.7	45.3	42.8	33.8	34.6	34.2
③ どちらかといえば，役立っていると思わない	6.7	4.0	5.4	6.9	5.3	6.1	10.9	8.1	9.6	8.1	5.8	7.0
④ 役立っていると思わない	4.2	1.7	3.0	3.5	1.4	2.5	6.6	3.2	5.1	4.8	2.1	3.5

19 あなたは，週にどのくらい，学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 週に5日以上	8.8	7.9	8.4	8.6	7.2	7.9	4.4	3.4	3.9	7.3	6.2	6.8
② 週に3日～4日	13.8	15.0	14.4	15.1	16.6	15.8	23.6	22.2	23.0	17.5	17.9	17.7
③ 週に1日～2日	29.8	31.2	30.5	33.5	32.0	32.8	36.9	36.5	36.7	33.4	33.2	33.3
④ していない	47.5	45.8	46.7	42.8	44.1	43.4	35.1	37.9	36.4	41.8	42.7	42.2

20 あなたは，学習塾（家庭教師を含む）で勉強することについてどう思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 現在，学習塾で勉強しているし，これからも勉強したい	34.4	39.0	36.5	41.8	42.4	42.1	49.1	50.1	49.5	41.7	43.7	42.7
② 現在，学習塾で勉強していないが，できれば勉強したい	35.8	42.4	38.9	28.3	35.8	31.9	23.1	25.5	24.2	29.1	34.7	31.7
③ 現在，学習塾で勉強しているが，できればやめたい	8.4	4.6	6.6	7.8	5.5	6.7	8.4	6.0	7.3	8.2	5.4	6.9
④ 現在，学習塾で勉強していないし，これからも勉強したいと思わない	21.5	14.1	18.0	22.1	16.3	19.3	19.4	18.4	18.9	21.0	16.2	18.7

21 あなたは，地域の施設（図書館，博物館など）を利用していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくしている	22.2	24.2	23.1	13.5	17.4	15.3	7.1	7.2	7.1	14.3	16.4	15.3
② ときどきしている	33.9	37.3	35.5	30.1	33.8	31.8	21.8	24.4	23.0	28.6	32.0	30.2
③ あまりしていない	25.4	25.6	25.5	32.4	32.1	32.2	33.0	36.8	34.7	30.2	31.4	30.8
④ まったくしていない	18.5	12.9	15.9	24.0	16.8	20.6	38.1	31.7	35.2	26.8	20.3	23.8

22 あなたは，地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶ機会がありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	16.0	16.0	16.0	9.4	9.2	9.3	4.1	3.2	3.7	9.9	9.6	9.7
② ときどきある	28.4	31.3	29.8	25.3	28.0	26.6	13.7	13.6	13.7	22.5	24.5	23.5
③ あまりない	24.8	28.8	26.7	30.7	34.3	32.4	30.5	33.9	32.1	28.7	32.3	30.4
④ まったくない	30.8	23.9	27.6	34.6	28.4	31.7	51.6	49.3	50.5	38.9	33.6	36.4

23 あなたは，地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶことが楽しいですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 楽しい	32.0	39.0	35.3	21.3	24.1	22.6	8.3	9.4	8.8	20.6	24.4	22.4
② どちらかといえば，楽しい	25.1	24.9	25.0	25.2	27.0	26.0	17.2	19.5	18.3	22.5	23.9	23.2
③ どちらかといえば，楽しくない	6.8	4.5	5.7	8.9	6.9	7.9	8.9	6.2	7.6	8.2	5.8	7.1
④ 楽しくない	3.4	1.4	2.4	3.5	2.5	3.0	4.9	2.8	3.9	3.9	2.2	3.1
⑤ 機会がないから，わからない	32.6	30.2	31.5	41.1	39.5	40.4	60.7	62.2	61.4	44.8	43.7	44.2

24 あなたは，学校以外での勉強や習いごとなどが，社会に出たとき，役に立つと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 役に立つと思う	66.4	73.3	69.6	69.1	69.4	69.2	52.5	54.3	53.3	62.7	65.8	64.2
② どちらかといえば，役に立つと思う	24.2	21.0	22.7	23.7	25.7	24.7	34.1	37.0	35.5	27.3	27.8	27.5
③ どちらかといえば，役に立つと思わない	5.3	4.0	4.7	4.6	3.7	4.2	8.3	6.4	7.4	6.1	4.7	5.4
④ 役に立つと思わない	4.1	1.8	3.0	2.5	1.2	1.9	5.0	2.3	3.7	3.9	1.7	2.9

25 あなたは，学校以外での勉強や習いごとで学んだことが誰かの役に立ったと思うときがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	27.1	28.0	27.5	25.3	22.6	24.0	18.8	16.3	17.6	23.8	22.4	23.1
② ときどきある	32.5	37.6	34.9	33.8	40.9	37.2	35.0	39.9	37.3	33.8	39.5	36.4
③ あまりない	18.7	19.3	19.0	20.8	21.2	21.0	24.2	24.8	24.5	21.2	21.7	21.4
④ まったくない	7.8	5.2	6.6	6.2	4.7	5.5	6.4	4.8	5.7	6.8	4.9	5.9
⑤ 機会がないから，わからない	13.9	10.0	12.1	14.0	10.5	12.3	15.6	14.2	15.0	14.5	11.6	13.1

26 あなたは，学校生活が楽しいですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 楽しい	61.5	67.3	64.2	59.6	63.6	61.5	54.0	55.0	54.5	58.4	62.1	60.1
② どちらかといえば，楽しい	28.8	26.2	27.6	30.4	28.4	29.5	33.1	32.7	32.9	30.7	29.0	29.9
③ どちらかといえば，楽しくない	6.2	4.7	5.5	6.7	5.8	6.3	8.3	8.4	8.4	7.1	6.3	6.7
④ 楽しくない	3.5	1.8	2.7	3.2	2.2	2.7	4.6	3.9	4.3	3.8	2.6	3.2

27 あなたは，学校でのきまりを守っていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 守っている	38.9	56.5	47.2	32.0	44.8	38.0	49.0	58.3	53.3	39.9	53.1	46.1
② どちらかといえば，守っている	48.5	39.2	44.1	53.2	48.6	51.0	42.6	37.9	40.4	48.1	42.0	45.3
③ どちらかといえば，守っていない	10.6	4.0	7.5	12.7	6.0	9.6	6.8	3.3	5.2	10.1	4.4	7.4
④ 守っていない	1.9	0.3	1.2	2.1	0.6	1.4	1.6	0.5	1.1	1.9	0.5	1.2

28 あなたは，そうじ道具など，みんなが使うものを大切にあつかっていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 大切にあつかっている	65.8	83.8	74.3	58.2	73.0	65.2	61.9	75.6	68.2	61.9	77.5	69.2
② どちらかといえば，大切にあつかっている	29.4	15.1	22.7	36.1	25.2	31.0	31.8	22.7	27.6	32.5	21.0	27.1
③ どちらかといえば，大切にあつかっていない	3.8	0.9	2.5	4.9	1.6	3.3	5.2	1.3	3.4	4.6	1.3	3.0
④ 大切にあつかっていない	0.9	0.2	0.6	0.9	0.2	0.6	1.1	0.4	0.8	1.0	0.3	0.6

29 あなたは，学級の当番やそうじなどの活動に責任をもって取り組んでいますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 責任をもって取り組んでいる	48.1	64.1	55.6	45.8	57.7	51.4	45.0	55.9	50.1	46.3	59.3	52.4
② どちらかといえば，責任をもって取り組んでいる	41.1	32.3	37.0	43.4	38.2	40.9	42.1	38.3	40.4	42.2	36.2	39.4
③ どちらかといえば，責任をもって取り組んでいない	8.3	3.1	5.8	9.1	3.7	6.5	9.9	4.7	7.5	9.1	3.8	6.6
④ 責任をもって取り組んでいない	2.4	0.6	1.6	1.6	0.4	1.1	2.9	1.1	2.1	2.3	0.7	1.6

30 あなたは，学校生活の中で，友だちから励まされたり，勇気づけられたりすることがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	34.3	44.0	38.9	32.5	43.7	37.8	26.5	45.7	35.4	31.1	44.5	37.4
② ときどきある	38.4	39.6	39.0	42.3	42.2	42.2	47.8	41.2	44.8	42.8	41.0	42.0
③ あまりない	18.0	12.9	15.6	18.3	11.6	15.2	18.6	10.5	14.9	18.3	11.7	15.2
④ まったくない	9.3	3.5	6.6	6.9	2.4	4.8	7.1	2.6	5.0	7.8	2.8	5.4

31 あなたは，学校生活の中で，友だちを励ましたり，勇気づけたりすることがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	33.0	44.4	38.4	26.6	37.3	31.6	23.2	36.8	29.5	27.6	39.5	33.2
② ときどきある	42.2	42.9	42.5	45.5	48.5	46.9	46.1	50.0	47.9	44.6	47.1	45.8
③ あまりない	17.2	10.8	14.2	21.1	12.4	17.0	23.3	10.9	17.6	20.5	11.4	16.2
④ まったくない	7.6	1.9	4.9	6.8	1.8	4.4	7.5	2.3	5.1	7.3	2.0	4.8

32 あなたは，学校生活の中で，いろいろな友だちの考えや意見を聞くことは大切だと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 大切だと思う	73.3	83.1	77.9	68.3	75.8	71.8	58.2	71.0	64.1	66.6	76.7	71.3
② どちらかといえば，大切だと思う	22.7	15.3	19.3	27.4	21.9	24.8	33.9	25.8	30.2	28.0	20.9	24.7
③ どちらかといえば，大切だと思わない	2.7	1.2	2.0	3.1	1.8	2.5	5.5	2.1	3.9	3.8	1.7	2.8
④ 大切だと思わない	1.3	0.4	0.8	1.3	0.6	1.0	2.4	1.1	1.8	1.6	0.7	1.2

33 あなたは，学校生活の中で，自分とはちがう友だちの考えや意見を聞いていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 聞いている	58.5	70.9	64.4	56.6	65.1	60.6	46.7	57.1	51.5	54.0	64.5	58.9
② どちらかといえば，聞いている	32.9	26.1	29.7	35.8	31.2	33.6	41.7	37.4	39.7	36.8	31.5	34.3
③ どちらかといえば，聞いていない	6.2	2.2	4.4	5.8	3.2	4.6	8.4	4.2	6.5	6.8	3.2	5.1
④ 聞いていない	2.3	0.8	1.6	1.7	0.5	1.2	3.2	1.3	2.3	2.4	0.9	1.7

34 あなたは，学校生活の中で困ったことが起きたとき，まわりの人に相談しますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 相談する	34.8	47.1	40.6	32.0	47.0	39.1	27.4	43.1	34.7	31.4	45.8	38.2
② ときどき使う	35.6	32.9	34.4	35.5	33.1	34.3	35.5	33.9	34.8	35.5	33.3	34.5
③ あまり相談しない	18.4	14.5	16.6	21.5	15.2	18.5	23.2	15.8	19.8	21.0	15.2	18.3
④ 相談しない	11.2	5.5	8.5	11.1	4.7	8.1	13.9	7.1	10.7	12.0	5.7	9.1

35 あなたは，担任の先生とどのくらい話をしますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よく話をする	33.0	40.5	36.5	28.7	29.3	29.0	21.5	20.5	21.1	27.8	30.3	28.9
② ときどき話をする	44.6	43.4	44.0	48.9	50.3	49.6	47.7	49.4	48.5	47.1	47.7	47.4
③ あまり話をしない	18.6	14.6	16.7	19.5	18.1	18.8	24.7	26.0	25.3	20.9	19.5	20.2
④ まったく話をしない	3.9	1.5	2.8	2.9	2.3	2.6	6.0	4.0	5.1	4.3	2.6	3.5

36 あなたは，学校や学年の行事に，進んで取り組んでいると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 進んで取り組んでいると思う	45.9	54.7	50.1	41.5	45.9	43.5	35.8	44.5	39.8	41.1	48.4	44.5
② どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	40.6	38.4	39.6	43.7	44.2	43.9	41.3	42.4	41.8	41.9	41.7	41.8
③ どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	10.1	5.6	8.0	11.6	8.3	10.0	16.3	10.7	13.7	12.7	8.2	10.6
④ 進んで取り組んでいると思わない	3.3	1.2	2.3	3.3	1.6	2.5	6.5	2.4	4.6	4.4	1.7	3.1

37 あなたは，学校生活の中で，誰かの役に立ったと思うときがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	25.0	28.1	26.5	22.9	21.7	22.3	16.9	13.4	15.3	21.6	21.2	21.4
② ときどきある	44.8	49.4	47.0	46.4	52.9	49.4	45.9	52.5	49.0	45.7	51.6	48.5
③ あまりない	21.1	18.1	19.7	23.9	21.8	22.9	27.7	28.7	28.2	24.2	22.8	23.5
④ まったくない	9.1	4.4	6.9	6.8	3.6	5.3	9.4	5.4	7.6	8.4	4.4	6.6

38 あなたは，学校生活の中で，まわりの人から大切にされていると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 大切にされていると思う	30.3	35.9	32.9	24.0	27.8	25.8	19.3	19.9	19.6	24.6	28.0	26.2
② どちらかといえば，大切にされていると思う	42.8	45.4	44.0	48.7	51.8	50.2	50.4	56.2	53.1	47.3	51.1	49.0
③ どちらかといえば，大切にされていると思わない	16.2	13.3	14.8	19.2	15.0	17.2	21.1	17.9	19.6	18.8	15.4	17.2
④ 大切にされていると思わない	10.7	5.4	8.2	8.1	5.4	6.8	9.1	6.0	7.7	9.3	5.6	7.6

39 あなたは，学校の授業がわかりますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① わかる	63.2	57.5	60.5	62.7	57.4	60.2	40.9	33.3	37.4	55.7	49.7	52.9
② どちらかといえば，わかる	28.8	34.6	31.5	30.5	34.6	32.4	41.0	47.3	44.0	33.4	38.7	35.9
③ どちらかといえば，わからない	5.9	6.5	6.2	5.0	6.5	5.7	12.6	13.8	13.2	7.8	8.9	8.3
④ わからない	2.0	1.4	1.7	1.8	1.5	1.6	5.5	5.6	5.5	3.1	2.8	2.9

40 あなたは，学校の授業が楽しいですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 楽しい	50.1	56.4	53.1	42.1	41.6	41.9	27.7	22.4	25.2	40.0	40.4	40.2
② どちらかといえば，楽しい	34.4	33.8	34.1	38.7	41.8	40.1	38.3	42.6	40.3	37.1	39.4	38.2
③ どちらかといえば，楽しくない	9.9	7.2	8.7	12.3	12.1	12.2	21.7	24.1	22.8	14.6	14.3	14.5
④ 楽しくない	5.6	2.6	4.2	6.9	4.6	5.8	12.3	10.9	11.6	8.2	5.9	7.1

41 あなたは，みんなの発言や発表などを，先生が取り上げながら進める授業をよいと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よいと思う	63.1	70.7	66.7	60.8	63.0	61.8	51.4	47.6	49.6	58.5	60.6	59.5
② どちらかといえば，よいと思う	29.2	24.5	27.0	30.7	31.0	30.8	35.9	40.8	38.2	31.9	32.0	31.9
③ どちらかといえば，よいと思わない	5.3	3.3	4.3	5.9	4.3	5.1	8.3	8.4	8.3	6.5	5.3	5.9
④ よいと思わない	2.4	1.5	2.0	2.5	1.8	2.2	4.5	3.2	3.9	3.2	2.1	2.7

42 あなたは，先生が，工夫してわかりやすく教えていると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 教えていると思う	71.6	76.3	73.8	63.4	64.7	64.0	42.9	38.8	41.0	59.4	60.3	59.8
② どちらかといえば，教えていると思う	22.7	19.8	21.3	29.4	28.3	28.9	43.1	47.9	45.3	31.7	31.8	31.7
③ どちらかといえば，教えていると思わない	4.0	2.9	3.4	5.3	5.2	5.3	9.4	10.2	9.8	6.2	6.0	6.1
④ 教えていると思わない	1.8	1.0	1.4	1.9	1.8	1.8	4.6	3.1	3.9	2.7	1.9	2.4

43 あなたの学級は，進んで 授業に取り組んでいると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 取り組んでいると思う	47.7	53.4	50.4	43.9	45.6	44.7	29.2	25.0	27.3	40.3	41.6	40.9
② どちらかといえば，取り組んでいると思う	39.8	39.8	39.8	43.2	43.8	43.5	47.6	51.6	49.4	43.5	44.9	44.2
③ どちらかといえば，取り組んでいると思わない	9.6	5.4	7.6	10.1	8.8	9.5	17.7	18.9	18.3	12.4	10.9	11.7
④ 取り組んでいると思わない	2.9	1.4	2.2	2.7	1.8	2.3	5.5	4.6	5.1	3.7	2.6	3.2

44 あなたは，授業中に，「わかった」「できた」と思うことがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	62.3	63.6	62.9	62.4	59.4	61.0	46.7	40.4	43.8	57.2	54.7	56.0
② ときどきある	28.9	30.6	29.7	29.9	34.2	31.9	39.7	47.5	43.3	32.8	37.2	34.9
③ あまりない	6.4	4.8	5.6	5.7	5.3	5.5	9.7	9.7	9.7	7.2	6.5	6.9
④ まったくない	2.4	1.1	1.8	2.0	1.1	1.6	3.9	2.4	3.2	2.8	1.5	2.2

45 あなたは，授業中に，先生から「すごいね」「がんばっているね」などとほめられたことがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	21.1	21.0	21.1	18.4	14.4	16.5	11.7	7.4	9.7	17.1	14.4	15.8
② ときどきある	42.7	46.1	44.3	42.8	44.5	43.6	37.2	35.5	36.4	40.9	42.1	41.5
③ あまりない	25.1	25.5	25.3	27.4	32.3	29.7	35.0	42.6	38.5	29.1	33.3	31.1
④ まったくない	11.1	7.4	9.4	11.4	8.8	10.2	16.1	14.5	15.4	12.9	10.2	11.6

46 あなたは，授業中に，友だちから「すごいね」「がんばっているね」などとほめられたことがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① よくある	19.3	25.2	22.1	18.6	19.8	19.2	12.3	10.7	11.6	16.8	18.7	17.7
② ときどきある	33.5	37.8	35.5	34.7	43.5	38.9	34.9	41.7	38.0	34.4	41.0	37.5
③ あまりない	29.3	26.6	28.0	31.3	29.0	30.2	35.0	35.2	35.1	31.9	30.2	31.1
④ まったくない	17.9	10.3	14.4	15.4	7.6	11.7	17.8	12.4	15.3	17.0	10.1	13.8

47 あなたは，授業中，学習に進んで取り組んでいると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 進んで取り組んでいると思う	42.6	49.7	46.0	38.6	40.3	39.4	29.6	29.2	29.4	37.0	39.9	38.4
② どちらかといえば，進んで取り組んでいると思う	42.9	41.6	42.3	45.1	47.1	46.1	45.7	51.6	48.4	44.6	46.7	45.6
③ どちらかといえば，進んで取り組んでいると思わない	10.9	6.9	9.0	12.5	10.4	11.5	18.3	14.7	16.6	13.8	10.6	12.3
④ 進んで取り組んでいると思わない	3.5	1.7	2.7	3.8	2.2	3.0	6.4	4.5	5.5	4.6	2.8	3.7

48 あなたは，学校の学習の中で，今は苦手なものでも，努力したらできるようになると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① できるようになると思う	63.8	71.9	67.6	57.4	59.5	58.4	45.3	44.7	45.0	55.6	58.9	57.1
② どちらかといえば，できるようになると思う	25.4	22.1	23.8	30.6	30.6	30.6	35.3	40.4	37.7	30.4	30.9	30.6
③ どちらかといえば，できるようになると思わない	7.2	4.0	5.7	8.1	7.4	7.7	12.7	10.6	11.8	9.3	7.3	8.4
④ できるようになると思わない	3.6	2.0	2.9	3.9	2.5	3.3	6.6	4.3	5.5	4.7	2.9	3.9

49 あなたは，今，学校で学習していることが，今後の生活に役に立つと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 役に立つと思う	68.7	76.9	72.5	67.3	67.0	67.1	46.7	43.6	45.3	61.0	62.8	61.8
② どちらかといえば，役に立つと思う	24.1	19.3	21.9	24.9	26.8	25.8	35.0	39.4	37.0	28.0	28.3	28.1
③ どちらかといえば，役に立つと思わない	5.0	2.7	3.9	5.3	4.7	5.0	12.1	12.5	12.3	7.4	6.5	7.0
④ 役に立つと思わない	2.2	1.0	1.7	2.5	1.6	2.1	6.2	4.6	5.5	3.6	2.4	3.0

50 あなたは，グループでの調べ学習や話し合い活動などが，学習に役に立つと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
① 役に立つと思う	60.1	68.9	64.2	59.7	60.9	60.2	41.4	40.4	41.0	53.8	57.0	55.3
② どちらかといえば，役に立つと思う	29.4	25.2	27.4	30.4	31.5	30.9	38.6	42.9	40.6	32.7	33.1	32.9
③ どちらかといえば，役に立つと思わない	6.8	4.1	5.5	6.4	5.4	5.9	12.6	11.6	12.1	8.6	7.0	7.8
④ 役に立つと思わない	3.8	1.8	2.8	3.5	2.2	2.9	7.5	5.1	6.4	4.9	3.0	4.0

指定都市教育研究所連盟　第１８次共同研究担当者

札幌市教育センター ……〔第４章担当〕

村岡（むらおか）　美千世（みちよ）　中村（なかむら）　隆城（たかき）　加世田（かせだ）　一憲（かずのり）
堀口（ほりぐち）　基一（きいち）　石井（いしい）　貴史（たかし）

仙台市教育センター ……〔第４章担当〕

坂本（さかもと）　新太郎（しんたろう）　木村（きむら）　昌宏（まさひろ）　似内（にたない）　朋子（ともこ）
髙橋（たかはし）　彰吾（しょうご）　黒川（くろかわ）　利香（りか）

さいたま市立教育研究所 ……〔第４章担当〕

木村（きむら）　貴哉（たかや）（平成 29 年度副委員長）　財部（たからべ）　幸樹（こうき）

千葉市教育センター ……〔第４章担当〕

林（はやし）　圭央理（かおり）（平成 29 年度委員長）　森（もり）　美香（みか）
久保田（くぼた）　美和（みわ）（平成 28 年度副委員長）　古川（ふるかわ）　健志（けんじ）（平成 27 年度副委員長）

川崎市総合教育センター ……〔第１章担当〕

望月（もちづき）　隆（たかし）　中尾（なかお）　由美子（ゆみこ）　島田（しまだ）　道雄（みちお）（平成 28 年度委員長）

横浜市教育センター ……〔第１章担当〕

大谷（おおたに）　英輔（えいすけ）　石川（いしかわ）　博（ひろし）（平成 27 年度委員長）

相模原市立総合学習センター ……〔第１章担当〕

寺田（てらだ）　政輝（まさてる）　渡邊（わたなべ）　直展（なおひろ）

新潟市立総合教育センター ……〔第４章担当〕

稲葉（いなば）　康宣（やすのり）　山本（やまもと）　政義（まさよし）　小林（こばやし）　淳一（じゅんいち）

静岡市教育センター ……〔第１章担当〕

柴田（しばた）　和男（かずお）　榎本（えのもと）　義男（よしお）

浜松市教育センター ……〔第１章担当〕

松本（まつもと）　孝久（たかひさ）

名古屋市教育センター ……〔第２章担当〕

犬飼（いぬかい）　雅人（まさと）　吉田（よしだ）　和幸（かずゆき）　山本（やまもと）　耕司（こうじ）
加藤（かとう）　兼幸（かねゆき）　梶田（かじた）　勉（つとむ）

京都市総合教育センター ……〔第２章担当〕

米澤（よねざわ）　武史（たけし）　間野（まの）　郁夫（いくお）　居林（いばやし）　晃一郎（こういちろう）

大阪市教育センター ……〔第２章担当〕

石田　かおり　竹内　暁美　古閑　龍太郎

堺市教育センター ……〔第２章担当〕

尾下　英夫　渡邉　耕太

神戸市総合教育センター ……〔第２章担当〕

大藪　二三雄　野方　俊克　坂下　典生

岡山市教育研究研修センター ……〔第３章担当〕

岸本　靖広　西上　慶一

三辻　等（平成 28 年度副委員長）

広島市教育センター ……〔第３章担当〕

野上　真二（平成 29 年度副委員長）　梶江　博史

北谷　一水（平成 29 年度副委員長）

北九州市立教育センター ……〔第３章担当〕

豊田　剛　宮里　祐輔　臼木　祐子

山﨑　一憲　鬼塚　久美子

福岡市教育センター ……〔第３章担当〕

小森　新吾　須佐　健吾

植村　昭博（平成 27 年度副委員長）

熊本市教育センター ……〔第３章担当〕

前田　浩志　東　浩二　冨田　裕

指定都市教育研究所連盟　第 18 次共同研究

変化の激しい社会を生き抜いていく子供たちの姿や思いに迫る

―今日的な教育課題に視点を当てて―

平成３０年３月２日　発行

編集・発行　　指定都市教育研究所連盟

印刷・製本　　文進堂印刷株式会社